2023 年度～2027 年度

江差町地域公共交通計画-資料編



令和５年

江差町

江差町地域公共交通活性化協議会

【江差町地域公共交通計画-資料編　目次】

第１章　計画策定の経過 1
１.１ 江差町地域公共交通活性化協議会の策定体制 1
１.２ 江差町地域公共交通活性化協議会の設置根拠 2
１.３ 江差町地域公共交通活性化協議会の開催状況 4
第２章　民間バス路線乗降調査 35
２.１ 調査概要 36
２.２ 調査結果概要 37
２.３ 調査結果詳細（函館・江差線（610 系統)） 46
２.４ 調査結果詳細（江差・小砂子線（621 系統)） 51
２.５ 調査結果詳細（江差・小砂子線（622 系統)） 55
２.６ 調査結果詳細（桧山海岸線（624 系統)） 58
２.７ 調査結果詳細（江差・木古内線（631 系統)） 63
２.８ 調査結果詳細（江差・木古内線（632 系統)） 68
２.９ 調査結果詳細（館線（641 系統)） 71
２.１０ 調査結果詳細（館線（642 系統)） 74
２.１１ 調査結果詳細（館線（643 系統)） 77
２.１２ 調査結果詳細（館線（644 系統)） 80
２.１３ 調査結果詳細（館線（661 系統)） 83
２.１４ 調査結果詳細（館線（662 系統)） 86
２.１５ 調査結果詳細（木間内線（663 系統)） 89
２.１６ 調査結果詳細（稲見線（651 系統)） 92
２.１７ 調査結果詳細（稲見線（653 系統)） 95
第３章 住民ニーズ把握アンケート調査 98
３.１ 調査概要 99
３.２ 調査結果概要 100
３.３ 調査結果詳細（回答者属性） 102
３.４ 調査結果詳細（生活状況-通勤・通学） 105
３.５ 調査結果詳細（生活状況-買い物） 106
３.６ 調査結果詳細（生活状況-通院） 107
３.７ 調査結果詳細（生活状況-私用） 108
３.８ 調査結果詳細（携帯端末の保有・利用用途） 109
３.９ 調査結果詳細（公共交通に対するニーズ） 110
３.１０ 調査結果詳細（その他自由記述） 115
第４章 北海道江差高等学校への通学状況に関するアンケート調査 117
４.１ 調査概要 119
４.２ 調査結果概要 120
４.３ 調査結果詳細（生徒用-回答者属性） 121

４.４ 調査結果詳細（生徒用-通学状況）.....122
４.５ 調査結果詳細（生徒用-公共交通への要望）.....124
４.６ 調査結果詳細（生徒用-公共交通の利便性改善時の利用頻度）.....125
４.７ 調査結果詳細（保護者用-回答者属性）.....126
４.８ 調査結果詳細（保護者用-通学状況）.....127
４.９ 調査結果詳細（保護者用-公共交通への要望）.....128
４.１０ 調査結果詳細（保護者用-公共交通の利便性改善時の利用頻度）.....130
第５章 町民意見交換会 131
５.１ 町民意見交換会の開催概要 131
５.２ 町民意見交換会結果概要 132
５.３ 町民意見交換会結果詳細 134
第６章 関係者ヒアリング..... 140
６.１ 関係者ヒアリングの概要 141
６.２ 関係者ヒアリング結果のまとめ.....142
６.３ 関係者ヒアリング結果の詳細 143

第１章　計画策定の経過

１.１　江差町地域公共交通活性化協議会の策定体制

江差町地域公共交通計画の策定にあたって、協議を行ってきた「江差町地域公共交通活性化協議会委員名簿」及び「事務局名簿」を整理します。

表　1-1　江差町地域公共交通活性化協議会委員名簿（R5.3.31 現在）

所属	役職	氏名
江差町	副町長	田 畑　　明
函館バス株式会社	常務取締役	内 澤　　博 昭
有限会社桧山ハイヤー	業務部長	菊 池　　純 二
江差町町内会連合会	会長	室 井　　常 雄
江差町老人クラブ連合会	会長	小 笠 原　　求
江差町身体障害者福祉協会	会長	佐々木　啓之
北海道檜山振興局地域創生部地域政策課	課長	山 本　　勝 博
国土交通省北海道運輸局函館運輸支局	首席運輸企画専門官	酒 井　　周 一
社会福祉法人江差町社会福祉協議会	事務局長	中 島　　直 樹
医療法人道南勤労者医療協会ﾍﾙﾊﾟｰｽﾃｰｼｮﾝゆいっこ	提供責任者	奈良　真由美
特定非営利活動法人南桧山在宅福祉支援ゆい	理事長	小 野 寺　　真
函館地区交通運輸産業労働組合協議会	事務局長	大 岩　　伸 一
国土交通省北海道開発局函館開発建設部江差道路事務所	工務課長	山 﨑　　英 雄
北海道渡島総合振興局函館建設管理部事業室道路課	課長	日 下　　和 雅
北海道函館方面江差警察署	交通課長	上 野　　貴 弘
江差町教育委員会	教育委員	加澤　優香子
ハートランドフェリー株式会社	江差支店長兼奥尻支店長	佐 藤　　秀 樹

表　1-2　事務局名簿（R5.3.31 現在）

所属		役職	氏名
事　務　局	江差町まちづくり推進課	課長	尾 山　　徹
		主幹	秋 山　　悦 子
		まちづくり推進係長	明 上　　真 也
		まちづくり推進係長	中 島　　崇 詞
		まちづくり推進係主事	滝 口　　朝
事務局支援	日本データーサービス株式会社	計画調査部主任技師	斉 藤　　優 太
		計画調査部主任技師	中 野　　滉

１.２　江差町地域公共交通活性化協議会の設置根拠

江差町地域公共交通活性化協議会設置要綱

令和３年８月１７日
告 示 第 ６ ５ 号

（目的）
第１条　江差町地域公共交通活性化協議会（以下「協議会」という。）は、道路運送法（昭和２６年法律第１８３号）の規定に基づき、地域における需要に応じた住民生活に必要なバス等の旅客運送の確保その他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要となる事項を協議するとともに、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成１９年法律第５９号）第６条第１項の規定に基づき、地域公共交通計画の策定に関する協議及び実施に係る連絡調整を行うために設置する。

（協議事項）
第２条　協議会は、次に掲げる事項を協議するものとする。
（１）地域の実情に応じた適切な乗合旅客運送の態様及び運賃、料金等に関する事項
（２）市町村運営有償運送の必要性及び運送の区域、旅客から収受する対価に関する事項
（３）公共交通空白地又は福祉有償運送の必要性及び運送の区域、旅客から収受する対価に関する事項
（４）地域公共交通計画の作成及び変更に関する事項
（５）地域公共交通計画の実施に係る連絡調整に関する事項
（６）地域公共交通計画に位置付けられた事業等の実施に関する事項
（７）協議会の運営方法、その他協議会が必要と認める事項

（協議会の構成員等）
第３条　協議会の委員は、次に掲げる者により構成する。
（１）江差町副町長
（２）一般旅客自動車運送事業者が指名する者
（３）利用者又は住民の代表
（４）北海道檜山振興局長又はその指名する者
（５）北海道運輸局函館運輸支局長又はその指名する者
（６）町内において現に（公共交通空白地又は福祉）有償運送を行っている特定非営利活動法人等の団体に所属する者のうちその代表が指名する者
（７）一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体が指名する者
（８）道路管理者又はその指名する者
（９）北海道函館方面江差警察署長又はその指名する者
（10）学識経験者その他協議会が必要と認める者
２　前項の委員の任期は２年とし、再任を妨げない。
３　欠員により新たになった者の任期は、前任者の残任期間とする。
４　委員のうち、行政機関等の職員については、その職にある期間とする。
５　委員は無報酬とする。

（協議会の運営）
第４条　協議会に会長及び監事を置く。
（１）会長　１名
（２）監事　２名
２　会長は、江差町副町長とする。
３　会長は、協議会を代表し会務を統括する。
４　会長に事故があるときは、あらかじめ会長が指名する者がその職務を代理する。

図　1-1　江差町地域公共交通活性化協議会設置要綱（その 1）

５　監事は、委員の中から会長が指名する。
６　監事は、協議会の会計を監査する。
７　委員は、協議会への出席及び議決権の行使を行う。
８　協議会は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
９　委員は、都合により協議会を欠席する場合、その委員の権限を代理する者を出席させることができることとし、あらかじめ会長に代理の者の氏名等を報告するものとする。
10　前項の規定による報告があったときは、欠席する委員の代理の者の出席をもって当該委員の出席とみなす。
11　協議会の議決は、出席した委員の多数決で決し、可否同数のときは、議長の決するところとする。ただし、会長が適当と認めるときは、協議会を開催することなく、書面による議決を行うことができる。
12　協議会は、原則として公開とする。ただし、公開することにより公正かつ円滑な議事運営に支障が生じると会長が判断した場合は、非公開で行うものとする。
13　会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して資料を提出させ、又は協議会への出席を依頼し、助言を求めることができる。

（協議結果の取扱い）
第５条　協議会において協議が整った事項について、関係者はその結果を尊重し当該事項の誠実な実施に努めるものとする。

（守秘義務）
第６条　協議会の委員は、個人情報その他業務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

（分科会）
第７条　第２条各号に掲げる事項について専門的な調査、検討を行うため、必要に応じ協議会に分科会を置くことができる。

（事務局）
第８条　協議会の庶務を処理するため、協議会に事務局を置く。
２　事務局は、江差町まちづくり推進課に置く。
３　事務局に関し必要な事項は、会長が別に定める。

（経費）
第９条　協議会で行う事業等に要する経費は、負担金、補助金及びその他の収入をもって充てる。

（財務に関する事項）
第 10 条　協議会の予算及び決算、現金の出納その他財務に関し必要な事項は、会長が別に定める。

（解散した場合の措置）
第 11 条　協議会が解散した場合には、協議会の収支は、解散の日をもって打ち切り、会長であったものがこれを決算する。

（その他）
第 12 条　この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関して必要な事項は、会長が協議会に諮り定める。

附　則
１　この告示は、令和３年８月１７日から施行する。
２　江差町地域公共交通会議設置要綱（平成 29 年告示第２号）は、廃止する。

図　1-2　江差町地域公共交通活性化協議会設置要綱（その 2）

１.３　江差町地域公共交通活性化協議会の開催状況

（I）令和３年度第１回江差町地域公共交通活性化協議会の開催結果

(I)-i 概要

開催日時	令和３年 11 月 24 日（水）　14 時 00 分～15 時 45 分
開催場所	江差町役場１階 保健センター（集団指導室）
出欠状況	委員：出席 13 名 欠席５名、同行者：３名、事務局：２名、オブザーバー：１名
議事次第	１．開　会 ２．町長挨拶 ３．委員及び事務局の紹介 ４．議　題 （1）江差町地域公共交通活性化協議会（法定協議会）について （2）役員の選出について （3）令和３年度事業計画（案）及び当初予算（案）について （4）江差町における公共交通等の現況について （5）地域公共交通調査事業の実施について （6）ＭａａＳ実装化に向けた実証実験の実施について ５．閉　会

(I)-ii 協議内容

１～２：初回開催のため、照井町長から挨拶、事務局から出席委員報告（13 名）
３：新型コロナウイルス感染症対策のため、委員への委嘱状は机上交付。
事務局から江差町地域公共交通活性化協議会名簿の順に委員及び事務局の紹介。
４（1）：事務局から本協議会の設置に至る経緯等について説明後、經亀委員（前任者）から地域公共交通の活性化及び再生に関する法律等の改正に係る概要について説明。
⇒意見なし
４（2）：役員選出は、設置要綱に基づき会長の指名により選出。
会長　田畑　明（副町長）
監事　中島　直樹（江差町社会福祉協議会 事務局長）
監事　佐藤　秀樹（ハートランドフェリー株式会社 江差支店長）
会長職務代理　尾山　徹（江差町地域公共交通活性化協議会 事務局長）
⇒意見なしで承認
４（3）：事務局から議案資料に基づき説明。
⇒意見なしで承認
４（4）：事務局から議案資料に基づき説明。
⇒意見なし

４（5）：事務局から議案資料に基づき説明。

【質疑・意見交換等】

NPO 法人南桧山在宅福祉支援ゆい：小野寺委員

・　説明のあった調査業務内容のうち、アンケート調査について、来年の 1 月に開催予定としている第 2 回目の協議会に内容の協議等を行うとのことだったが、調査項目の原案は第 2 回目の協議会で議案にかけた上で、実施するということでよろしいか。

事務局

・　次回の協議会に向けて、アンケート調査については調査業務を委託予定としているコンサル業者と相談し、原案を作成することになるが、適宜、調査項目の見直しが必要であることから、本協議会の中で意見を集約した上で、アンケート調査の実施に臨んでまいりたい。

NPO 法人南桧山在宅福祉支援ゆい：小野寺委員

・　事業計画等を見る限り、ギリギリのスケジュールで進んでいるが、もし間に合うのであれば、いきなり会議当日に原案を示すのではなく、ある程度の原型ができた時点で事前に送り込みいただけると、各委員で事前確認し検討することができるので、会議当日の議論につなげられると思う。

・　今回の会議においては、議案資料を事前送付いただき、資料内容に目を通し勉強した上で、会議に臨むことができたので大変助かった。

・　アンケート調査の調査項目についても、ぜひ今回のように「こういった内容でアンケートを取りたいと思っている」といった形で、次回の協議会前に送付していただきたい。

田畑会長

・　いきなり協議会当日に机上配付ということではなく、原案を事前に送り込みさせていただく。

・　その中で、調査項目の追加など構成員の皆様方からの意見を吸い上げていくこととし、第 2 回目の協議会前までに意見を提出されるといったことも想定しているので、いずれにしても事前送付による対応で進められたい。

函館運輸支局：經亀委員（前任者）

・　現況交通実態調査については公共交通事業者へのヒアリング、町民意見交換会については町内会レベルでのヒアリングを行われるということであったが、公共交通の利用者は高齢者や高校生以下の未成年など運転免許を持っていない方々がほとんどで、特に江差高校の場合だと保護者の方々が生徒送迎をしているケースが非常に多いため、こういった方々をいかにしてバスなどの公共交通に結び付けていくかが、今後の公共交通維持には欠かせない。

・　江差高校に対するヒアリングの実施などについても検討が必要なものと考える。

田畑会長

・　直接的な項目として、江差高校の生徒の送迎を保護者が自家用車で行っている状況が多いという部分で、生徒や保護者からの意見も吸い上げるべきといったお話しがあったが、本内容も含めて、今後運輸支局や交通事業者を始めとした、皆様の意見を吸い上げながら、今後の対応を決めてまいりたい。

４（6）：事務局及び「サツドラホールディングス株式会社 社長直轄グループ インキュベーションチームリーダー 杉山英実様」から議案資料に基づき説明。

【質疑・意見交換等】

事務局

・　各自治体において、様々な分野における今後の方向性を総合計画により打ち出しており、当町においては第６次江差町総合計画を昨年の４月に策定したところ。
・　総合計画は当町の最上位計画であるが、ここで掲げる公共交通のあり方については、「誰もが利用しやすい公共交通網を作り上げる」という位置付けをしている。
・　高齢者だけではなく、小さなお子さんや障がい者の方など、様々な方々が今よりも便利になるようなことを当町としては目指していきたい。
・　包括連携協定を締結しているサツドラ様から、公共交通の実証実験等に関する連携についてお話しをいただいたところ。
・　サツドラ様がなぜ当町を選んだかというと、北海道内の各自治体が抱えている高齢化などの課題が当町には集約されており、まずはこの地でそうした課題解決につながる取組みにチャレンジしたいとの思いがあったことから、我々としてもサツドラ様の協力を受けることで、一つでも課題解決へのヒントを得ることが必要と考えている。
・　現在、医療福祉分野や当町のオリジナルカードである江差 EZOCA を活用した経済分野、あるいは教育など様々な分野で協力しながら、諸課題の解決策を模索している。
・　その一つとして、公共交通の分野にチャレンジしていきたいというお話しだったので、当町をフィールドにした実証実験ということであれば、高齢化率が高く、公共交通の不便な豊川町、愛宕町、新栄町といったエリアの住民の皆さんが街中に出るようにするためにはどういった方法が良いのかをサツドラ様と協議を進めてきたところ。
・　サツドラ様としては、今回の実証実験における主たる事業者として北海道経済産業局の事業に公募をし、当町をフィールドにする公共交通の課題解決に向けた実証実験を行う方針であることから、当町としても本日ご説明した地域公共交通調査事業だけでなく、まずは住民の皆さんにどういったものなのかを体験していただく実証実験が必要であると判断したため、今回実施することとなった。

田畑会長

・　当町としては、現在地域公共交通計画の策定に取り組んでおり、今後、実態調査等を行う予定としているところだが、サツドラ様が独自に北海道経済産業局の補助を受けながら、少しでも計画策定に貢献することでできたらということで、今回一定エリアの中で実証実験を行うところ。
・　計画策定と本実証実験はまったく別物ではなく、うまくマッチングしながら計画への反映に繋げていきたいと考える。

（II）令和３年度第２回江差町地域公共交通活性化協議会の開催結果

(II)-i 概要

審議期間	令和４年１月 20 日（木）～1 月 27 日（木）
開催方法	書面協議 ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を考慮し、対面開催から書面開催へ移行した。
議事次第	１．議　題 （1）地域概況の整理及び地域公共交通調査事業に係る実施内容等の確認について （2）町民ニーズ把握調査におけるアンケート調査票（案）の提案について （3）令和３年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域公共交通調査事業）に関する事業評価の実施について （4）江差マース実証実験の実施概要等の説明について

(II)-ii 協議内容

１（1）：意見なし

１（2）：議案内容に対して次のとおり意見あり。

【意見・対応一覧】

各委員より

・　アンケートのボリュームが多く、設問をもう少し公共交通の利用意向等に絞った方が、回答率が上がるのではないか。

・　自由記述欄が小さすぎるような印象があり、また自由記述欄を「江差の公共交通をよりよくするためのご意見を下さい。」等、書き方を変えてはいかがか。

・　ＱＲコードでのインターネット調査も併用してみてはいかがか。

・　函館バスの運行について取り上げる設問が必要ではないか。もしくは、問 14 に加えられないか。現在のバスを利用したくとも、例えば「買い物等利用したい時間にバスが来ない」などの多くの声がある。バス利用者の声を吸い上げるいい機会と考える。

・　問 20 について、料金がどれぐらいかで違うのでは。路線バスより高かったら、使わないとか。

・　アンケートの性別欄で「その他」を追加しており、「回答しない」又は「回答したくない」の方が良いのでは。

・　函館・江差自動車道の木古内ＩＣが令和３年度内に供用を開始する予定と聞いているため、そのことによる住民ニーズに変化が無いか確認した方が良いのでは。

事務局

・　設問数を減らすことで、回答率を向上させることは考えられるが、地域公共交通調査業務を委託している日本データーサービス株式会社様より、町民の公共交通に対するニーズを把握するためには一定の設問数が必要で、また他自治体でも同程度のボリュームで実施し、一般的に十分なデータ分析を行う際に必要とされる回答率 30%以上が確保できている旨申し出があったことから、当初案による整理とする。

・　若年層等の回答率を少しでも向上させるため、郵送による回答のほかインターネットによる回答も併用する。
・　自由記述欄の表現を「江差町の公共交通をより良くするためのご意見などがございましたら、ご記入ください。」に変更する。
・　アンケート調査票の配布時に同封する依頼文に「郵送 or インターネットでのどちらか片方の方法で回答」の一文を添えて、またインターネット回答に必要な情報として「ＵＲＬ」・「整理番号（重複回答による集計を避けるため回答者の識別を図るため）」・「ＱＲコード」を掲載する形でアンケート調査を実施する。
・　本アンケート調査は、運転免許保有状況や公共交通の利用目的など公共交通全般における町民の傾向を分析することに重点を置いており、また設問数の関係から設問の新設が難しいことから、函館バスの運行に関する設問は新設しない形で整理するが、町民による公共交通の運行ダイヤに対しての要望は一定数あることが予想されるため、問 14 に「移動する時間に利用できる交通手段がない」の選択肢を追加する。
・　函館バスを利用するにあたっての町民からのより詳細な意見については、今年度と来年度に実施を予定している「町民意見交換会」において、できる限り吸い上げることで対応する。
・　問 20 は、新たなモビリティや路線バスの利用意向等を問う設問ではなく、スマートフォン等の携帯端末による公共交通の情報提供等を行うサービスを利用したいかどうかを問う設問となっており、ご指摘のあったとおり、設問表現が分かりづらいため、内容を分かりやすくするため「～このサービスを利用したいと思いますか」に表現を変更する。
・　男女による公共交通のニーズなどについての統計的な分析が必要なため、いずれかのカテゴリーを選択していただくべく、性的マイノリティ（ＬＧＢＴなど）に対する考え方を考慮した選択肢として「その他」を設けたが、逆にその表現に対しての反発も想定されることから、「その他」を削除し「回答したくない」に表現を変更する。
・　ご指摘のとおり、木古内ＩＣ開通による移動ニーズの変化が想定されるところであるが、本アンケート調査では公共交通の利用状況等の把握をメインとした設問項目としているため、木古内ＩＣ開通に係る設問の新設は行わない形で整理するが、今年度から来年度に実施を予定している「町民意見交換会」において、移動ニーズに関する議題の一つとして取り挙げることを検討する。

1（3）：議案内容に対して次のとおり意見あり。

【意見・対応一覧】

NPO 法人南桧山在宅福祉支援ゆい：小野寺委員

・　資料６の最後のページ、方針③※の「助成方法や利用枠などの見直しを検討」とは何か。町のこれまでの政策展開の中で、どのような経緯、文脈からでてきたことか。

事務局

・　現在、町の高齢あんしん課所管事業として、６５歳以上の高齢者等を対象とした町内バス利用への運賃半額助成券の交付を行っているが、更なる利用者の利便性向上や利用数の増加などを図るため、紙交付から nimoca カードによる運用への移行、また利用対象範囲の拡大（町内移動分だけでなく町内から町外間の運行分など）など、助成方法の見直しについて原課担当者と協議していることから、本内容を記載させていただいたもの。

・　今後、町民の公共交通に対するニーズなどについて調査し分析をした上で、本内容の検討を庁内で進めていき、内容に応じて本協議会においても協議事項として取り挙げていく。

１（4）：議案内容に対して次のとおり意見あり。

【意見・対応一覧】

各委員より

・　マース事業が本格始動する場合に、既存交通にどのような影響があるか心配をしている。交通空白地域への取り組みは歓迎するが、既存交通への配慮を今後もお願いしたい。

・　オンデマンド型交通サービスの実証実験が実になり郡部にも拡大することを期待したい。

事務局

・　「江差マース」については、町内交通の利便性向上を図るためのもので、将来的な新たな交通モードの導入を目指し今回実証実験を行っているが、既存交通ではカバーしきれない部分を補う役割が求められているものと認識しており、路線バスを基軸とした既存交通との共存・共栄が必要であるため、今回の実証実験の利用実績等から問題点や課題を分析していき、来年度以降においては本協議会を中心に、実装化に向けたよりきめ細やかな協議を進めてまいりたい。

⇒1（1）～（4）の協議事項について、全構成員から承認

（III）令和３年度第３回江差町地域公共交通活性化協議会の開催結果

(III)-i 概要

開催日時	令和４年３月 29 日（火）　13 時 25 分～15 時 40 分
開催場所	江差町役場１階 保健センター（集団指導室）
出欠状況	委　員：出席 12 名 欠席６名、代理出席者：３名、同行者：１名、 事務局：２名、事務局支援：２名、オブザーバー：３名
議事次第	１．開　会 ２．会長挨拶 ３．日本データーサービス株式会社・オブザーバー出席者の紹介 ４．議　題 （1）「江差～奥尻島航路」のダイヤ改正に関する報告について （2）町民ニーズ把握調査の結果報告について （3）町民意見交換会の結果報告について （4）江差マース実証実験の結果報告について （5）江差町地域公共交通活性化協議会分科会（仮称）の設置に関する提案について （6）令和４年度事業計画（案）及び当初予算（案）の提案について ５．閉　会

(III)-ii 協議内容

１～２：田畑会長（副町長）から挨拶、事務局から出席委員報告（12 名）
３：事務局から計画策定支援として参画している「日本データーサービス株式会社様」及びオブザーバー出席者「北海道運輸局 交通政策部 交通企画課長 渋谷武則様」、「北海道運輸局 交通政策部 交通企画課課長補佐 山本裕幸様」、「サツドラホールディングス株式会社 社長直轄グループ インキュベーションチームリーダー 杉山英実様」をそれぞれ紹介。
４（1）：「ハートランドフェリー株式会社江差支店 川尻課長（委員代理者）」から「江差～奥尻島航路」の運航ダイヤ改正について議案資料に基づき説明。
⇒意見なし
４（2）：事務局から議案資料に基づき説明。
⇒意見なし
４（3）：事務局から議案資料に基づき説明。
⇒意見なし
４（4）：「サツドラホールディングス株式会社 社長直轄グループ インキュベーションチームリーダー 杉山英実様」から議案資料に基づき説明。
【質疑・意見交換等】
サツドラ HD 杉山リーダー：オブザーバー
・　当社と江差町で連携協定を締結してから丸２年経過し、その間、今回の実証実験のテーマである「移動」だけでなく、江差町からお話しいただいている我々民間事業者として出来ることは何なのか、また出来ない中でも共感することで次に繋がる仕組みが出来ないかなどを様々な分野

において連携してきたところ。

・　連携協定においては５つのテーマを掲げており、大きなものとしてまずは「健康」についてであるが、町内でオンラインフィットネスという活動をさせていただき我々の講師を派遣し住民の健康増進に繋がるコンテンツを提供している。

・　「経済」については、昨年の５月に「江差 EZOCA」を江差町内で配布させていただき、早いもので約 5,500 人の方々に所有いただいている。

・　このカードは使えば使うほどサツドラストアの売り上げ 0.2%が江差町に還元される仕組みで、今回の MaaS（マース）の取り組みにも繋がってくるが、地域で消費される経済活動をしっかりと地域におとしていく仕組みを構築し、自治体とは組むのは初めてであったが連携しているところ。

・　５つのテーマ「健康」「経済」「コミュニティ」「移動」「教育」といったこれらの課題を江差町で解決することで、他の道内の自治体でも課題解決に役立てることができるため、江差町でまずはモデルケースを構築していくことで地域の発展に貢献していきたいと考えている。

・　今回は MaaS（マース）といった「移動」の課題を解決する取り組みとして、北海道経済産業局の予算を活用しながら２月に「江差マース」の実証実験を実施した。

函館運輸支局：經亀委員（前任者）

・　実際に運行された中で、苦労した点や運送事業者の目線からこうした方が良いのではといった点があればお伺いしたい。

桧山ハイヤー：菊池委員

・　現在、社内で検証中の段階のため、次回以降の会議などでのご発言とさせていただきたい。

事務局

・　運転手からお聞きした中では、今回の 16 日間の取り組みを通しては、マンパワーの部分で今後準備が必要となってくることでお伺いしていた。

NPO 法人南桧山在宅福祉支援ゆい：小野寺委員

・　今回の実証実験については、確かに短い期間の取り組みの中では正直準備が足りなかったとか。説明会にもう少し参加者がいたら良かったなど色々と課題はあったかもしれないが、公共交通のあり方として、今回の取り組みが全面的に解決策になるかどうかは分からないが解決策の一つではないかと考えている。

・　その場合、もう少し範囲を広げること、また利用者に対しての説明をもう少し丁寧に分かりやすくということを繰り返していくことが、解決策に結び付く上で必要という感想をもつ。

・　住民説明会においても、ああいった場では分からないことを聞くことが中々難しい面もあると思われる。

・　公共交通の利用者は高齢者で身体に不自由を抱えている方が多く、スマホを使いこなすことが難しい場合が多いため、こういった方々に理解してもらうことは大変。

・　この先、サツドラ様がどれだけ関わってくるのか、行政がそこにどれだけ介入できるのかにもよるが、いずれにしても住民にいかに利便性の部分で理解していただけるか、使用することでどれだけ改善するということを分かってもらうことが今後の成功に繋がると思うので、何とかサツドラ様と行政との間で新年度以降も引き続き事業を拡大していってほしい。

サツドラ HD 杉山リーダー：オブザーバー

・　実証期間の後半からより使われるようになったが、それは実際に使った方が良かったとか一緒に同乗して自分でも使えそうだなとか時間が解決する部分もあった。
・　我々にとっては 16 日間というタイトな日程だったかと思う。
・　利用者の口コミや一度使った方においてはまた使おうという方も多かったので、まず１回使ってもらうためのやり方としてご自宅まで直接ご説明に伺うといった泥臭いことも必要となってくるので、もう一歩踏む込んだ取り組みを検討していきたい。

事務局

・　交流のある住民の皆さんに電話すると、気になってチラシは手元にあるけれども、そこからどうすればいいのか分からなく、またコロナ渦で人が集まるところに行きたくないという意見もあった。
・　そういった方々には個別にお会いしながら説明し活用していただいた経過がある。
・　行政としては少しでも多くの住民に利用していただきたい思いがあるが、同時に高齢者を中心にスマホ機器の扱いに弱いというお話しもある。
・　当町ではスマホ教室という取り組みを行っており、令和３年度の回では定員を上回るほどの参加希望者がいた。
・　少しでもスマホ機器の扱いに慣れようと思っている方が多くなってきており、当町としてもそういった方々を応援していきたい。
・　オペレーター相手による電話予約ができることが一番良いのかもしれないが、スマホ機器を使い慣れてない方であっても使用できる環境づくりも重要と認識しているところ。
・　今後もサツドラ様と連携を行いながら、再度、実証実験等の取り組みにチャレンジできたらと考えている。

４（5）：事務局から議案資料に基づき説明。

【質疑・意見交換等】

事務局

・　現在、協議会構成員全体で会議を行っているが、住民側、行政側とそれぞれの立場で意見があるかと思うが、より一層意見交換を活発化していきたいと事務局としては考えているので、この度の提案に至ったところ。
・　本日は委員の皆様は 12 名の出席で欠席者を含めると 18 名であるが、全体での協議だけでは十分な意見交換が難しい側面あるかと感じている。
・　そういった中で、住民部会においては公共交通がどうあるべきだといった住民目線でのご意見を固めていく、専門部会においては当町の公共交通の基幹である函館バス、桧山ハイヤー、あるいは他の公共交通をどのように組み合わせていくかというところを専門的な観点で議論していき、各部会でまとまった方向性を本協議会で諮る形をとっていきたい。

函館運輸支局：經亀委員（前任者）

・　今回提案のあった分科会は令和４年度限定の組織ということになるのか。それとも、恒久的なものになるのか。

事務局

・　現時点においては、地域公共交通計画の策定が主たる目的であるため、まずはここに向けて令和４年度は重点的に取り組んでいくことになるが、計画策定後も公共交通については見直しを

図ることが必ず必要となってくるため、そうした際にもこの分科会を活用し協議・調整を行っていく考え。

・　令和４年度限定での分科会ということではなく、それ以降の年度についても、開催方法等について本協議会でご意見を伺いながら継続していく予定。

・　本日の協議会でご承認をいただいた時には、設置に向けた準備を進め、改めて構成員の皆様に設置に関するご報告をさせていただく。

⇒他の委員から意見等が特段ないため、議案資料の内容により承認

４（6）：事務局から議案資料に基づき説明。

【質疑・意見交換等】

事務局

・　事業計画については非常にボリュームのある内容となっているが、地域に合った公共交通の姿を明らかにし、令和５年度以降での実装化していくことを想定して、令和４年度は構成員の皆様にご足労をおかけすることになるが議論を重ねてまいりたいと思うので、ご理解いただきたい。

・　実証実験については、令和３年度はサツドラが軸になって展開いただいていたが、令和４年度については現時点で不透明の状況。

・　状況によって本協議会を主体に進めていく可能性もあり、その場合、本来であれば構成員の皆様にご承認をいただきながら進めていくことになるが、国庫補助の採択を受けながらの実施となる関係で、場合によっては事後承認となってしまうことも想定されるので、予めご了承いただきたい。

NPO 法人南桧山在宅福祉支援ゆい：小野寺委員

・　計画策定の際には短期的、中期的、長期的な部分での新しい公共交通体系を構築していくことが課題であると思われるが、短期的な部分でいうとアンケート調査内容でも出ているバスの利用については、特に高齢者を中心に車などの移動手段がない地域住民にとっては切実な課題が凝縮された問題であると、アンケート調査の自由記述からも読み取れるところ。

・　バス利用の部分については、令和４年度の調査事業の中で実施するバス利用実態調査などの中でも浮き彫りとなると思われるが、だからといって課題解決に向けた取り組みの実施に２、３年とかけるのではなく、可能な部分は行政と交通事業者との間で何ができて何ができないのかを率先して議論し進めていくことも必要。

・　行政と交通事業者での協議事項を一つ一つ本協議会で取り挙げることは難しい。

・　今回実証実験を行った MaaS（マース）にしてもコミュニティバスのような交通にしても必ずしも町内だけではなく、私が住んでいる南が丘を例にとると上ノ国町が比較的近いためそこに買い物に行く人、もしくは上ノ国町から江差町に来る人など広域的な観点での考え方も非常に大事になってくる。

・　桧山ハイヤーにしても函館バスにしても江差町だけで動くことは営業上あり得ないことだと思われるので、広域交通についての議論をどういった仕組みで進めていくのかお伺いしたい。

事務局

・　アンケート調査の結果からも見て取れるとおり、住民の公共交通への関心は非常に高いものと認識している。

・　住民の公共交通に対しての要望は様々挙げられるところであるが、一方で町内の交通資源は

限られていることが現実ではあるので、そういった中で最大限の活用・効率的な運行ができるかが大きなテーマとなってくる。

・　こういった詳細を地域の交通事業者を始めとして今後議論を積み重ねてまいりたいが、ここの部分については先程ご説明した分科会を有効的に活用し何ができて何ができないのかをまずは整理をしていき、できる範囲での一番理想的な公共交通の形が見えてくる。

・　広域の観点については、函館バスの地域幹線系統路線である函館江差線や檜山海岸線といった檜山地域における拠点となる路線が江差町は集中しているので、当然ながら江差町の考えだけではなく近隣町との連携も必要。

・　広域交通について考えていく上では、本協議会だけでなく振興局や函館運輸支局、近隣町と共有を図りながら、令和４年度以降、計画策定に向けて進めていく考え。

・　広域交通についての考え方や今後の議論の進め方については、本協議会の委員で本日ご出席の檜山振興局様にご説明をお願いしたい。

檜山振興局：松本係長（委員代理者）

・　広域路線については、檜山管内では渡島管内と繋がっているバス路線が極めて多いので、道南地域で一体的に計画を立てる予定。

・　檜山・渡島の複数自治体にまたがるため、広域行政である檜山振興局、渡島総合振興局が事務局となり、広域計画を策定していく予定。

・　スケジュールについては、令和４年度は檜山管内において勉強会を３回程度開催する予定でおり、それと並行して渡島管内においても意見交換会を複数回実施予定。

・　令和４年度末には、広域版の法定協議会を立ち上げる予定。

・　令和５年度については、その法定協議会で協議を進めていき、同年度末までには広域計画を策定していきたい。

函館運輸支局：經亀委員（前任者）

・　近隣自治体の状況でいうと、隣の厚沢部町は令和４年度から、上ノ国町についても同じく令和４年度から、乙部町については江差町と同じく令和３年度からそれぞれ同様の法定協議会を立ち上げているところ。

・　振興局主催の勉強会などの機会を通じて、各自治体の事務局間で情報共有を図りながら進められたい。

・　広域の法定協議会においても当支局は委員として参画するので、適宜ご助言等をさせていただけたらと思う。

⇒他の委員から意見等が特段ないため、議案資料の内容により承認

（IV）令和４年度第１回江差町地域公共交通活性化協議会の開催結果

(IV)-i 概要

開催日時	令和４年８月 31 日（水）　13 時 30 分～15 時 30 分
開催場所	江差町役場３階 第２委員会室
出欠状況	委員：出席 13 名 欠席５名、同行者：３名、事務局：２名、事務局支援：２名
議事次第	１．開　会 ２．会長挨拶 ３．議　題 （1）委員の変更報告について （2）令和３年度江差町地域公共交通活性化協議会事業報告及び決算報告について （3）北海道江差高校における通学状況に関するアンケート調査の結果報告について （4）令和４年度江差マース実証実験の概要説明について （5）一般旅客自動車運送事業による乗合旅客運送許可申請に係る協議について （6）令和４年度江差町地域公共交通活性化協議会補正予算（案）の提案について （7）その他 ４．閉　会

(IV)-ii 協議内容

１～２：田畑会長（副町長）から挨拶、事務局から出席委員報告（13 名）
３（1）：田畑会長から４月の人事異動に伴う一部委員の変更について説明。
⇒意見なし
３（2）：事務局及び佐藤委員（監事）から議案資料に基づき説明。
⇒意見なし
３（3）：事務局から議案資料に基づき説明。
【質疑・意見交換等】
NPO 法人南桧山在宅福祉支援ゆい：小野寺委員
・　回収率が高いのは、関心が高いというよりは切実な問題であるからと認識しており、表面化しただけと思われる。
・　保護者も含め、通学交通は非常に深刻な問題と思われるため、計画策定の際に、どのような考えをもって、計画を取りまとめるのか。
・　分科会での議論の内容を教えていただきたい。
・　自動車の送迎問題は深刻な問題であるため、対策を早期に実施していただきたい。
事務局
・　計画策定に向け、重要なデータとして認識しており、当町のみならず、乙部町、厚沢部町等の近隣自治体との連携を含め、改善を行う必要がある。
・　近隣自治体との関係については、振興局主体の計画での議論も発生する。
・　定期運賃や運行時間帯の問題などの複数の問題があることから、今後分科会を活用するなどしながら、一つずつ検討していきたい。

３（4）：事務局から議案資料に基づき説明。

【質疑・意見交換等】

NPO 法人南桧山在宅福祉支援ゆい：小野寺委員

・　今回の実証運行では、エリア間の移動は乗換が必要なのか。
・　路線バスの利用も見込んでということだが、路線バスの時刻を調べた上での利用が必要なのは少し大変ではないか。
・　奥尻町民が利用する際には、どちらのエリアの運行内容が適用されるのか。

事務局

・　エリアを超える運行はデマンド交通では行わず、既存の交通を利用いただく予定。
・　町民からは柳崎地区（特に病院）までの移動ニーズはあるものの、既存交通が運行している中で、全てをデマンド交通で補うと、既存事業者が撤退せざるを得ない状況を生み出す恐れがあるため、実施は想定していない。
・　一方で、町民からは自宅からバス停までの移動が困難という問題も挙げられていることから、そのあたりの解消にはつながることが期待される。
・　奥尻町民は、函館方面に自動車もしくはバスでの移動が多い状況であり、今回の実証運行では、そもそも江差町内の移動ニーズがあるかを把握したいため、実証運行段階では、奥尻町民も町民と同様の運行内容に従っていただく。
・　全体をカバーするのではなく、まずは既存公共交通と棲み分けをした上で、利用していただきたい。

３（5）：事務局から議案資料に基づき説明。

【質疑・意見交換等】

函館バス：内澤委員

・　運行時間が８時間の中で、労働基準法の関係から休憩が必要になるが、例えば 11 時 50 分に予約した場合、乗車はできるのか。

事務局

・　配車予約システムで、車両位置や運行時間を自動的に算出し、対応可否を判断するため、休憩時間などに被るようなことがあれば、システムが予約受付をしない形。
・　12 時までの運行が可能とシステム上で判断されれば、乗車は可能。

函館運輸支局：酒井委員

・　乗車チケットを紛失した場合、再交付は可能なのか。
・　資料９について、若干の修正が必要な場合は、事務局対応とすることの確認を協議会から承認を得たほうが良い。

事務局

・　利用者 ID が把握可能な体制にしたいと考えているため、一度、運賃を支払った実績が確認できれば、複数回の支払いは不要と考えている。
・　ご指摘のとおり、軽微なものについては、事後報告を前提で、事務局で対応することとしたい。

⇒他の委員から意見等が特段ないため、議案資料の内容により承認

３（6）：事務局から議案資料に基づき説明。

⇒意見なしで承認

３（7）：全体を通して各委員から次のとおり発言あり。

【質疑・意見交換等】

NPO 法人南桧山在宅福祉支援ゆい：小野寺委員

・　今年度の当初スケジュールから大幅に遅れているが、分科会の運営も含めて、着実に実施していただきたい。

・　昨年度実施したアンケート調査から、除雪等の問題も出ているため、各種議論内容について、協議会や部会等で報告・協議していただきたい。

事務局

・　スケジュールについて、年度内に計画策定のスケジュール変更はなく、協議会については、今後、期間を詰めて開催したい。

・　分科会も今年度から設置しているため、次回以降、議論結果を共有させていただく。

・　実証運行以外の部分でも、既存公共交通や移動支援に係る課題があるため、分科会も含めて、議論していきたい。

函館バス：内澤委員

・　配車システムの単純化に向けては、自動音声システムとアプリからの予約から、アプリに統一すべきではないか。

・　キャッシュレスの観点からチケットのデジタル化をご検討いただきたい。

事務局

・　町内でもスマホ所有率が上がっている背景もあるが、高齢者のことを考慮すると、「デジタル＋アナログ」の仕組みは現段階では必要なものと認識している。

・　一方で、さらなる効率化を目指し、デジタル化は推進していきたい。

（V）令和４年度第２回江差町地域公共交通活性化協議会の開催結果

(V)-i 概要

開催日時	令和４年 10 月 17 日（月）　13 時 30 分～14 時 50 分
開催場所	江差町役場３階 第２委員会室
出欠状況	委員：出席 16 名 欠席１名、同行者：４名、事務局：２名、事務局支援：２名
議事次第	１．開　会 ２．議　題 （1）委員の退任報告について （2）バス利用実態調査の結果報告について （3）関係団体へのヒアリング調査の結果報告について （4）令和４年度江差マース実証実験に係る自家用有償旅客運送の登録に向けた協議について （5）その他 ３．閉　会

(V)-ii 協議内容

１：事務局から出席委員報告（16 名）、田畑会長（副町長）公務の都合により欠席のため、尾山事務局長（会長職務代理）が議事進行

２（1）：事務局から一部委員の退任について議案資料に基づき説明。

⇒意見なし

２（2）：事務局から議案資料に基づき説明。

【質疑・意見交換等】

NPO 法人南桧山在宅福祉支援ゆい：小野寺委員

・　利用者個々の意見集約の機会はあるのか。

・　意見交換会の機会で意見を集約するのは難しいかもしれないので、個々の意見集約は実施しないのか。

・　計画策定までに全ての課題を解決する施策を記載するのは困難かと思うが、なるべく詳細な調査をお願いしたい。

事務局

・　バス利用実態調査は、全体像をつかむ調査であり、この他アンケート調査などの詳細ニーズの把握も実施してきた。

・　今年度策定の計画書については、全体像の解決方策を示していきたい。

・　計画書は毎年度見直しが必要であることから、その際に個々のご意見も含め、集約及び反映をしたいと考えている。

２（3）：事務局から議案資料に基づき説明。

【質疑・意見交換等】

NPO 法人南桧山在宅福祉支援ゆい：小野寺委員

・　福祉有償運送における運営継続は喫緊の課題。

・　要支援・要介護は自立して公共交通の利用は難しいため、課題整理のページにおいて「○」よりは「△」の位置づけが望ましいのではないか。

事務局

・　利用自体が可能かという視点で「○」としていたが、ご意見を踏まえ「△」による整理とさせていただく。

２（4）：事務局から議案資料に基づき説明。

【質疑・意見交換等】

NPO 法人南桧山在宅福祉支援ゆい：小野寺委員

・　江差マース実証実験期間中のサポート体制はどうなっているか。

・　福祉有償運送対象者は江差マースで対応する予定はあるか。

事務局

・　江差町民全体が利用できることを想定している。

・　生活移動時の足の確保に向けた優先者は、町内で通院・買い物などを行う高齢者と捉えており、江差マースでは、そのような方々の移動の補完を目的と考えている。

・　福祉有償運送についても運転手の確保問題などから、喫緊の課題であると捉えているが、高齢者の中でも福祉有償運送の対象にならない方の生活の足をいかに確保していくのかを優先的に解決すべき事項として考えている。

⇒他の委員から意見等が特段ないため、議案資料の内容により承認

２（5）：全体を通して委員から次のとおり意見あり。

【質疑・意見交換等】

函館バス：内澤委員

・　現在の江差マースの利用状況についてお伺いしたい。

・　運行開始以降での課題などはあるのか。

・　目標乗車人数等の目標値があればお伺いしたい。

事務局

・　登録者数について、LINE を活用した登録なども可能としたことで、前回よりも登録者数は増加傾向となっており、現在 40～50 程度。

・　利用者数は 1 日延べ 20 人前後の利用があったが、有償期間に入ったところ 1 日延べ 1～2 人程度で、週の前半は悪天候などもあったことが要因と考える。

・　配車予約の操作方法への不安などが傾向として見えてきており、スマホ教室や個別の問合せで不安解消に繋げていきたい。

・　住民間での口コミによる利用促進も進めていきたい。

・　目標利用者数について、本実証実験では需要を確認することを目的としているため今回は設定していないが、本格運行に向けては、本実証実験の結果を踏まえ、一定の数値を目標として設定し、今後、進めていくことで想定。

（VI）令和４年度第３回江差町地域公共交通活性化協議会の開催結果

(VI)-i 概要

開催日時	令和４年 12 月 23 日（金）　13 時 30 分～15 時 00 分
開催場所	江差町役場１階 保健センター（集団指導室）
出欠状況	委　員：出席 12 名 欠席５名、代理出席者：１名、同行者：１名、 事務局：２名、事務局支援：１名
議事次第	１．開　会 ２．会長挨拶 ３．議　題 （1）江差マース実証実験における乗車料金の変更に関する報告について （2）江差町地域公共交通計画（案）における重点課題及び基本目標等に関する協議について （3）その他 ４．閉　会

(VI)-ii 協議内容

１～２：田畑会長（副町長）から挨拶、事務局から出席委員報告（12 名）
３（1）：事務局から議案資料に基づき説明。
【質疑・意見交換等】
函館運輸支局：笹野首席運輸企画専門官（委員代理者）

・　こういった実証実験では、当初有料だったものを無料にすることは、全国的にはよくあるケースであるが、その中において 12/20 時点での登録者 160 人の中で、高齢者人口のカバー率としてはどの程度になるか。
・　12 月に入って登録者数が伸びてきているが、10 月～11 月の実証実験で登録者数が伸びなかった原因を事務局側ではどのように分析されているか。
・　登録者のうち 90 代の方々が２人登録されており、２人とも利用されている結果が見受けられるが、80 代の方々が 16 人の登録者のうち結果として２人登録されていなかったり、70 代の方々が 23 人の登録者のうち結果として 10 人しか登録されていなかったりなど、登録していても実際に利用していない理由が配車予約の方法によるものだけなのか疑問に感じるがどうか。

事務局

・　人口のカバー率という観点では、現在町内人口が約７千人でそのうち 65 歳以上の高齢化率は約４割であることを考えると、全体の割合としては１割に満たない状況。
・　公共交通の利用者の多くは運転免許及び自家用車を所有していない方々であるが、自家用車の所有率としては、ほぼ一家に一台の状況で、特に北部については比較的自家用車を持つ世帯の多い農家の割合が多い。
・　昨年度に実施したアンケート調査の結果の中でも、80 歳を過ぎても運転を続けると回答した割合が非常に多かった。
・　全体の割合の中で、どのぐらいの割合の方々が本当に公共交通を必要としているのか、まだま

だ見えてきていない部分も正直あるので、今回の実証実験を通して潜在需要者の掘り起こしも必要な要素。

・　一部の住民からの聞き取りでは、町広報誌を通して取り組み自体の存在は知っていて、一度利用してみたいという思いはよく聞かれるが、スマホアプリや携帯電話の自動音声を使った予約方法に戸惑われている方々多い状況と認識。

・　登録者全体で実際の利用者数が伸び悩んだ原因についてであるが、まず、昨年度の２月に初めて実証実験を実施した時に見えてきたのは、１カ月という限られた期間では住民に対して十分に取り組みが広まりきらなかったこともあり、今回は実証期間をトータルで４カ月間とした。

・　10 月～11 月においては、原因は一つ二つではないが、一つ挙げるとすれば、登録をしたら必ず利用しなければならないと思っている方々も一定数いたように、登録方法等が十分に伝わりきらなかった部分があり、また、登録をしても自分に使いこなせるだろうかという不安感から、利用者数の増加に結び付かなかったものと推察。

・　住民説明会を通して住民への周知は行っていたが、それだけでは伝わりきらなかった部分もあったので、12 月以降については住民説明会だけでなく、町内会を通して地域の集会施設でお集まりいただき、試乗体験会や個別に説明する機会を細めにとらせていただいている。

・　来年の１月末まで無料としたので、試乗体験会などの機会は今後も継続的に実施させていただく予定。

・　70 代や 80 代の登録者についてであるが、まず 90 代の方々については親族の方が代わりに登録・予約をしており、結果として本人だけで予約までの作業をした訳ではなく、周囲のサポートの中で利用したものと記憶。

・　登録した高齢者の大半はスマートフォンを持っていないことが多く、その場合、10 月～11 月の実証期間では自動音声電話による方法となり職員から操作方法等をお教えしたが、実際に本人が自分だけで使用してみるという流れまで十分に繋げられなかったため、高齢者による利用が伸び悩んだものと推察。

函館運輸支局：笹野首席運輸企画専門官（委員代理者）

・　こういうサービスについては、本当に必要としている方々は、あれば利用する。

・　あるに越したことはないという方々の意見までまともに聞いてしまうと、公共交通の理想というようなものをつくらなければならず、本当に必要とされている方々に対するサービスが出来なくなってしまうため、その部分を注意していただきたい。

田畑会長

・　採算性を重視して運行する状況をつくるのは、まず難しいことが予想される。

・　高齢者だけではないが、買い物など荷物を持って移動する方々に対する戸口から戸口までといった移動サービスの利用度をいかに高めていくかというところ。

・　実証実験をいつまでも続けていくという話にはならないので、短期間ではあるが今回の実証実験の結果からしっかりと分析を進められたい。

老人クラブ：小笠原委員

・　私自身も実際に説明会に行き、まずは利用してみようということで登録も行ったが、その登録をするきっかけとなる行事が少なかった。

・　実証実験の段階までに、登録方法などを教える機会の回数が少なかった。

・　登録者の中で、免許証を持っていて登録した人はどの程度いたのか。

事務局

- 公共交通は目的があった上でのものであることから、利用に転じさせるための行事の仕掛けが少なかったことが 10 月～11 月の大きな反省点。
- 12 月以降については、試乗体験会などの機会をできるだけつくっている状況で、今後も定期的に実施していきたいと考えている。
- まずは登録をしていただき予約をして実際に乗車いただくという一連の流れを体験していただく機会を今後もつくっていきたい。
- 試乗体験会などへの参加促進は、どうしても役場からの周知だけでは限界があるので、町内会様や老人クラブ様といったところのお力を今後もいただきながら取り組んでまいりたい。
- 運転免許の観点については、正確な数値は持ち合わせていないが、事前の登録時に一部住民から直接お伺いする限りでは、運転免許や自家用車を持っていない方々が大半を占めている状況であると推察。
- 登録者の大半は今まさに公共交通を必要としている方々であるが、一方で今は自家用車を持っているが、5 年後 10 年後に運転免許や自家用車を手放すかもしれない方々についても、将来を見据えてまずは一度体験していただきたいということは役場から住民に対して促しており、実際にそういった目的で登録し利用した方の存在も一部確認している。

NPO 法人南桧山在宅福祉支援ゆい：小野寺委員

- 南が丘は他の地域と比較すると年齢構成は若いかもしれないが、道職員などの町外から転勤により来られた方々を除けば高齢者が非常に多く、親戚などの身寄りがない人、つまりは運転ができなくなるとお手上げ状態になる方々が多い。
- 現在、地域では見守り活動などを行っており、自治会の役員会において「江差マース」のことを議題として挙げ、自治会としても可能な限り取り組んでいこうと位置付けてきた。
- 買い物に行けない、床屋さんに行けない、役場に行けないなどの部分において、これからはもっと大変だなと思われる方々の顔と名前が分かる実態であるため、説明会や試乗会の開催時にも出来る限りそういった方々に声を掛け、歩くことが困難な場合には送り迎えをするなどして参加を促してきた。
- このような取り組みにおいては、こういったことを繰り返さないと中々広まらないというのが実感。
- １回やったからそれでもう大丈夫ということはなく、よく分からないから乗ってみたいけれどもまだ乗っていない人もまだまだいる状況。
- 今後も細目に試乗会のようなことをやっていただき、回数を重ねていく、覚えてもらう、気軽にできる、そういった側面の中で改善策を出していくことが必要。
- 自家用車を持っていたとしても、まずは覚えてみよう、乗ってみようということが大切で、周囲の方々に声を掛けようにも乗ってみなければ分からないので、自治会役員にも利用するよう心掛けている。
- 試乗してみて感動したことがあり、一緒に相乗りした人が足の不自由な方だったのだが、足の踏み台を用意していただいたり、玄関まで無事に辿り着くようが心配そうに手伝ったりと、実際の実装段階でどこまで運転手が対応できるかが課題ではある中で、「江差マース」の運転手が一生懸命だった。

・　運転手からは、頑張ってほしい、江差町のために皆で成功させなければどうなるんだということもおっしゃられていたので、そういう点では盛り上げていくことが成功への道になっていく。

田畑会長

・　本当は利用させたい人に対して中々伝わっていかない中で、要援護者ということで例えるならば、やはり１軒ずつ回るのは難しいため、町内会の役員の皆様を中心にご利用いただき、それをきっかけに普段は自家用車を運転している方や自分の子供に送迎をお願いしている方にも広がるよう、声掛けやチラシを配布していただくといった拡大の部分については今後も検討を重ねられたい。

・　町内会・自治会様、老人クラブ様などにも役割を担っていただきながら利用拡大に結びつけていけたらと考える。

３（2）：事務局から議案資料に基づき説明。

【質疑・意見交換等】

NPO 法人南桧山在宅福祉支援ゆい：小野寺委員

・　計画の概要版と言いながらも、ほとんどが見出しだけというか、項目だけの記載であるため、もう少し文字が付かないと意見のしようがないというのが率直な感想。

・　短い時間の中、今年度中という期日が決まっている中で致し方ない部分もあるかと思うが、その中で気になった項目として、まず４ページの「民間バス路線の抜本的な見直し」で、現在「江差マース」を進めようとしている大前提は、地域の高齢者等は買い物や通院などが大変であり、路線バスは定時定路線のため自宅までということにはならないためである。

・　路線バスと「江差マース」の関係はある意味密接に関わってくる中で、ここでいう「抜本的な見直し」というのは、一般的には良くしていくという意味で捉えられると思うが、路線バスの利用者が少ないという現状から抜本的にバス路線を少なくするということか。

・　計画の太い柱がどういう方向性でいくのかについて、一つは「江差マース」を既存交通の補完を行いながら成功していくということになるかと思うが、一方で、路線バスについても５年間の計画の中でこういう風になるという太い柱を抜本的な見直し策として出していくということなのか。

・　「江差マース」を５年間の中でどういう段階でどういう風にしていくのかという部分は、計画本体ではどこまで打ち出されるのか。

・　具体的には、来年度以降、全体といわず一部からでも今の実証から本格的な交通手段とすて組み立てていくということも考えているのか。

事務局

・　「民間バス路線の抜本的な見直し」の部分について、住民からは運行するダイヤや経路を見直ししてほしいという意見が様々出てきている中で、いかに実際の運行に対して意見を反映していくのかというところであるが、一方で当町を通過するバス路線については、当町内だけではなく他の地域の通過・接続部分についても考えていく必要があるため、ここでは単町の都合だけで便数を減らすだとか廃止していくという意味合いではない。

・　今後も住民の利用状況を見ながら、利用者数の拡大に向けて見直しを図っていく必要があることから「抜本的な見直し」という書き方にさせていただいたが、この表現が行政計画としてまとめていくものとして不適切ということであれば、計画本体での記載を変更することを検討させていただく。

・　計画内での「江差マース」の位置づけがどのように整理されていくかについて、既存の交通施策であるスクールバスや高齢者半額助成などと併せて、今後の具体的な取り組み内容や年度ごとのスケジュール感をまとめていく想定。
・　「江差マース」については、現在実証実験を行っている最中であることから、現在の内容をそのまま来年度本格運行していくのか、見直しを図った上でいつ頃から本格運行していくのかなどを、実証実験の結果を踏まえながら計画内で来年３月の時点での一定の方向性としてお示しさせていただく。
・　一方で、計画策定後においても、その時々の状況に応じて内容の見直しを図っていくことで想定している。

田畑会長

・　「民間バス路線の抜本的な見直し」については、検討の余地があるものと感じた。
・　地域公共計画は当町だけでなく、乙部、厚沢部、上ノ国といった近隣町においても単独で策定予定とする動きとなっている。
・　バス路線については、南が丘を例にとると、椴川町・江差ターミナルから走ってきて、海岸線を通って柳崎町まで行く路線もあれば、五勝手から南が丘に上がっていく路線もあったりと、一つ一つのバスの乗車密度というのはこれまで検証しづらかった部分であるが、今後検証していく必要がある。
・　将来的には、例えば路線経路が重複する部分を見直していくだとか、町内を巡回する部分はバス路線を撤廃し「江差マース」に切り替えていくといった様々な検討策が考えられる中で、今後方向性を詰めていくことになるが、年度内にすぐ定まるという話ではないため、令和５年度については検証の部分がメインになり、近隣町とのやり取りも出てくる。
・　いずれにしても、この「抜本的な見直し」の表現については改めて検討させていただく。

函館バス：内澤委員

・　計画の概要版ではあるが、既存交通のこと、新しい交通モードのことが細部にわたって踏み込んでいるように見受けられ、今後の肉付けで良い計画になっていくものと感じる。
・　一方で、計画策定にあたり、大前提として抜本的な課題に挙げられるのが輸送資源の確保の部分で特に乗務員不足となっている。
・　乗務員不足は大きな課題となっており、どんなに良い計画を策定しても乗務員がいなければ、言葉は悪いが企画倒れとなってしまい、計画事業を遂行できない事態としまうことが予想されるところ。
・　人的支援の観点で、この乗務員不足に関する内容を計画内に反映いただきたい。
・　ただ単純にお金で人的支援の確保ということではなく、過去に道新などで幼いころの夢がバスの運転手になりたいという記事があったように、乗務員の魅力というものをお示しできる場や、公共交通の教室のようなもので何かお披露目できる場の提供という観点で、教育委員会などを含めて積極的に取り挙げていただきたい。
・　このコロナ禍の疲弊により、残念ながら道南においても貸切バス事業の撤退や事業縮小が深刻なため、このままだと公共交通の継続・持続可能性が難しいと感じている。
・　自動運転についても、実現性の部分でこの先何十年は来ないだろうというのが我々交通事業者の見立てである。

・　やはり有人運転というところが基本になってくるかと思うので、ぜひ人的支援の部分を計画にも盛り込んでいただきたい。

事務局

・　地域で限られた資源をいかにして最大限使っていけるかは、「江差マース」にしても、路線バスやタクシーといった既存交通にも大きく関係してくる話になってくる。

・　人的な部分はもちろんのこと、資金的な観点においても、現在当町の交通施策予算が年間６千万弱となっており、この部分の見直し・効率化が今後様々な取り組みを進めていく上では重要な課題であると認識しているので、計画内でも位置付けていきたいと考えている。

・　乗務員の魅力発信の観点では、今年、江差高校で始まった南ひやま学という講座で函館バス様の業務内容やバスの乗車方法についての紹介を、役場と函館バス様との協働で実施したが、来年度以降についても、細部まで調整が済んでいる訳ではないものの、高校生に対する取り組みを継続しつつ、地域の小学生や中学生にも公共交通と触れ合う機会を、江差高校との連携で取り組んでいけないか模索しており、実施にあたっては協議会事務局である役場まちづくり推進課だけでなく、教育委員会や交通事業者にもご協力をいただきながら実行にうつしていきたい。

・　地域の子どもたちとの取り組みについても、計画内で位置付けていくことを今後検討していきたいので、内容が固まり次第、改めてご意見を頂戴したい。

田畑会長

・　本日は概要版に関しての説明であったが、概要版の内容を中心に盛り込まれた計画本体の送り込みや次回の協議会開催時期についてを、事務局側からご教示いただいてよろしいか。

事務局

・　次回の協議会は、来年の１月下旬から２月上旬頃を予定しており、その場で計画本体の概要説明をさせていただきたいと考えている。

・　時間の都合上、会議の中で計画全ての説明と一つ一つの項目に対しての意見をいただくことは困難であるため、会議後、一定期間設けながら、その期間の中で委員の皆様にお目通しいただき、各委員からのご意見を書面でいただく想定としている。

・　最終的には、各方面からいただくご意見を反映したものを、成案として委員の皆様にお示ししていくので、年度内の策定に向けて少しばかりタイトなスケジュールになるがご協力をお願いしたい。

田畑会長

・　会議の時間だけでの意見収集という話には当然ながらならないので、後日書面で委員の皆様から意見を頂戴する、こういう形をとっていく方向なので、改めてにはなるがよろしくお願いしたい。

３（3）：全体を通して各委員から次のとおり意見あり。

【質疑・意見交換等】

函館バス：内澤委員

・　先日、西鉄グループ企業の社長様がお見えになった際にお話しがあったのが、西鉄では MaaS（マース）を先行して実施している事業者であるが、地域に定着するまでに６年かかったとおっしゃられていた。

・　取り組みの推進にあたり数値目標を立てていく中で、公共交通の定着や告知を含めて考えると、すぐ来年には目標達成というのは中々難しいことが予想されるので、こういった事業は５

～６年の長い目で見なければならない。

・　自治体には申し訳ないが、ぜひ江差町には決意と覚悟をもっていただき、事業者のみではできる事業では決してないので、ご負担は承知の上よろしくお願いしたい。

田畑会長

・　計画をつくってすぐに初年度から目標達成というのは中々難しい。

・　スクールバスや路線バスなどの町交通施策に対して、年間約６千万弱の予算を組んでいるが、効率化を図れる部分の検討は、何年度になるか現時点では未定であるものの、しっかりと手を付けていかなければならない。

・　町内で効率的に運行していくのかは、単純に便数を増やせばいいということにも当然ならない。

・　今回の実証実験については、国交省や経産省の支援をいただきながら実施しているところであるが、使い勝手の良いものをどのようにして浸透していくのかは、行政の力だけでは進められるものではないので、町内会などのお力をいただきたい。

・　自家用車が便利な世の中ではあるが、地域公共交通計画は重要な計画の一つとなるので、この法定協議会を中心に進めていきたいと思うのでよろしくお願いしたい。

（VII）令和４年度第４回江差町地域公共交通活性化協議会の開催結果

(VII)-i 概要

審議期間	令和５年１月９日（月）～1月 17 日（火）
開催方法	書面協議 ※議案内容を考慮し書面開催とした。
議事次第	１．議　題 （1）令和４年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域公共交通調査事業）に関する事業評価の実施について

(VII)-ii 協議内容

１（1）：意見なし
⇒協議事項について、全構成員から承認

（VIII）令和４年度第５回江差町地域公共交通活性化協議会の開催結果

(VIII)-i 概要

開催日時	令和５年２月６日（月）　13 時 30 分～14 時 15 分
開催場所	江差町役場１階 保健センター（集団指導室）
出欠状況	委　員：出席 13 名 欠席４名、代理出席者：１名、同行者：１名、 事務局：２名、事務局支援：２名、オブザーバー：２名
議事次第	１．開　会 ２．会長挨拶 ３．議　題 （1）自家用有償旅客運送（福祉有償運送）の更新登録に係る協議について （2）江差町地域公共交通計画（素案）の概要説明について ４．閉　会

(VIII)-ii 協議内容

１～２：田畑会長（副町長）から挨拶、事務局から出席委員報告（13 名）
３（1）：事務局から議案資料に基づき説明。
【質疑・意見交換等】

函館運輸支局：酒井委員

・　「社会福祉法人江差町社会福祉協議会」において、「要支援認定者」及び「基本チェックリスト該当者」が旅客名簿にない中で旅客区分としたいとのことであるが、該当者が旅客名簿に今後入る予定などはあるのか。

社会福祉協議会：中島委員

・　現時点において、当該区分の該当者による利用が見込まれる予定はないが、今後対象者が現れた際に登録範囲に含まれていなければ運送サービスを提供することができないため、迅速な対応ができる体制を整える考えから登録範囲に含めて申請するもの。

函館運輸支局：酒井委員

・　「医療法人道南勤労者医療協会（ﾍﾙﾊﾟｰｽﾃｰｼｮﾝゆいっこ）」において、旅客の範囲に複数乗車を行うこととされているが、どのようなケースを想定されているのか。

ヘルパーステーションゆいっこ：奈良委員

・　認識に誤りがあったかもしれないが、複数人による相乗りを想定しているもの。

函館運輸支局：酒井委員

・　福祉有償運送については、ドアツードアによる個別輸送が基本であるが、例えば同じ病院に町内の人が一緒に行かれる場合などを想定し、それが本協議会で承認されていれば問題ないため、運送内容の確認のためお聞きした。
・　複数乗車を行う場合の運賃であるが、各利用者からいただくという認識でよろしいか。

ヘルパーステーションゆいっこ：奈良委員

・　そのとおりである。
⇒他の委員から意見等が特段ないため、議案資料の内容により承認

３（2）：事務局から議案資料に基づき説明。

【質疑・意見交換等】

函館開発建設部江差道路事務所：山﨑委員

・　計画（素案）の 44 ページ中の「医療法人道南勤労者医療協会」の運送旅客の範囲について、前段の議題１で更新登録申請を協議した際には、「基本チェックリスト該当者」が含まれていなかったかと思うが、いかがか。

・　77 ページ中の上から４行目に「全 14 事業」とあるが、「全 15 事業」の間違いではないか。

事務局

・　ご指摘いただいた箇所を含めて、改めて内容確認を実施し、修正対応させていただく。

NPO 法人南桧山在宅福祉支援ゆい：小野寺委員

・　細かい点については、後日個別にお聞きしたいかと思うので、この場では差し控える。

・　中々この場で意見を申し上げるのは難しく、ましてや、住民から意見を募集するパブリックコメントについて、町広報にてお知らせするにしても要約での掲載が想定される。

・　今までも、町による開発計画などの様々な計画があり、パブリックコメントが実施されてきたが、住民が具体的にどういった意見を述べたらいいのか難しい部分があるかと思うので、住民への周知・意見募集の際には、来年再来年に何をやっていくのかということを出来る限り分かるようにしていただき、具体的に計画の前段の説明を長々と示す、要するに何を言いたいのが分からないようなことにはならないよう要望する。

・　一点この場で質問したいのが、計画（素案）の 79 ページの実施年度の部分に「関係自治体との協議」とあり、当然ながら、バス路線の問題に関しては近隣の自治体の状況も含めて協議していかなければならないというのは理解しているが、近隣自治体を含めた広域的な話となると、振興局にも一定の支援をいただく必要があり、また、90 ページにおいて「（仮称）道南地域公共交通計画」についても言及されているが、この計画内でどのように整理されるのか大事な問題であると思うので、現在の進捗状況などについて分かる範囲で構わないのでお聞きしたい。

事務局

・　パブリックコメントについて、住民に意見募集を促す際、概要をお伝えする中では、どうしても限界がある部分もあるが、極力、計画の表現や町広報の紹介を分かりやすい表現となるよう、適宜計画の見直しもしながら進めていきたいと思うので、ご理解願いたい。

・　「（仮称）道南地域公共交通計画」については、いわゆる道南全体の広域計画となり、現在、道庁の渡島総合振興局並びに檜山振興局を中心に協議を進められている状況で、詳細を檜山振興局様にご説明いただきたい。

檜山振興局：山本委員

・　「（仮称）道南地域公共交通計画」については、渡島総合振興局及び檜山振興局の双方で、まず令和３年度末に各地域で勉強会・意見交換会を、各市町の企画担当課長や函館バス株式会社などの関係事業者をそれぞれ参集し実施しており、計画内容として、檜山の中のパーツや渡島の中のパーツはそれぞれ固まりつつある状況。

・　今年３月に、道南全体の協議会を立ち上げた上で、正式に「道南地域公共交通計画」の策定に向けて動き出す予定で、目途としては来年度末までに計画策定を予定しているが、当然ながら、各市町の計画内容も反映しながらの方式となる。

・　各市町の計画と、若干ながらタイムラグはあるが、住民へのパブリックコメントも実施しながら策定を進めていく流れになる。
・　各自治体との協議について、「道南地域公共交通計画」は函館江差線や檜山海岸線、江差木古内線などの各市町をまたがる広域路線を対象とした計画となるので、各市町の計画との整合性を図りつつ、関係自治体との取り組み内容を「道南地域公共交通計画」にも反映しながら協議を進めていく。

田畑会長

・　近隣町との関係でいうと、隣町である上ノ国町と江差町を結んでいたＪＲ鉄道が廃止され、木古内町、上ノ国町、江差町を結ぶバス路線である江差木古内線のあり方についても三町で検討しており、厚沢部町との部分については稲見線など、それぞれの町との課題を整理整頓しながら進めていくことになる。
・　江差町内のことだけで言えば、町民の利便性をどのように上げていくかということになるが、例えば「江差マース」も含めて同じ時間帯に重複する路線をどのように効率的にしていくのかなど、色々と整理が必要。
・　令和５年度からどのように進めていくのかといったところを、きっちりとお示ししていく必要があり、計画策定にあたっては、パブリックコメントなどの意見募集だけでいいのかという意見もあるかもしれないが、多種多様なお立場の代表者である構成員の皆様からご発言いただき、本協議会で諮るなどしながら進めていきたい。

（IX）令和４年度第６回江差町地域公共交通活性化協議会の開催結果

(IX)-i 概要

審議期間	令和５年３月３日（金）～3月９日（木）
開催方法	書面協議 ※議案内容を考慮し書面開催とした。
議事次第	１．議　題 （1）自家用有償旅客運送（福祉有償運送）の更新登録に係る協議について

(IX)-ii 協議内容

１（1）：意見なし ⇒協議事項について、全構成員から承認

（X）令和４年度第７回江差町地域公共交通活性化協議会の開催結果

(X)-i 概要

開催日時	令和５年３月 30 日（木）　14 時 30 分～15 時 50 分
開催場所	江差町役場１階 保健センター（集団指導室）
出欠状況	委員：出席 14 名 欠席３名、代理出席者：１名、事務局：３名、事務局支援：１名
議事次第	１．開　会 ２．会長挨拶 ３．議　題 （1）令和４年度江差マース実証実験の結果報告について （2）江差町地域公共交通計画（素案）に対する意見への対応方針（案）について （3）令和５年度事業計画（案）及び当初予算（案）の提案について ４．閉　会

(X)-ii 協議内容

１～２：田畑会長（副町長）から挨拶、事務局から出席委員報告（14 名）

３（1）：事務局から議案資料に基づき説明。

⇒意見なし

３（2）：事務局から議案資料に基づき説明。

【質疑・意見交換等】

函館運輸支局：酒井委員

・　計画（案）の作成にあたって、当支局からの指摘事項を反映いただき感謝申し上げる。
・　乗務員不足は非常に深刻な問題となっていることから、ぜひ力を入れて進めていただきたい。
・　将来的な担い手確保に向けた施策に加えて、即効性が期待できる事業として、例えば、就職説明会などの開催も、状況を見ながら施策に加えられるようご検討いただきたい。

事務局

・　今後、江差マースの本格運行化、既存の公共交通の見直しを行うにあたっては、当然、どんなサービスを構築していくかといった観点も大切であるが、同時に人材をどのように確保していくかといった観点も重要であると認識。
・　就職相談会などの取り組みは、行政の立場としてご支援できる部分について、来年度以降、関係機関とも連携しながら随時検討していきたい。

檜山振興局：山本委員

・　計画（案）の作成にあたって、当局からの指摘事項を反映いただき感謝申し上げる。
・　４月 15 日に渡島総合振興局の庁舎で、担い手不足解消に向けた就職相談会の開催を予定しているため、各町におかれましては広報誌による周知など、今後も情報提供をさせていただく。
・　計画（案）の 88 ページについて、将来像の中で「江差マース」の矢印が点線で南部から北部に伸びているが、こちらについては函館バス株式会社様による補助路線との競合が想定されることから、導入を検討するにあたっては「路線バス」と「江差マース」の役割分担を図りながら、検討を進めていただきたい。

事務局

・　「江差マース」については、基本的に今回の実証実験のような既存の公共交通との役割分担をもちながらの構築にはなるが、住民から北部・南部間の移動需要がアンケート調査等で多く見受けられたところ。
・　住民の移動ニーズを「江差マース」に十分に反映していく必要があるものと捉えているが、引き続き、路線バスを中心とした交通網の中で、バランスを見ながら慎重に進めていく考え。
・　あくまでも町内全域を前提に進めるものではなく、来年度以降、本協議会を中心に移動ニーズと照らし合わせながら検討していきたい。

⇒他の委員から意見等が特段ないため、議案資料の内容により承認

3（3）：事務局から議案資料に基づき説明。

【質疑・意見交換等】

NPO 法人南桧山在宅福祉支援ゆい：小野寺委員

・　これまでの議論を踏まえて、細かい点の協議を進める場として、全体の会議以外にも、専門部会などの分科会での協議が必要で、来年度以降、活動を進めていく旨事務局から説明があったが、それぞれの部会で関わる方々との議論を密に進めるためにも、可能な限り、事業計画以上の開催を検討いただきたい。
・　先程意見交換のあった、地域公共交通計画における将来像について、「江差マース」の実証実験でも議論のあった北部・南部による区分けなど、こうした論議は全体の協議会で行うのか、専門部会や住民部会といった分科会で行うのかなど、どのように進められるのか。
・　将来像については、遠い将来ということではなく、鋭意、実現に向けてできるだけ早く進めてもらいたいと思うが、どの段階のものを将来像として示しているのか。
・　「江差マース」について、これまで町内会の方々のご協力もいただいた中で、当然ながら様々な意見はあるものの、本格運行化に向けて、実証実験を重ねていきながら、多くの方々に利用方法等を理解していただく、より利用しやすい運行方法を模索していくといったことが必要であると考えるが、来年度の有償による実証運行は、事業計画に示されている１～３月の時期でなければいけないものなのか。
・　冬季期間の厳しい時期に実施することも重要な観点であるとは思うが、１年も先の時期になってしまうと忘れられてしまうため、１～３月の時期にこだわらず、もっと早い時期に実施することはできないか。

事務局

・　専門部会では交通事業者を中心に公共交通事業の課題に関する協議を進める場として、住民部会では住民代表団体等を中心にこれまでの調査結果や今後の方向性等について説明・住民要望をとりまとめる場として、福祉部会では先程申し上げたとおり福祉有償運送についての議論を進める場としての役割をそれぞれ想定しているが、いずれにしても、これまでは全体での協議会を中心に議論を進めてきたものから、来年度以降に関しては、分科会を中心とした協議を継続的に実施し、各部会の協議結果等を最終的に本協議会でお諮りする流れとしていきたい。
・　地域公共交通計画の将来像について、計画期間が来年度からの５年間であり、「江差マース」などの計画期間内での交通施策のあり方を示していることから、計画期間を経た５年後の将来像を想定したもの。

・　社会情勢の変化等により、既存のバス路線や江差マースなどの状況が変わることも想定されるので、適宜、地域公共交通計画の見直しを図りながら進めていきたい。
・　「江差マース」の有償による実証運行については、現時点での予定スケジュールであり前後する可能性は十分にあるが、本格運行化にあたって、かなりの事業費が発生することが予想でき、これまでもこれからも補助事業を活用しながらの展開と想定している。
・　補助事業の活用に向けた準備、関係事業者との合意形成などの兼ね合いから、これまで積み上げてきたものを活かしながら、一定程度、時間をかけて進めていくべきものと捉えているので、ご理解いただきたい。
・　「江差マース」については、次回の展開を、有償による実証運行としているが、より本格運行化を意識した取り組みを進めていく必要があると捉えており、現時点の想定ではあるが、来年度の実証運行からシームレスな形で、令和６年度での本格運行化につなげていきたい考え。
・　交通事業者との協議を重ねながら、住民の熱を冷まさないよう、要所で住民の方々に考えていただく機会の創出も併せて取り組んでいきたい。
⇒他の委員から意見等が特段ないため、議案資料の内容により承認

第２章　民間バス路線乗降調査

江差町地域公共交通活性化協議会資料

民間バス路線乗降調査結果

目次

1. 調査概要 ・・・ 2
2. 調査結果（概要） ・・・ 3
1 利用者の動き ・・・ 3
2 OD図 ・・・ 4
3 利用者数 ・・・ 20
3. 函館・江差線（610系統） ・・・ 21
4. 江差・小砂子線（621系統） ・・・ 31
5. 江差・小砂子線（622系統） ・・・ 39
6. 桧山海岸線（624系統） ・・・ 45
7. 江差・木古内線（631系統） ・・・ 55
8. 江差・木古内線（632系統） ・・・ 65
9. 館線（641系統） ・・・ 70
10. 館線（642系統） ・・・ 75
11. 館線（643系統） ・・・ 80
12. 館線（644系統） ・・・ 85
13. 館線（661系統） ・・・ 90
14. 館線（662系統） ・・・ 95
15. 木間内線（663系統） ・・・ 100
16. 稲見線（651系統） ・・・ 105
17. 稲見線（653系統） ・・・ 110

1

２.１　調査概要

１．調査概要

１　調査の目的

・町内を運行している各種公共交通の利用状況の把握に向け、各種公共交通の利用実態調査を実施

２　調査実施日

・令和４年１１月１日（火）

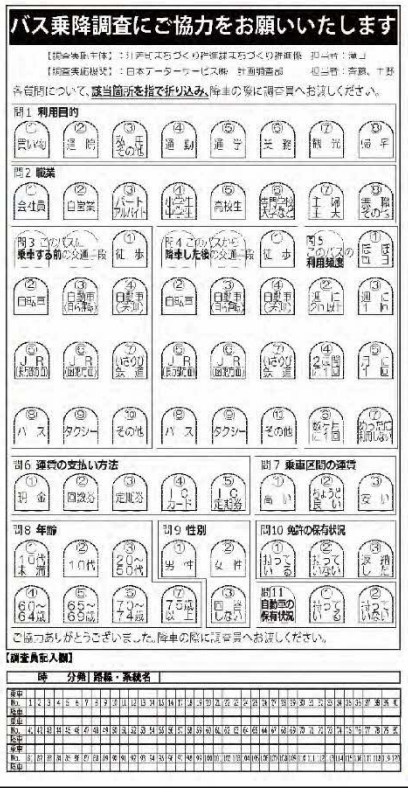
３　調査対象路線（全利用者数：592人/日）

路線	起点	→	終点	便数	利用者数	内高校生
函館・江差線 610系統	江差ターミナル	→	函館バスセンター	5	235	36
	函館バスセンター	→	江差ターミナル	5		
江差・小砂子線 621系統	江差ターミナル	→	原口漁港前	3	12	0
	原口漁港前	→	江差ターミナル	3		
江差・小砂子線 622系統	江差ターミナル	→	小砂子	1	13	3
	小砂子	→	江差ターミナル	2		
桧山海岸線 624系統	江差ターミナル	→	熊石	6	175	48
	熊石	→	江差ターミナル	6		
江差・木古内線 631系統、632系統	江差病院前/江差高校前	→	木古内駅前	6	110	21
	木古内駅前	→	江差病院前/江差高校前	6		
館線 641～644系統	江差ターミナル	→	富里	2	15	12
	富里	→	江差ターミナル	2		
館線 661系統、662系統	江差ターミナル	→	東部館	2	17	0
	東部館	→	江差ターミナル	2		
稲見線 651～653系統	江差ターミナル	→	稲見	2	12	3
	稲見	→	江差ターミナル	2		
木間内線 663系統	上木間内	→	江差ターミナル	1	3	3

４　調査方法

・調査員の全便乗り込み調査
※利用者数は、カウント調査
※利用実態は、右図のビンゴ式アンケート調査

５　調査票


バス乗降調査にご協力をお願いいたします

各質問について、該当箇所を指で折り込み、降車の際に調査員へお渡しください。

問1 利用目的
問2 職業
問3 このバスに乗車する前の交通手段
問4 このバスを降車した後の交通手段
問5 このバスの利用頻度
問6 運賃の支払い方法
問7 乗車区間の運賃
問8 年齢
問9 性別
問10 免許の保有状況
問11 自動車の保有状況

ご協力ありがとうございました。降車の際に調査員へお渡しください。

【調査員記入欄】

時　分発｜路線・系統名

２.２　調査結果概要

２．調査結果（概要）

１　利用者の動き

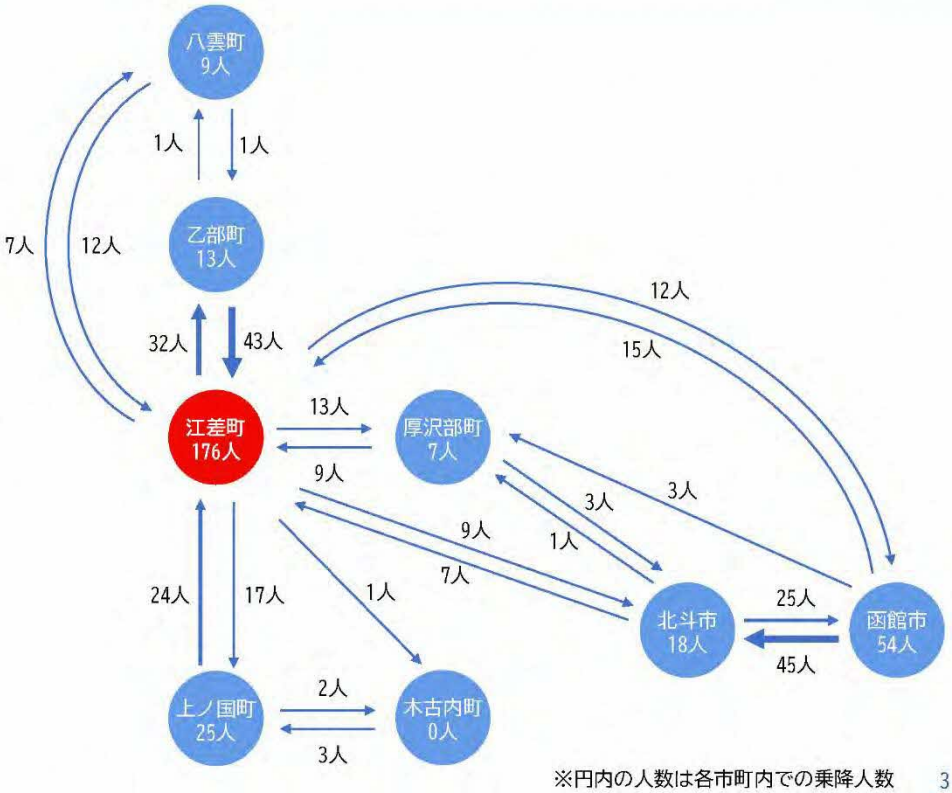
■江差町を発着する人数
・江差町内　176人
・江差町→町外　91人
・町外→江差町　110人

■江差町を発地とする利用者の多い区間
・江差町→乙部町　32人
・江差町→上ノ国町　17人
・江差町→厚沢部町　13人

■江差町を着地とする利用者の多い区間
・乙部町→江差町　43人
・上ノ国町→江差町　24人
・函館市→江差町　15人

■江差町を発着地とする利用者の多い区間
・江差町～乙部町　75人
・江差町～上ノ国町　41人
・江差町～函館市　27人

【注意】
本資料の利用者数はバス路線ごとの調査を集計したものであり、乗り継ぎなどによる最終的な目的地を把握するものではない。

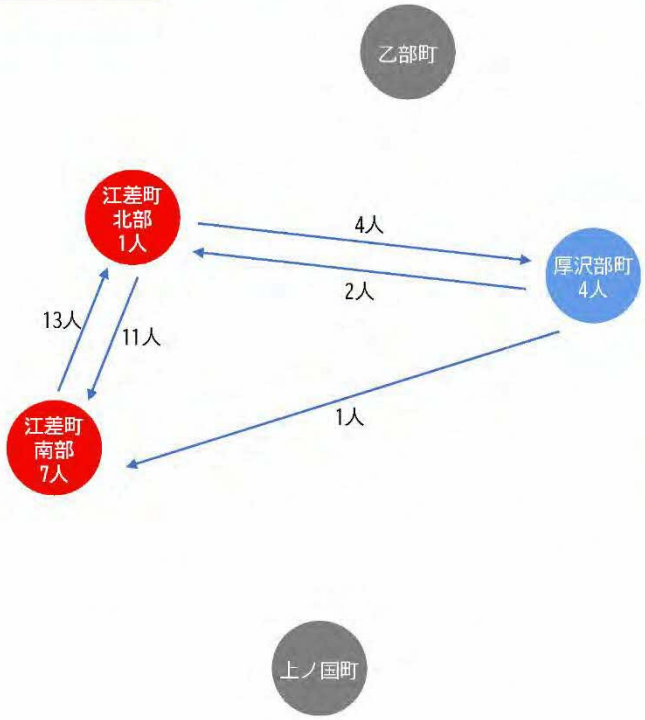


※円内の人数は各市町内での乗降人数　3

２．調査結果（概要）

２　OD図（図化は近隣自治体間の動きのみ）

２-１　函館・江差線（610系統）



【管内外への移動状況】

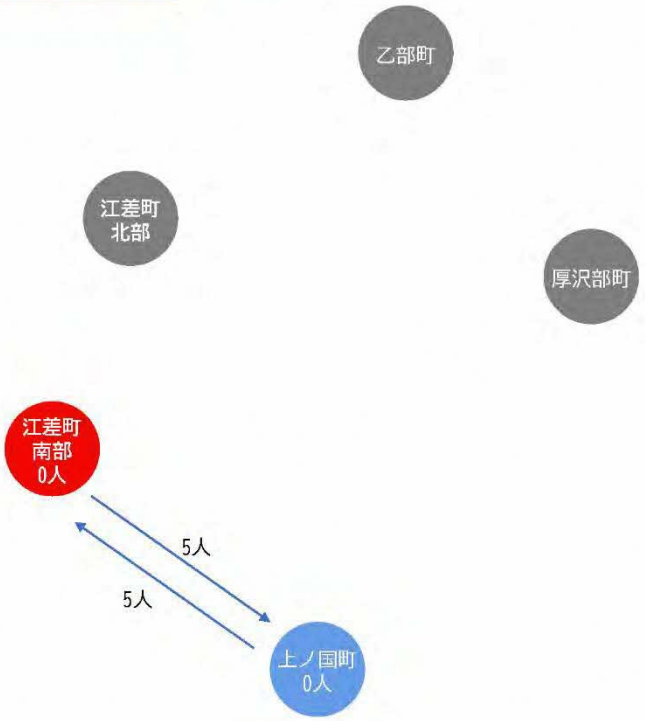
乗車	降車	利用者数
江差町南部	北斗市	3人
〃	函館市	8人
江差町北部	北斗市	6人
〃	函館市	4人
厚沢部町	北斗市	3人
〃	函館市	0人
北斗市	北斗市	18人
〃	函館市	25人
〃	江差町南部	3人
〃	江差町北部	4人
〃	厚沢部町	1人
函館市	北斗市	45人
〃	函館市	54人
〃	江差町南部	10人
〃	江差町北部	5人
〃	厚沢部町	3人

※円内の人数は各市町内での乗降人数　4

2．調査結果（概要）

2　OD図（図化は近隣自治体間の動きのみ）

2-2　江差・小砂子線（621系統）

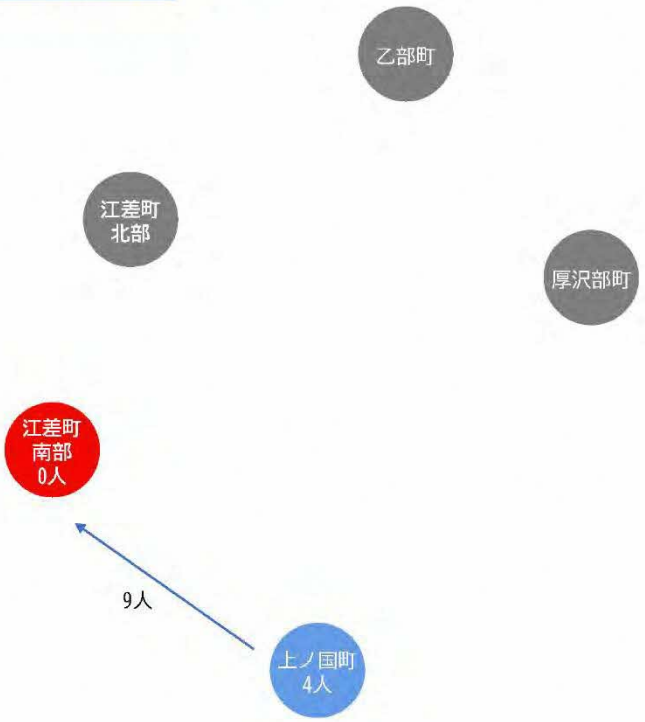


※円内の人数は各市町内での乗降人数　5

2．調査結果（概要）

2　OD図（図化は近隣自治体間の動きのみ）

2-3　江差・小砂子線（622系統）

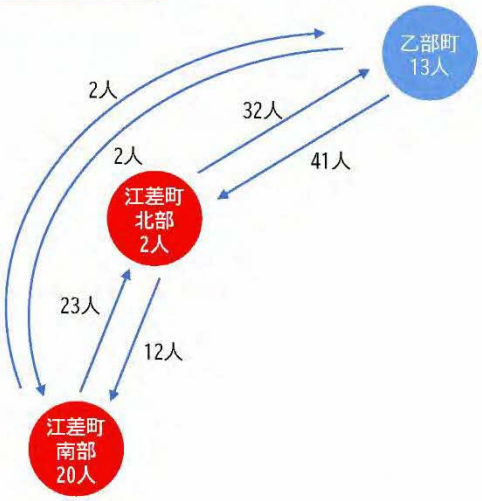


※円内の人数は各市町内での乗降人数　6

2．調査結果（概要）

2　OD図（図化は近隣自治体間の動きのみ）

2-4　桧山海岸線（624系統）



【管内外への移動状況】

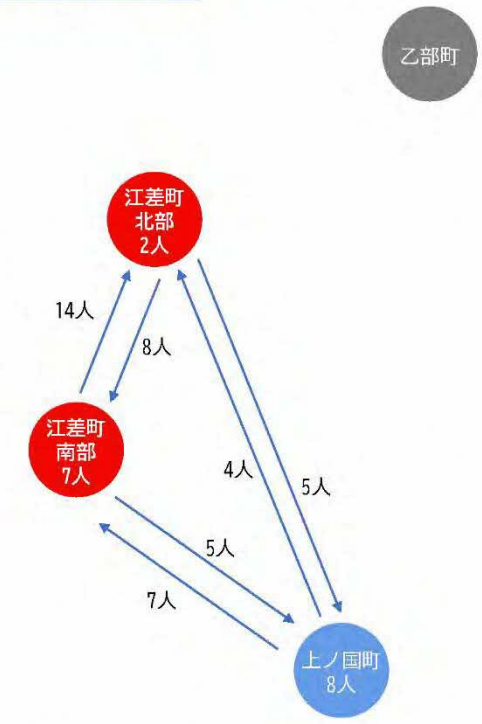
乗車	降車	利用者数
江差町南部	八雲町	0人
江差町北部	八雲町	7人
乙部町	八雲町	1人
八雲町	八雲町	9人
〃	江差町北部	11人
〃	江差町南部	1人
〃	乙部町	1人

※円内の人数は各市町内での乗降人数　7

2．調査結果（概要）

2　OD図（図化は近隣自治体間の動きのみ）

2-5　江差・木古内線（631系統）



【管内外への移動状況】

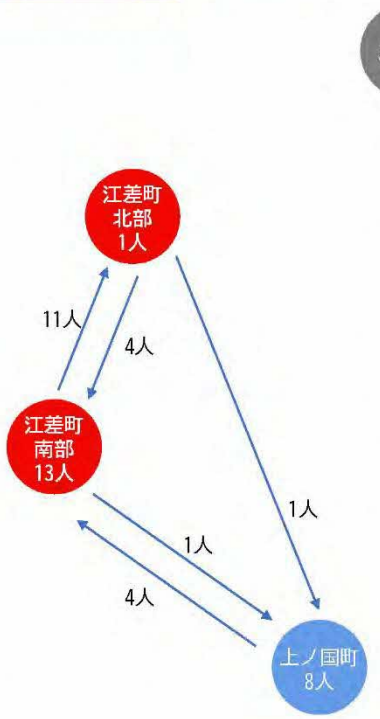
乗車	降車	利用者数
江差町南部	木古内町	0人
江差町北部	木古内町	0人
上ノ国町	木古内町	2人
木古内町	木古内町	0人
〃	江差町北部	0人
〃	江差町南部	0人
〃	上ノ国町	3人

※円内の人数は各市町内での乗降人数　8

2．調査結果（概要）

2　OD図（図化は近隣自治体間の動きのみ）

2-6　江差・木古内線（632系統）



【管内外への移動状況】

乗車	降車	利用者数
江差町南部	木古内町	1人
江差町北部	木古内町	0人
上ノ国町	木古内町	0人
木古内町	木古内町	0人
〃	江差町北部	0人
〃	江差町南部	0人
〃	上ノ国町	0人

※円内の人数は各市町内での乗降人数　9

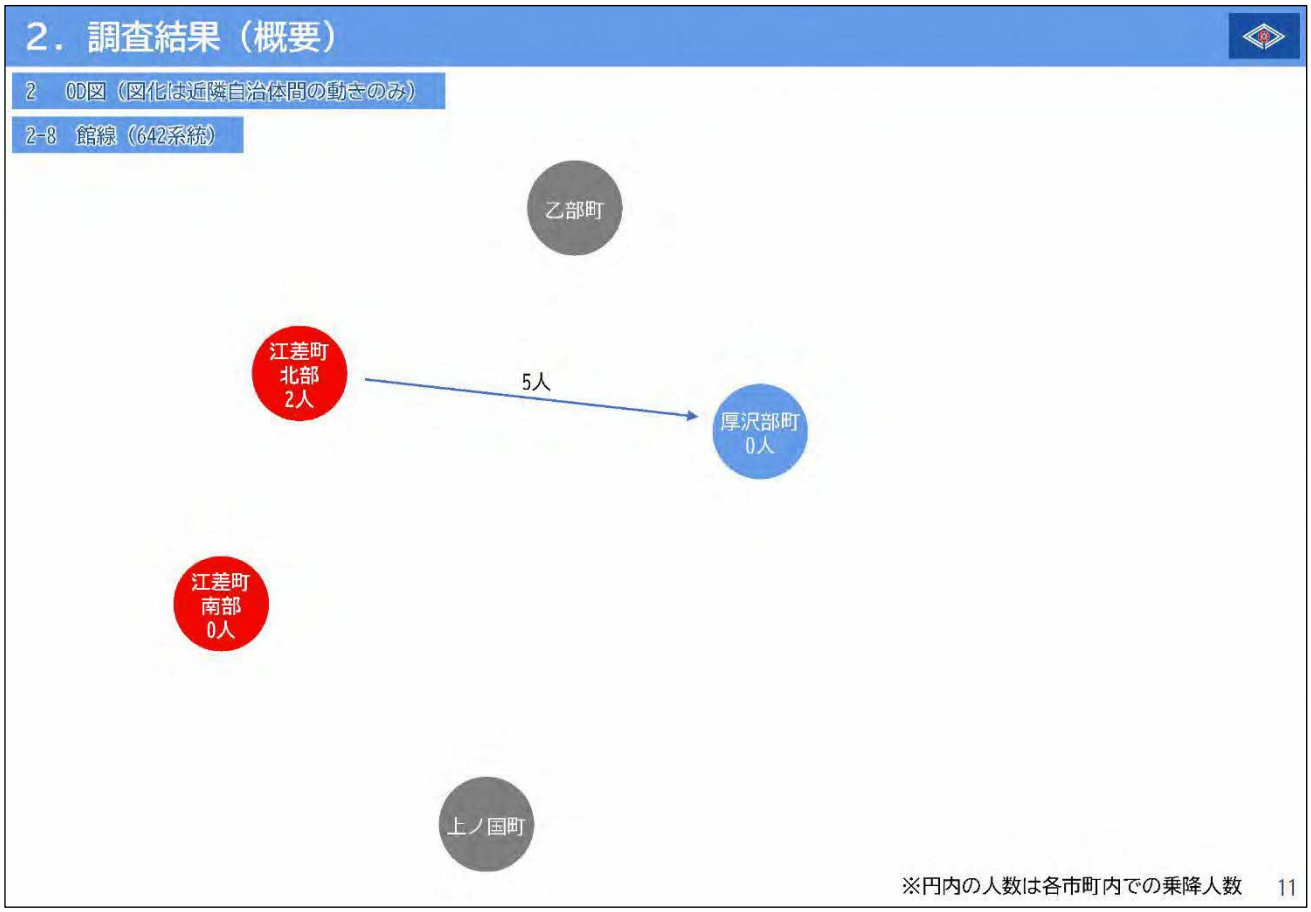
2．調査結果（概要）

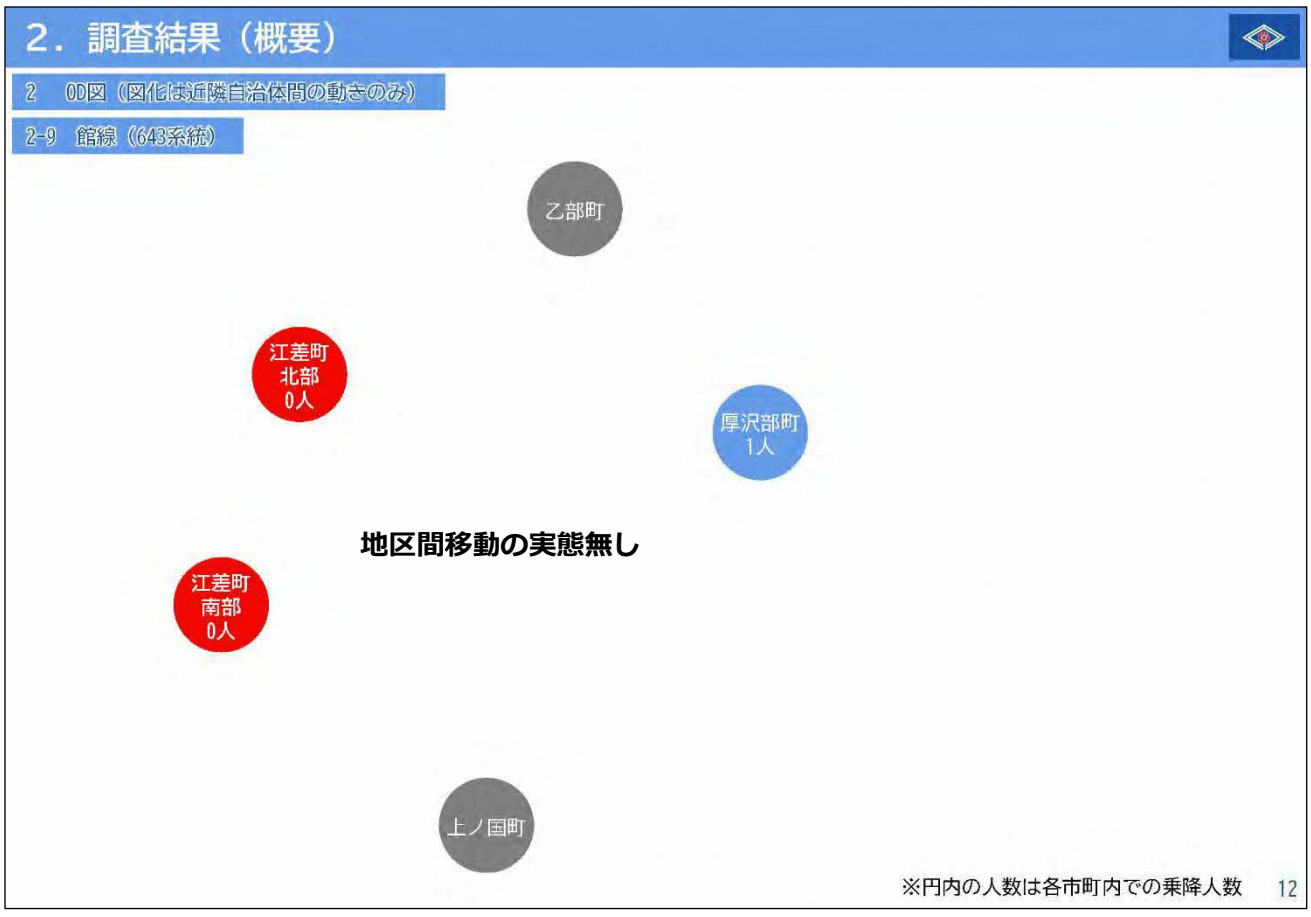
2　OD図（図化は近隣自治体間の動きのみ）

2-7　館線（641系統）



※円内の人数は各市町内での乗降人数　10

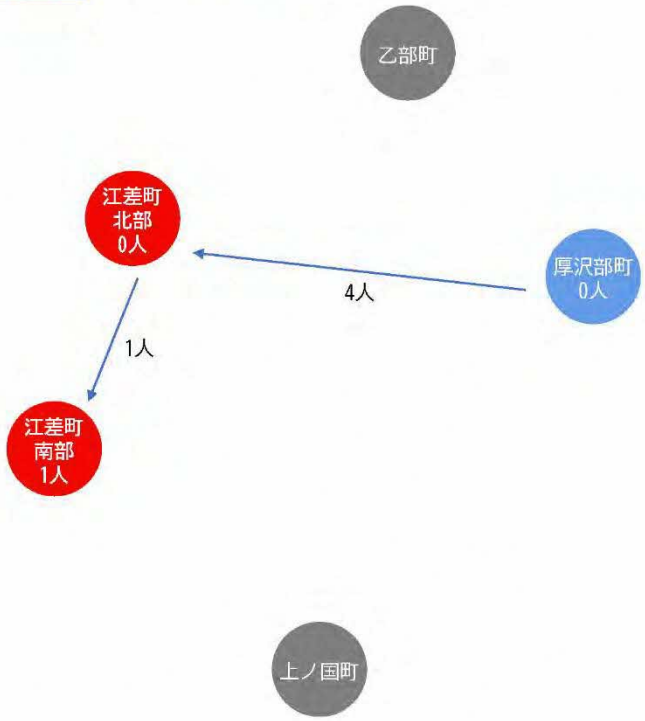

2．調査結果（概要）
2　OD図（図化は近隣自治体間の動きのみ）
2-8　館線（642系統）
乙部町
江差町
北部
2人
5人
厚沢部町
0人
江差町
南部
0人
上ノ国町
※円内の人数は各市町内での乗降人数
11


2．調査結果（概要）
2　OD図（図化は近隣自治体間の動きのみ）
2-9　館線（643系統）
乙部町
江差町
北部
0人
厚沢部町
1人
地区間移動の実態無し
江差町
南部
0人
上ノ国町
※円内の人数は各市町内での乗降人数
12

２．調査結果（概要）

２　OD図（図化は近隣自治体間の動きのみ）

２-10　館線（644系統）

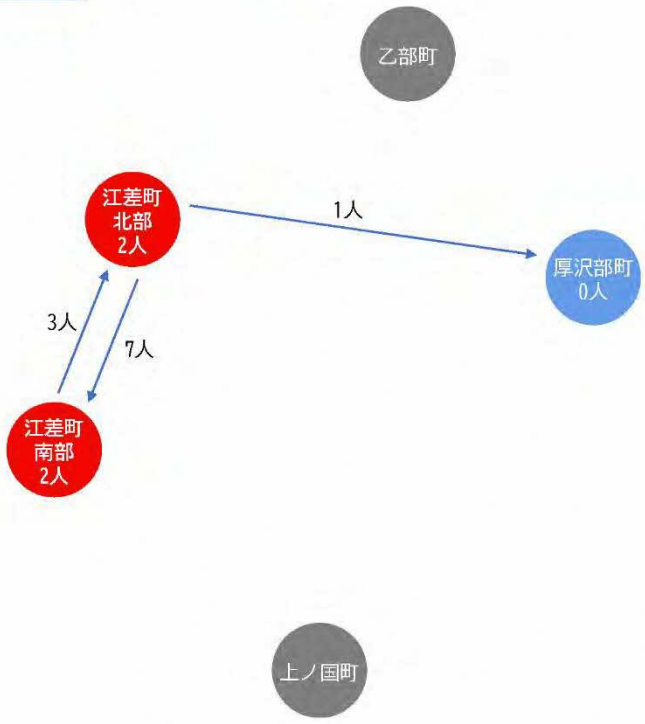


※円内の人数は各市町内での乗降人数　13

２．調査結果（概要）

２　OD図（図化は近隣自治体間の動きのみ）

２-11　館線（661系統）

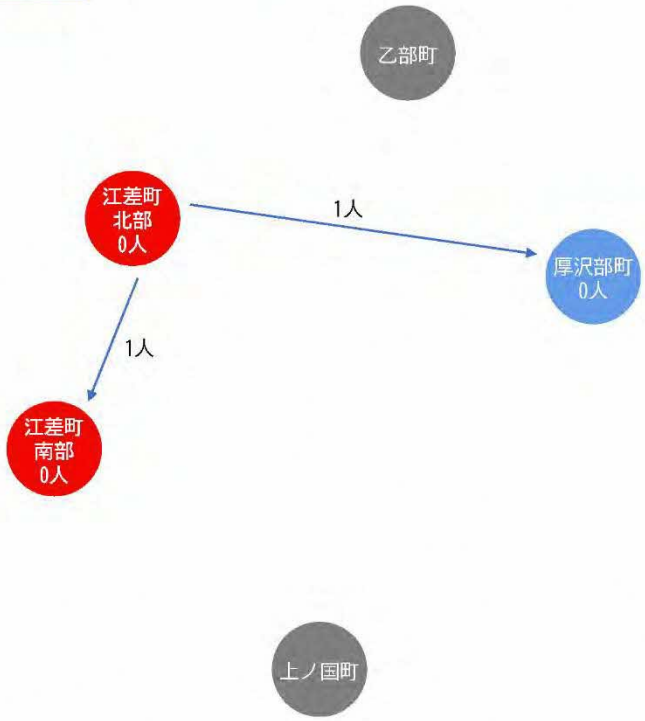


※円内の人数は各市町内での乗降人数　14

２．調査結果（概要）

２　OD図（図化は近隣自治体間の動きのみ）

2-12　館線（662系統）

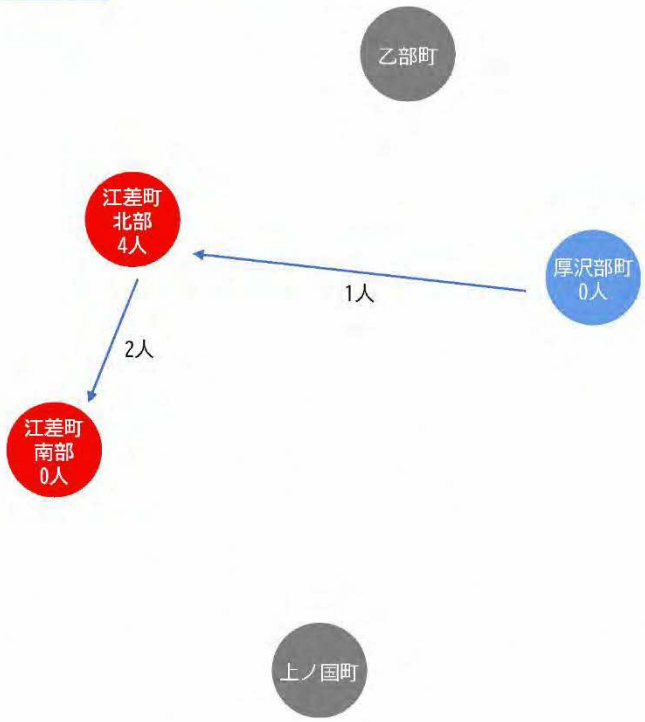


※円内の人数は各市町内での乗降人数　15

２．調査結果（概要）

２　OD図（図化は近隣自治体間の動きのみ）

2-13　稲見線（651系統）



※円内の人数は各市町内での乗降人数　16

２．調査結果（概要）

２　OD図（図化は近隣自治体間の動きのみ）

2-14　稲見線（652系統）

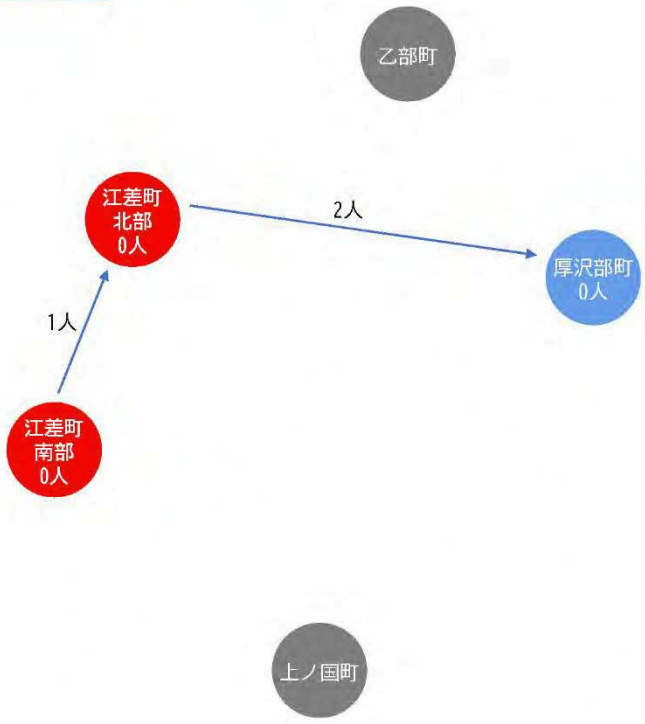


※円内の人数は各市町内での乗降人数　17

２．調査結果（概要）

２　OD図（図化は近隣自治体間の動きのみ）

2-15　稲見線（653系統）



※円内の人数は各市町内での乗降人数　18

２．調査結果（概要）

２　OD図（図化は近隣自治体間の動きのみ）

2-16　木間内線（663系統）



※円内の人数は各市町内での乗降人数　19

２．調査結果（概要）

３　利用者数

路線名	系統	起点→終点	便数（便）	利用者数（人）	1便当たり利用者数（人/便）	最も利用者数の多い便		
						発時刻	発バス停	利用者数（人）
函館・江差線	610	江差ターミナル　→　函館バスセンター	5	114	22.8	05:50	江差ターミナル	37
		函館バスセンター　→　江差ターミナル	5	121	24.2	15:00	函館バスセンター	36
江差・小砂子線	621	原口漁港前　→　江差ターミナル	3	3	1.0	11:46	原口漁港前	1
		江差ターミナル　→　原口漁港前	3	9	3.0	10:27	江差ターミナル	6
	622	江差ターミナル　→　小砂子	1	1	1.0	18:50	江差ターミナル	1
		小砂子　→　江差ターミナル	2	12	6.0	06:26	小砂子	7
檜山海岸線	624	熊石　→　江差ターミナル	6	95	15.8	07:00	熊石	32
		江差ターミナル　→　熊石	6	80	13.3	15:47	江差ターミナル	26
江差・木古内線	631	江差高校前　→　木古内駅前	2	17	8.5	15:45	江差高校前	13
		江差病院前　→　木古内駅前	3	11	3.7	10:40	江差病院前	9
		木古内駅前　→　江差高校前	1	21	21.0	06:19	木古内駅前	21
		木古内駅前　→　江差病院前	4	17	4.3	11:07	木古内駅前	7
	632	江差高校前　→　木古内駅前	1	14	14.0	12:18	江差高校前	14
		木古内駅前　→　江差病院前	1	30	30.0	09:16	木古内駅前	30
館線	641	江差ターミナル　→　富里	1	1	1.0	06:15	江差ターミナル	1
	642	江差ターミナル　→　富里	1	7	7.0	15:27	江差ターミナル	7
	643	富里　→　江差ターミナル	1	1	1.0	16:46	富里	1
	644	富里　→　江差ターミナル	1	6	6.0	07:22	富里	6
	661	江差ターミナル　→　東部館	1	7	7.0	11:55	江差ターミナル	7
		東部館　→　江差ターミナル	1	8	8.0	13:08	東部館	8
	662	江差ターミナル　→　東部館	1	1	1.0	18:25	江差ターミナル	1
		東部館　→　江差ターミナル	1	1	1.0	19:24	東部館	1
稲見線	651	稲見　→　江差ターミナル	1	7	7.0	07:32	稲見	7
	652	稲見　→　江差ターミナル	1	0	0.0	－	－	－
		江差ターミナル　→　稲見	1	0	0.0	－	－	－
	653	江差ターミナル　→　稲見	1	3	3.0	17:00	江差ターミナル	3
木間内線	663	上木間内　→　江差ターミナル	1	3	3.0	07:30	上木間内	3

20

２.３調査結果詳細（函館・江差線（610 系統））

3．函館・江差線（610系統）

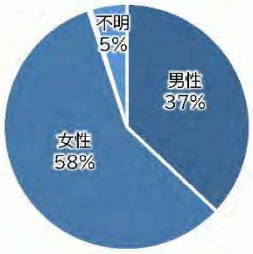
1　運行便数と利用者数

起点 → 終点	発時刻	着時刻	利用者数（人）
江差ターミナル → 函館バスセンター	5時 50分	8時 28分	37
	7時 45分	10時 23分	29
	11時 0分	13時 38分	20
	15時 12分	17時 50分	20
	18時 46分	21時 24分	8
函館バスセンター → 江差ターミナル	6時 44分	9時 20分	26
	10時 0分	12時 36分	22
	13時 24分	16時 0分	19
	15時 0分	17時 36分	36
	18時 51分	21時 27分	18

2　利用者の属性　（利用者数　235人）

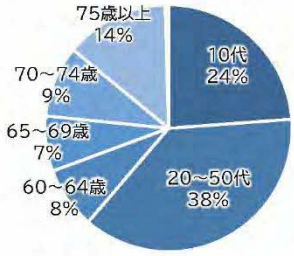
性別

女性が5割以上



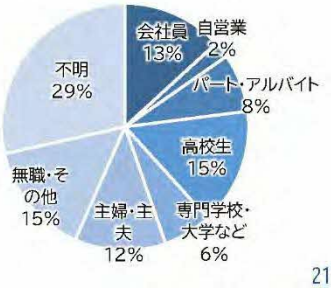
年齢

20～50代が3割以上



職業

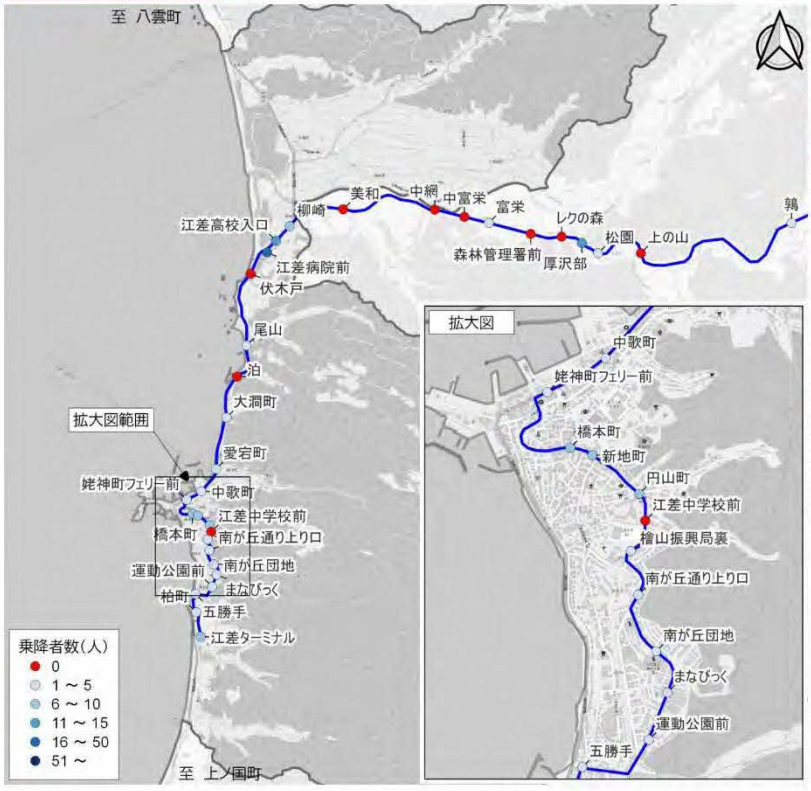
高校生、会社員、主婦・主夫の順で多い



21

3．函館・江差線（610系統）

3　バス停別乗降者数



「鶉」以東のバス停

乗降者数	バス停
	うずら神社前
	うずら温泉入口
	錦景協前
	錦学校前
	下木間内
	旭丘（厚沢部）
	木間内
	上木間内
	村山
	石山
	小川
	新函館北斗駅（5番のりば）
	市渡北
	市渡本町
	市渡
	鹿島神社前
	本郷
	大野小学校前
	総合分庁舎前
	新道
	北斗消防署北分署
	大野中学校前
	清水川
	工業団地前
	開発
	東前
	中央車前
	しんわの湯
	八軒家

乗降者数	バス停
	萩野
	追分福祉センター
	追分グリーンヴィラ
	浜分小学校前
	七重浜5丁目
	七重浜駅通
	桜ヶ丘団地前
	北大裏
	東通
	通小学校前
	市立函館病院（2番のりば）
	通町1丁目
	亀田小学校前
	変電所前
	田家入口
	警察署前（警察署側）
	五稜郭公園入口
	五稜郭（(2)シエスタハコダテ前）
	五稜郭（(5)丸井今井横）
	中央病院前
	千代台
	堀川町
	昭和橋
	千歳町
	新川町
	松風町（(3)成田山函館別院近く）
	函館駅前（7番のりば）
	松風町・グループホームそよかぜ前
	函館バスセンター

22

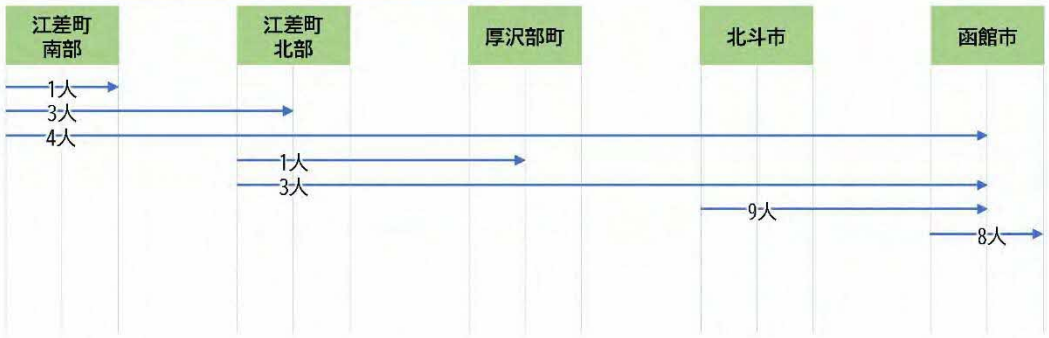
３．函館・江差線（610系統）

4　OD整理

4-1　江差ターミナル→函館バスセンター（5：50発）



4-2　江差ターミナル→函館バスセンター（7：45発）



23

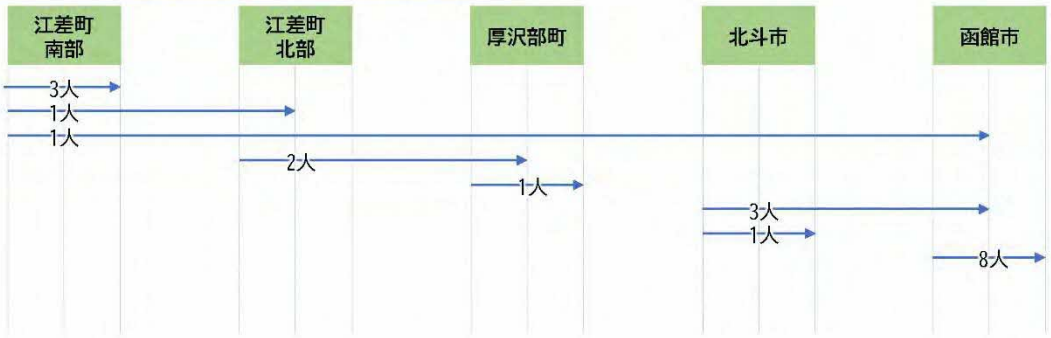
３．函館・江差線（610系統）

4　OD整理

4-3　江差ターミナル→函館バスセンター（11：00発）



4-4　江差ターミナル→函館バスセンター（15：12発）

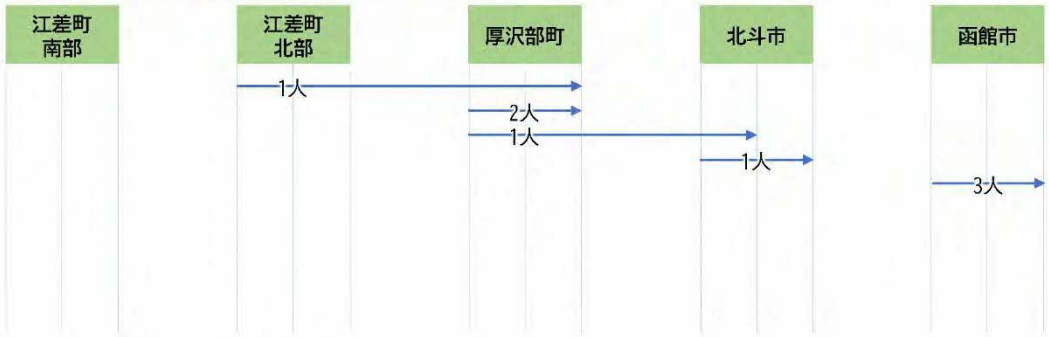


24

３．函館・江差線（610系統）

4　OD整理

4-5　江差ターミナル→函館バスセンター（18：46発）



25

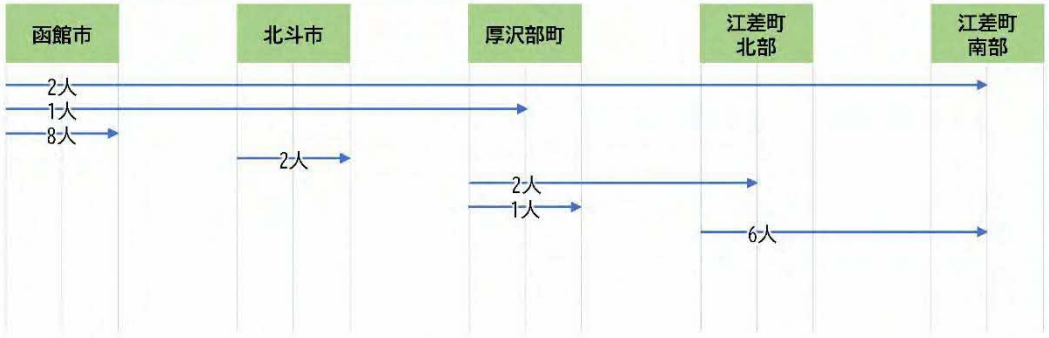
３．函館・江差線（610系統）

4　OD整理

4-6　函館バスセンター→江差ターミナル（6：44発）



4-7　函館バスセンター→江差ターミナル（10：00発）



26

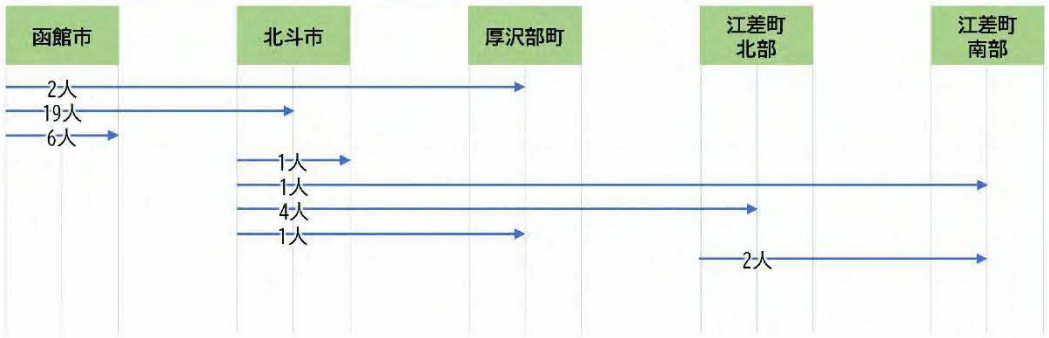
３．函館・江差線（610系統）

４　OD整理

4-8　函館バスセンター→江差ターミナル（13：24発）



4-9　函館バスセンター→江差ターミナル（15：00発）



27

３．函館・江差線（610系統）

４　OD整理

4-11　函館バスセンター→江差ターミナル（18：51発）



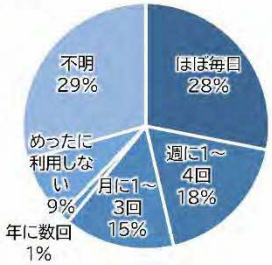
28

３．函館・江差線（610系統）

5　利用状況　（利用者数　235人）

利用頻度

ほぼ毎日の利用が3割以上



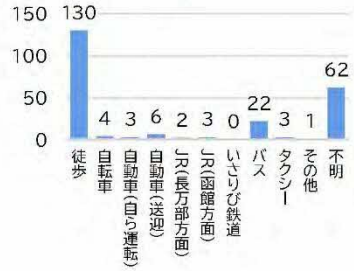
運賃の支払い方法

ICカードが4割以上



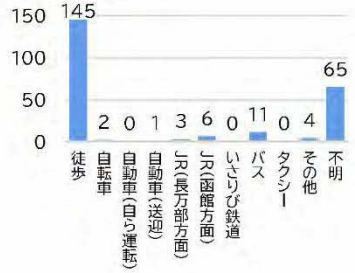
乗車前の交通手段

徒歩、バスの順で多い



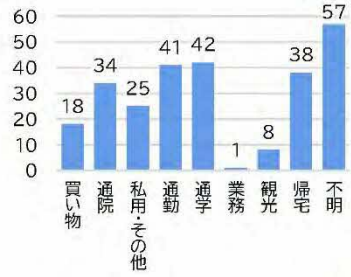
降車後の交通手段

徒歩、バスの順で多い



利用目的

帰宅以外では、通学、通勤、通院の順で多い



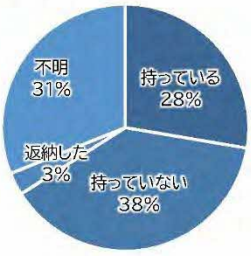
29

３．函館・江差線（610系統）

6　運転免許・自動車の保有状況　（利用者数　235人）

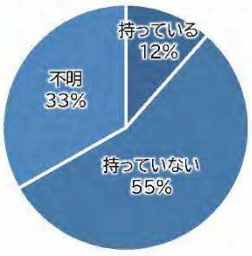
運転免許の保有

保有していないが3割以上



自動車の保有

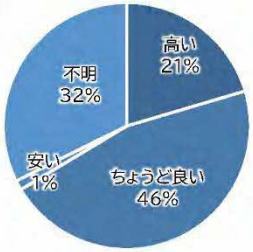
半数が保有していない



7　運賃　（利用者数　235人）

乗車区間の運賃

ちょうど良いが4割以上



30

２.４調査結果詳細（江差・小砂子線（621 系統））

4．江差・小砂子線（621系統）

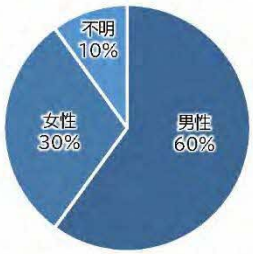
1　運行便数と利用者数

起点　→　終点	発時刻	着時刻	利用者数（人）
江差ターミナル　→　原口漁港前	10時　27分	11時　36分	6
	13時　17分	14時　26分	1
	16時　8分	17時　17分	2
原口漁港前　→　江差ターミナル	11時　46分	12時　55分	1
	14時　36分	15時　45分	0
	17時　27分	18時　36分	0

2　利用者の属性　（利用者数　10人）

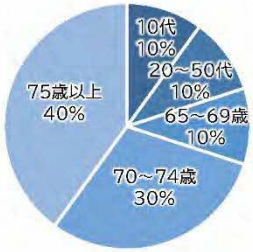
性別

男性が6割



年齢

75歳以上が4割



職業

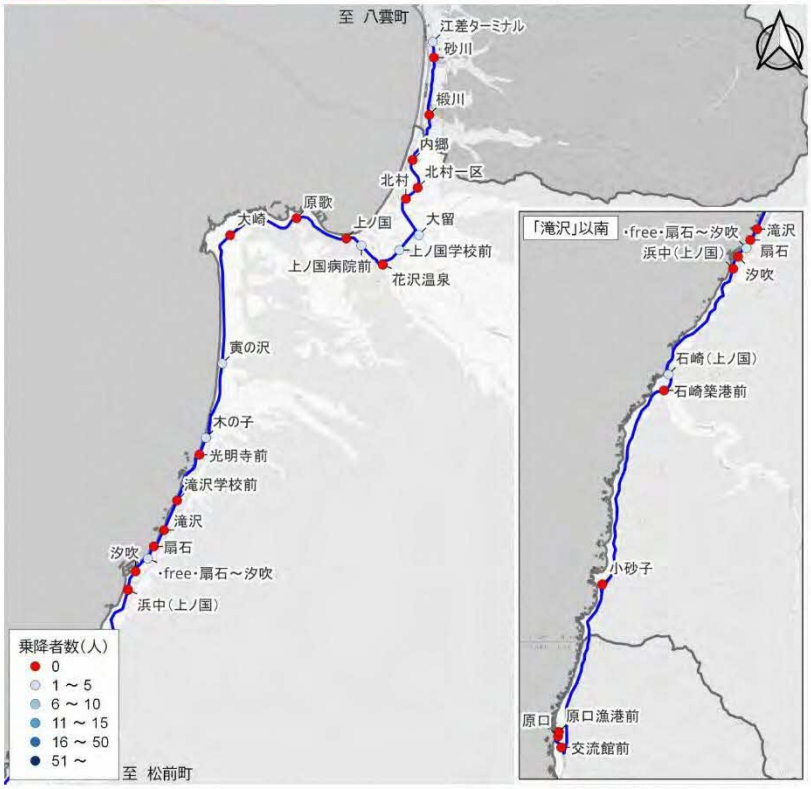
無職・その他が7割



31

4．江差・小砂子線（621系統）

3　バス停別乗降者数

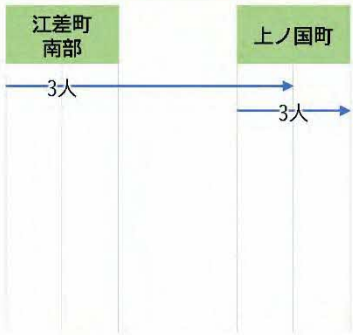


32

４．江差・小砂子線（621系統）

４　OD整理

4-1　江差ターミナル→原口漁港前（10：27発）



4-2　江差ターミナル→原口漁港前（13：17発）

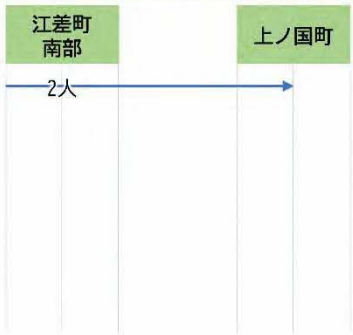


33

４．江差・小砂子線（621系統）

４　OD整理

4-3　江差ターミナル→原口漁港前（16：08発）

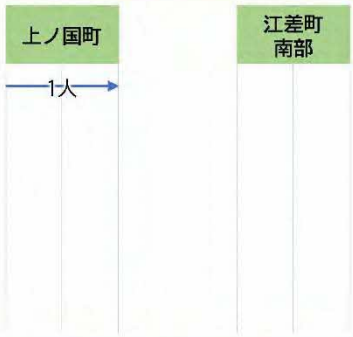


34

４．江差・小砂子線（621系統）

４　OD整理

4-4　原口漁港前→江差ターミナル（11：46発）



4-5　原口漁港前→江差ターミナル（14：36発）



35

４．江差・小砂子線（621系統）

４　OD整理

4-6　原口漁港前→江差ターミナル（17：27発）



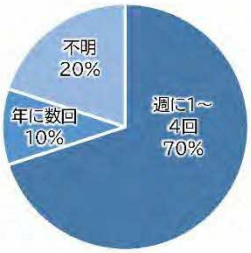
36

４．江差・小砂子線（621系統）

５　利用状況　（利用者数　10人）

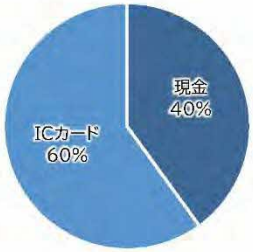
利用頻度

週に1回以上の利用が7割



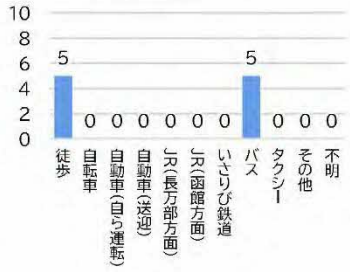
運賃の支払い方法

ICカードが6割



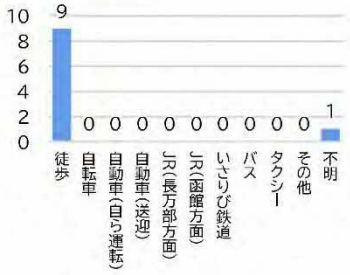
乗車前の交通手段

バス、徒歩の順で多い



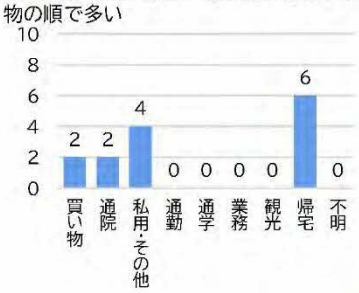
降車後の交通手段

徒歩が多い



利用目的

帰宅以外では、私用・その他、通院、買い物の順で多い



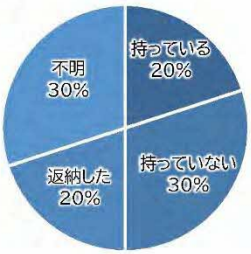
37

４．江差・小砂子線（621系統）

６　運転免許・自動車の保有状況　（利用者数　10人）

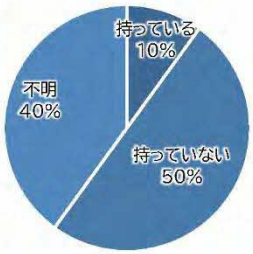
運転免許の保有

保有していないが3割



自動車の保有

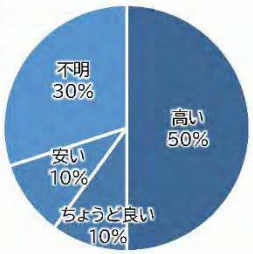
半数が保有していない



７　運賃　（利用者数　10人）

乗車区間の運賃

ちょうど良いが5割



38

２.５調査結果詳細（江差・小砂子線（622 系統））

5．江差・小砂子線（622系統）

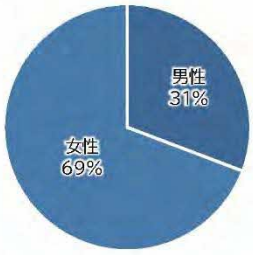
1　運行便数と利用者数

起点　→　終点	発時刻	着時刻	利用者数（人）
江差ターミナル　→　小砂子	18時　50分	19時　49分	1
小砂子　→　江差ターミナル	6時　26分	7時　25分	7
	9時　16分	10時　15分	5

2　利用者の属性　（利用者数　13人）

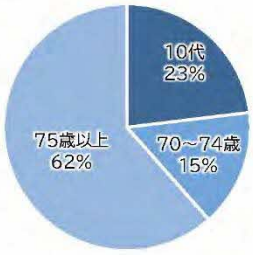
性別

女性が6割以上



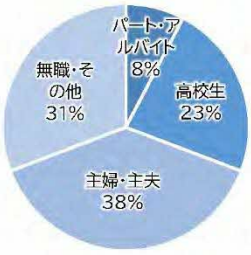
年齢

75歳以上が6割以上



職業

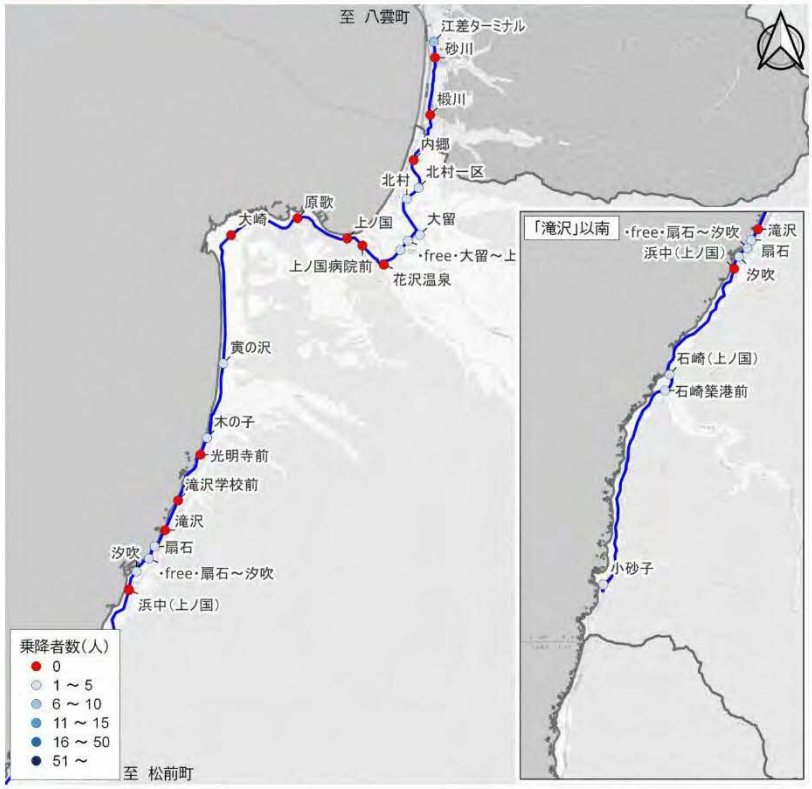
主婦・主夫が3割以上



39

5．江差・小砂子線（622系統）

3　バス停別乗降者数

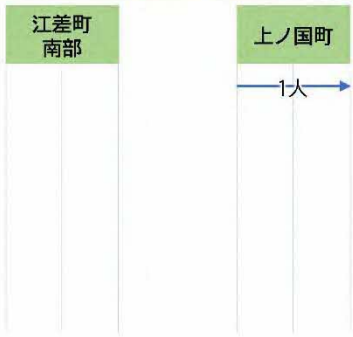


40

５．江差・小砂子線（622系統）

４　OD整理

4-1　江差ターミナル→小砂子（18：50発）

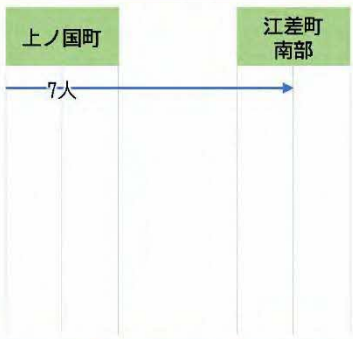


41

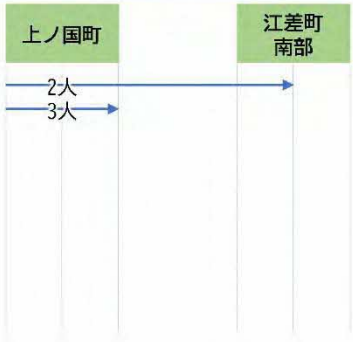
５．江差・小砂子線（622系統）

４　OD整理

4-2　小砂子→江差ターミナル（6：26発）



4-3　小砂子→江差ターミナル（9：16発）



42

5．江差・小砂子線（622系統）

5　利用状況　（利用者数　13人）

利用頻度

ほぼ毎日、週に1回から4回、月に1～3回の利用が同数



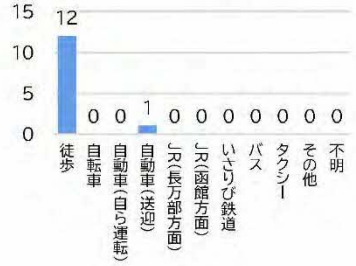
運賃の支払い方法

ICカードが6割以上



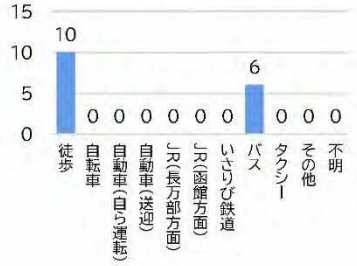
乗車前の交通手段

徒歩、自転車（送迎）の順で多い



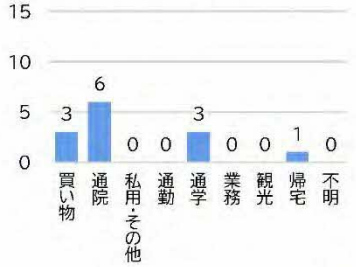
降車後の交通手段

徒歩、バスの順で多い



利用目的

通院、買い物の順で多い



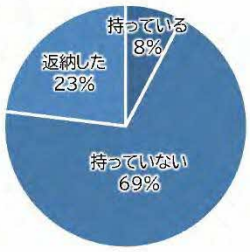
43

5．江差・小砂子線（622系統）

6　運転免許・自動車の保有状況　（利用者数　13人）

運転免許の保有

保有していないが6割以上



自動車の保有

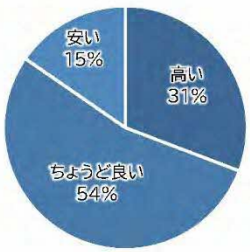
全員が保有していない



7　運賃　（利用者数　13人）

乗車区間の運賃

ちょうど良いが5割以上



44

２.６調査結果詳細（桧山海岸線（624 系統））

6．桧山海岸線（624系統）

1　運行便数と利用者数

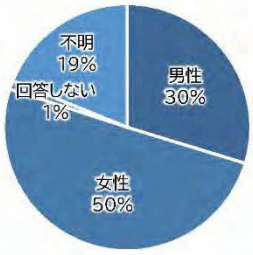
起点 → 終点	発時刻	着時刻	利用者数（人）
江差ターミナル → 熊石	5時 25分	6時 45分	4
	7時 27分	8時 50分	13
	8時 43分	10時 3分	17
	12時 0分	13時 20分	13
	15時 47分	17時 10分	26
	17時 35分	18時 58分	7

起点 → 終点	発時刻	着時刻	利用者数（人）
熊石 → 江差ターミナル	7時 0分	8時 24分	32
	9時 5分	10時 26分	29
	10時 18分	11時 39分	18
	14時 24分	15時 48分	9
	17時 25分	18時 46分	2
	19時 13分	20時 34分	5

2　利用者の属性　（利用者数　175人）

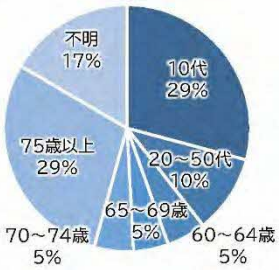
性別

女性が半数



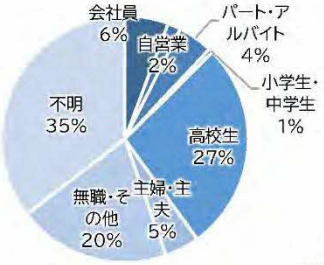
年齢

70歳以上が3割以上



職業

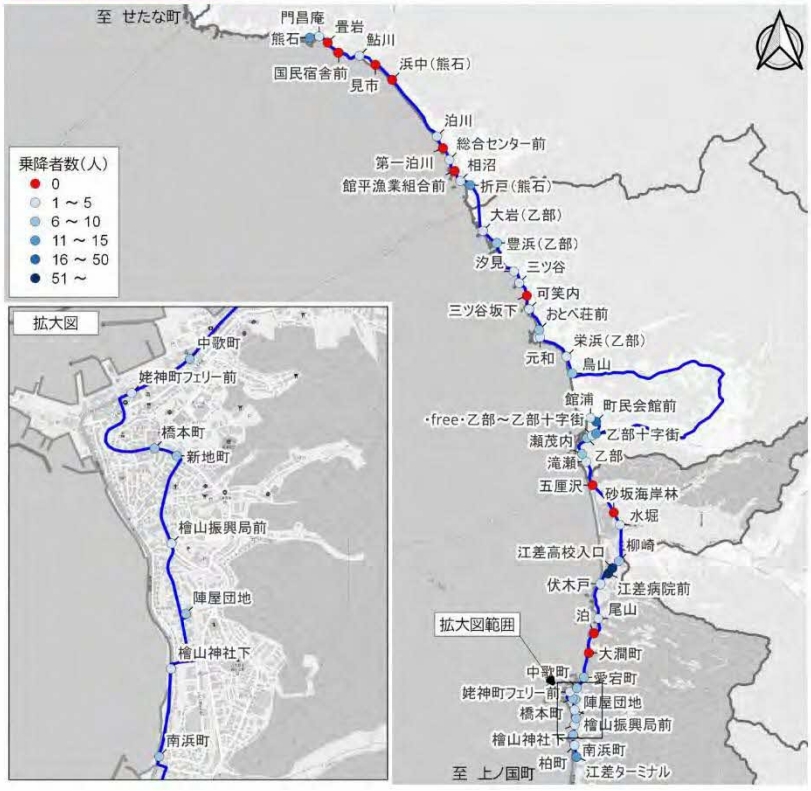
高校生、無職・その他の順で多い



45

6．桧山海岸線（624系統）

3　バス停別乗降者数

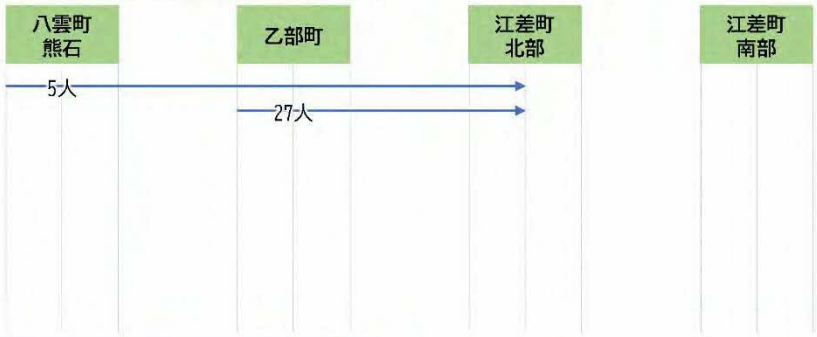


46

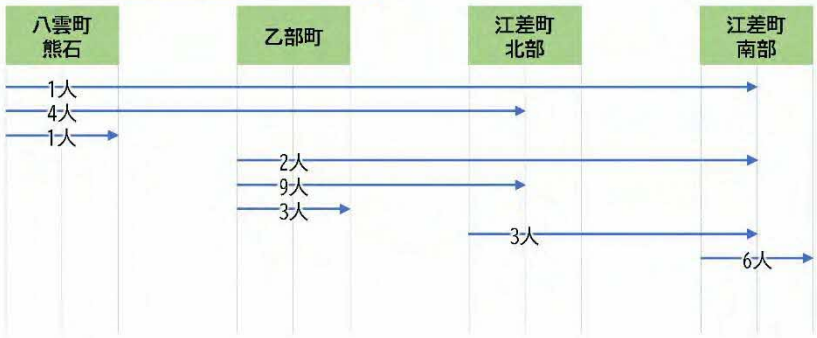
６．桧山海岸線（624系統）

4　OD整理

4-1　熊石→江差ターミナル（7：00発）



4-2　熊石→江差ターミナル（9：05発）

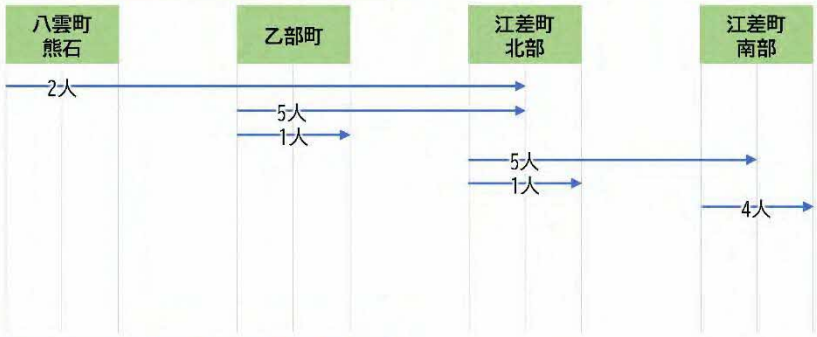


47

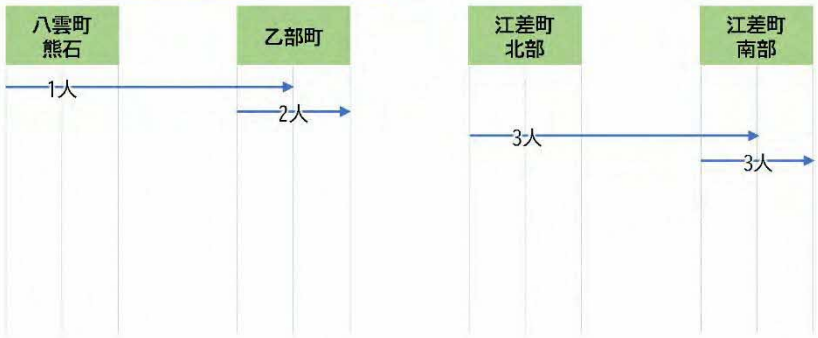
６．桧山海岸線（624系統）

4　OD整理

4-3　熊石→江差ターミナル（10：18発）



4-4　熊石→江差ターミナル（14：24発）

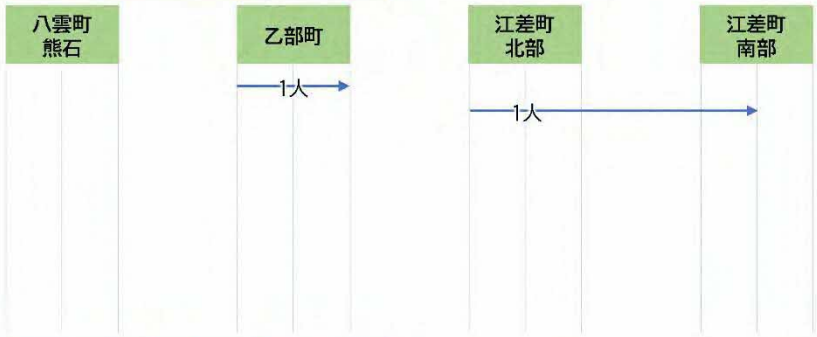


48

６．桧山海岸線（624系統）

4　OD整理

4-5　熊石→江差ターミナル（17：25発）



4-6　熊石→江差ターミナル（19：13発）



49

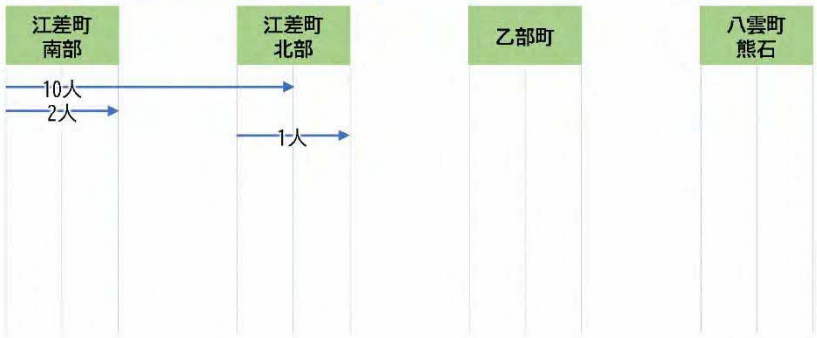
６．桧山海岸線（624系統）

4　OD整理

4-7　江差ターミナル→熊石（5：25発）



4-8　江差ターミナル→熊石（7：27発）

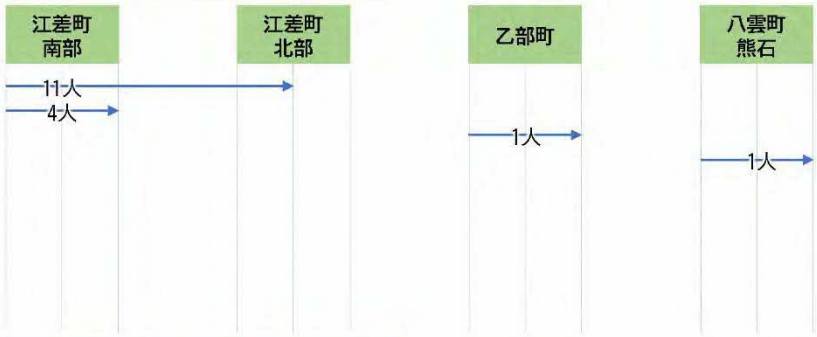


50

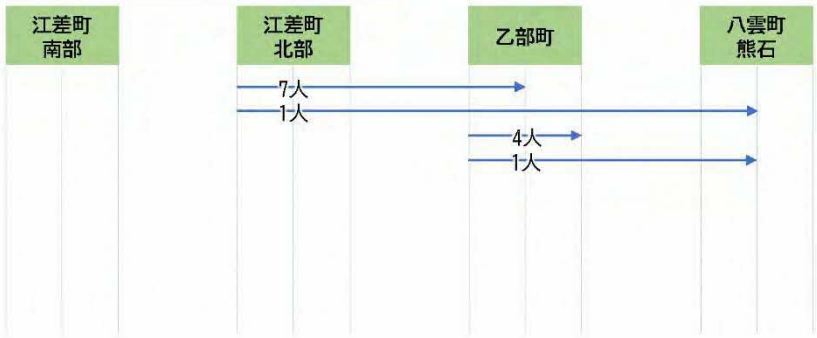
６．桧山海岸線（624系統）

4　OD整理

4-9　江差ターミナル→熊石（8：43発）



4-10　江差ターミナル→熊石（12：00発）

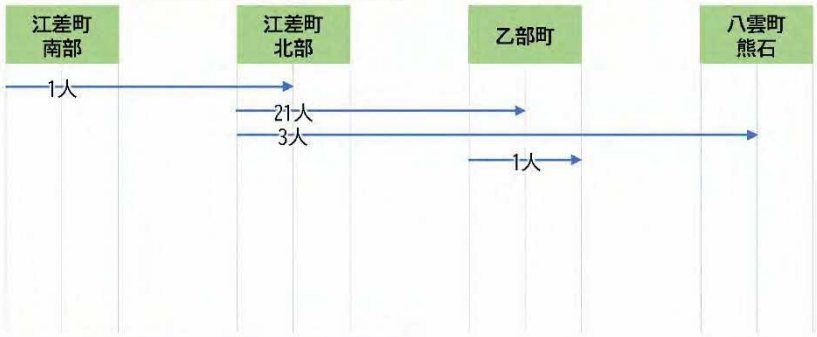


51

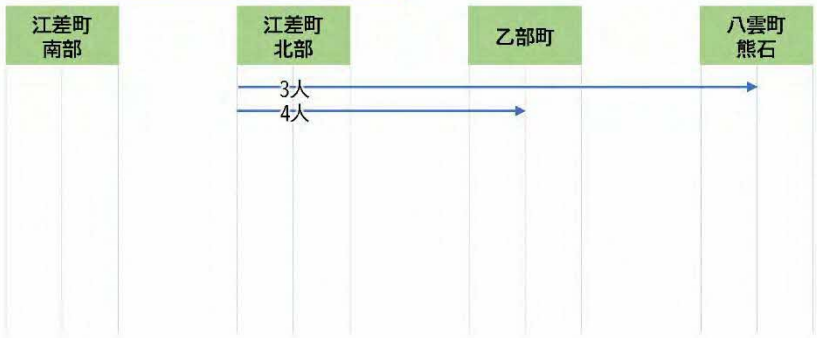
６．桧山海岸線（624系統）

4　OD整理

4-11　江差ターミナル→熊石（15：47発）



4-12　江差ターミナル→熊石（17：35発）



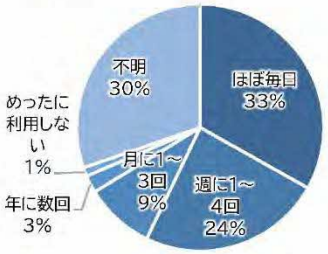
52

6．桧山海岸線（624系統）

5　利用状況　（利用者数　175人）

利用頻度

ほぼ毎日の利用が3割以上



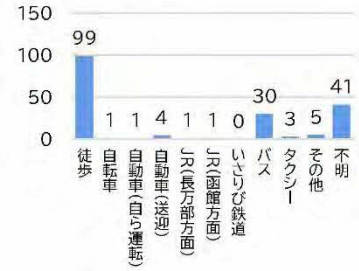
運賃の支払い方法

ICカードが3割以上



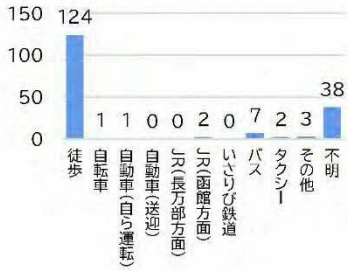
乗車前の交通手段

徒歩、バスの順で多い



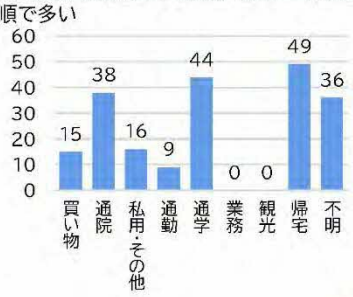
降車後の交通手段

徒歩、バスの順で多い



利用目的

帰宅以外では通学、通院、私用・その他の順で多い



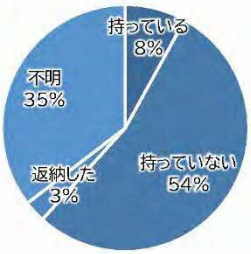
53

6．桧山海岸線（624系統）

6　運転免許・自動車の保有状況　（利用者数　175人）

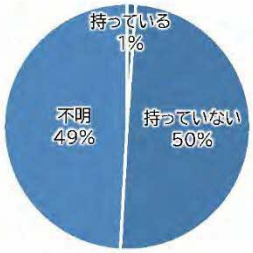
運転免許の保有

保有していないが半数



自動車の保有

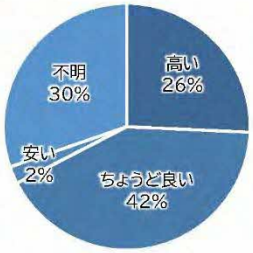
保有していないが半数



7　運賃　（利用者数　175人）

乗車区間の運賃

ちょうど良いが4割以上



54

２.７調査結果詳細（江差・木古内線（631 系統））

7. 江差・木古内線（631系統）

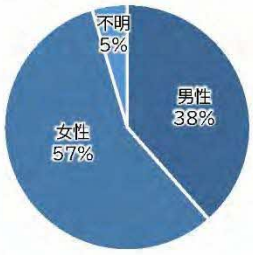
1 運行便数と利用者数

起点 → 終点	発時刻	着時刻	利用者数（人）
江差高校前 → 木古内駅前	15時 45分	17時 37分	13
	18時 13分	20時 5分	4
江差病院前 → 木古内駅前	6時 5分	7時 55分	1
	7時 10分	9時 0分	0
	10時 40分	12時 30分	9
木古内駅前 → 江差高校前	6時 19分	8時 11分	21
木古内駅前 → 江差病院前	11時 7分	12時 56分	7
	15時 5分	16時 54分	5
	16時 41分	18時 30分	3
	18時 12分	20時 1分	2

2 利用者の属性　（利用者数　65人）

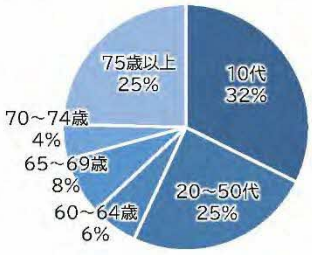
性別

女性が6割近く



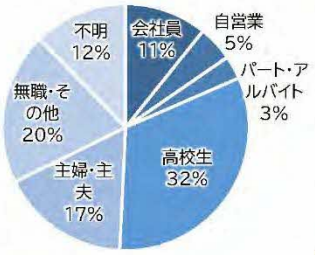
年齢

10代が3割以上



職業

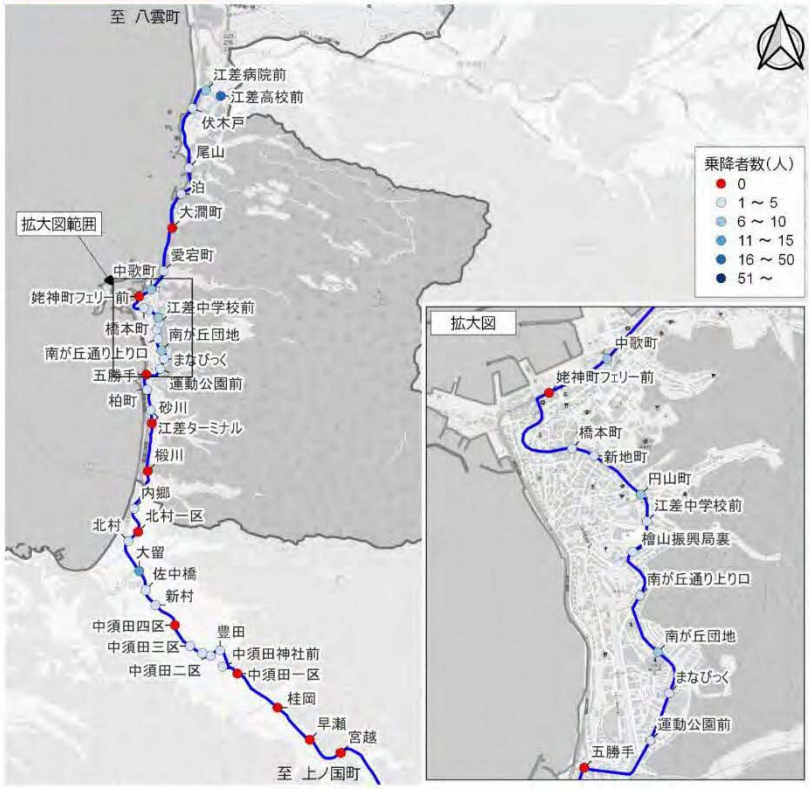
高校生が3割以上



55

7. 江差・木古内線（631系統）

3 バス停別乗降者数



「宮越」以南のバス停

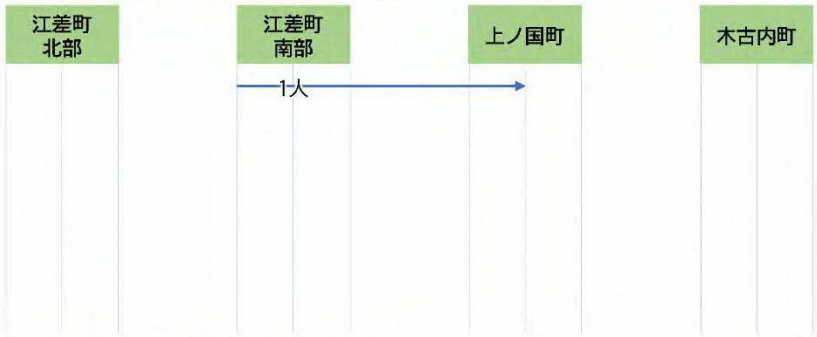
乗降者	バス停
●	・free・湯ノ岱～宮越
○	湯ノ岱
●	・free・湯ノ岱温泉～湯ノ岱
○	湯ノ岱温泉
●	・free・中の沢（上ノ国）～湯ノ岱温泉
●	中の沢（上ノ国）
●	・free・神明～中の沢（上ノ国）
○	神明
●	・free・膳棚～神明
●	膳棚
●	・free・大川（木古内）～膳棚
●	大川（木古内）
●	・free・吉堀～大川（木古内）
●	吉堀
●	・free・鶴岡禅燈寺前～吉堀
○	鶴岡禅燈寺前
●	鶴岡大谷地
●	木古内上町
●	国保病院前
○	木古内駅前

56

7．江差・木古内線（631系統）

4　OD整理

4-1　江差病院前→木古内駅前（6：05発）



4-2　江差病院→木古内駅前（7：10発）

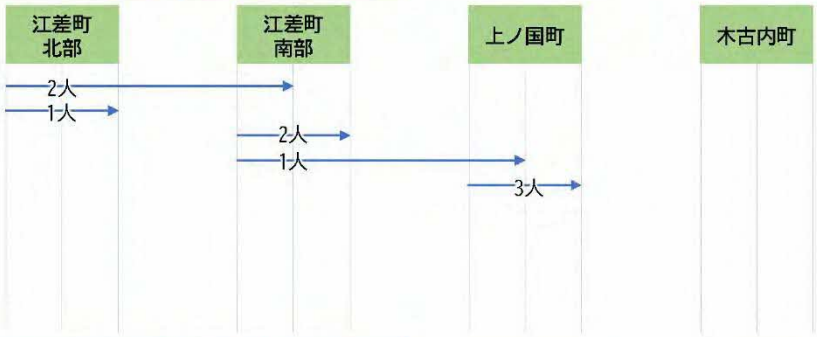


57

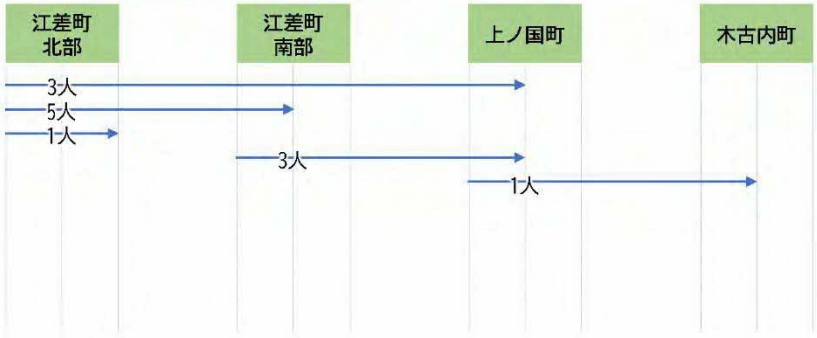
7．江差・木古内線（631系統）

4　OD整理

4-3　江差病院前→木古内駅前（10：40発）



4-4　江差高校前→木古内駅前（15：45発）

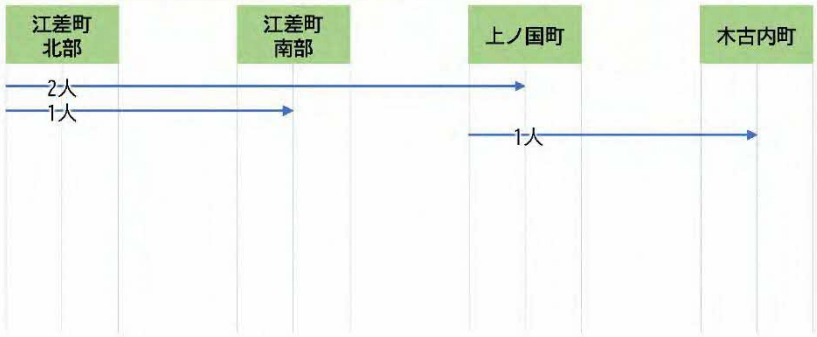


58

7．江差・木古内線（631系統）

4　OD整理

4-5　江差高校前→木古内駅前（18：13発）

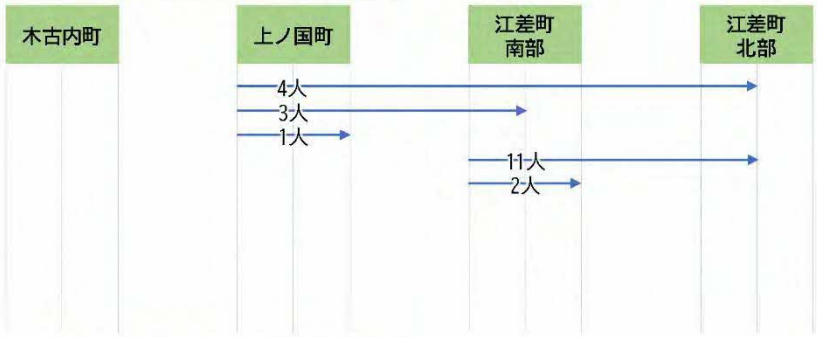


59

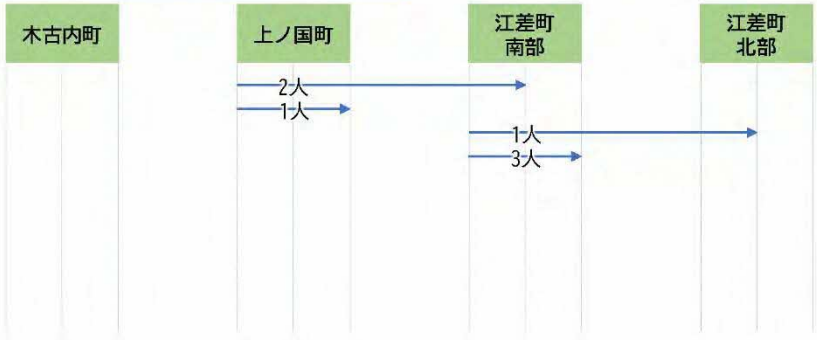
7．江差・木古内線（631系統）

4　OD整理

4-6　木古内駅前→江差高校前（6：19発）



4-7　木古内駅前→江差病院前（11：07発）

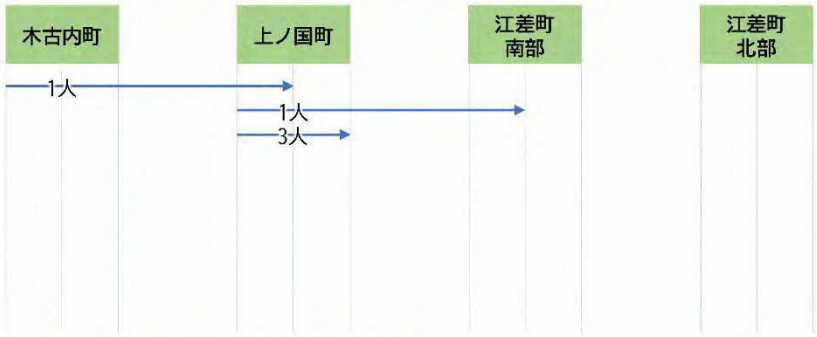


60

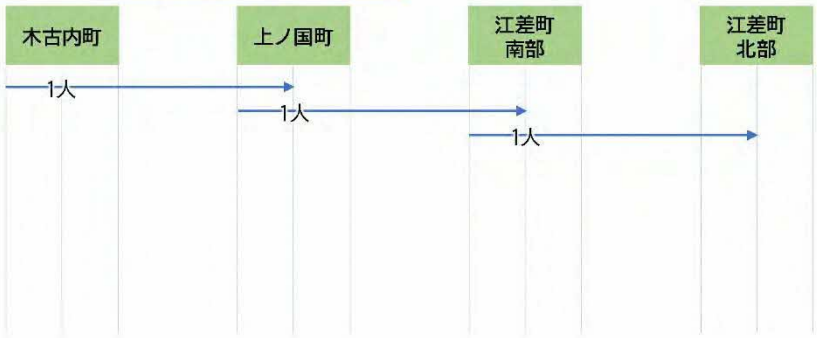
7．江差・木古内線（631系統）

4　OD整理

4-8　木古内駅前→江差病院前（15：05発）



4-9　木古内駅前→江差病院前（16：41発）

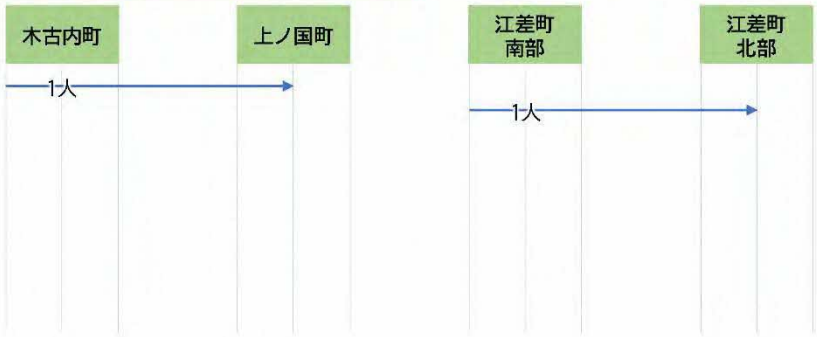


61

7．江差・木古内線（631系統）

4　OD整理

4-10　木古内駅前→江差病院前（18：12発）



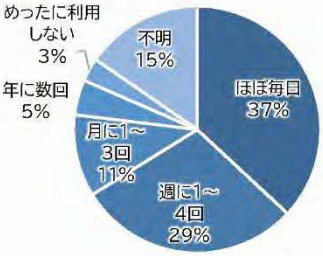
62

7．江差・木古内線（631系統）

5　利用状況　（利用者数　65人）

利用頻度

ほぼ毎日の利用が3割以上



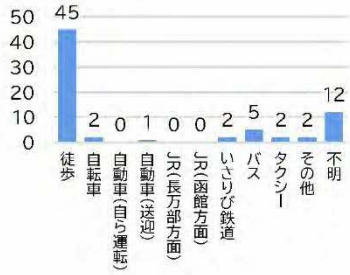
運賃の支払い方法

ICカードが半数



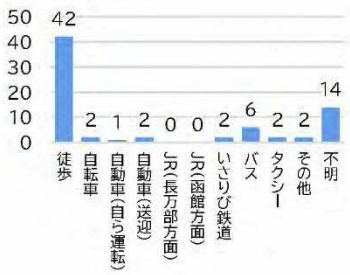
乗車前の交通手段

徒歩が多い



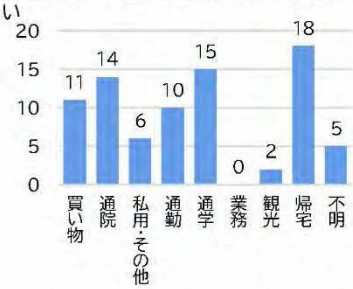
降車後の交通手段

徒歩が多い



利用目的

帰宅以外で、通学、通院、買い物の順で多い



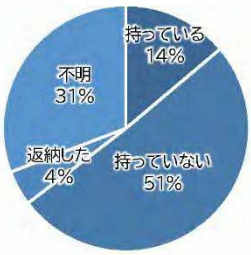
63

7．江差・木古内線（631系統）

6　運転免許・自動車の保有状況　（利用者数　65人）

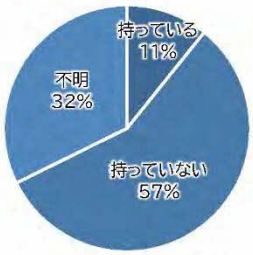
運転免許の保有

保有していないが半数



自動車の保有

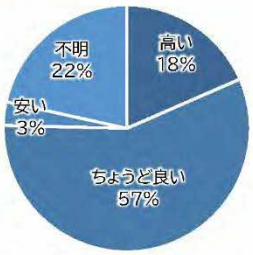
保有していないが5割以上



7　運賃　（利用者数　65人）

乗車区間の運賃

ちょうど良いが5割以上



64

２.８調査結果詳細（江差・木古内線（632 系統））

8．江差・木古内線（632系統）

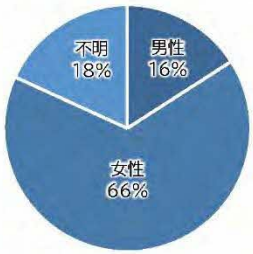
1　運行便数と利用者数

起点	→	終点	発時刻	着時刻	利用者数（人）
江差高校前	→	木古内駅前	12時　18分	14時　13分	14
木古内駅前	→	江差病院前	9時　16分	11時　8分	30

2　利用者の属性　（利用者数　44人）

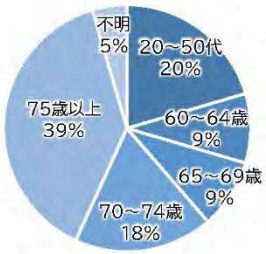
性別

女性が6割以上



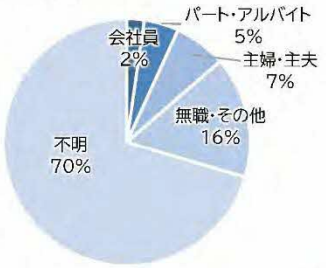
年齢

70歳以上が半数以上



職業

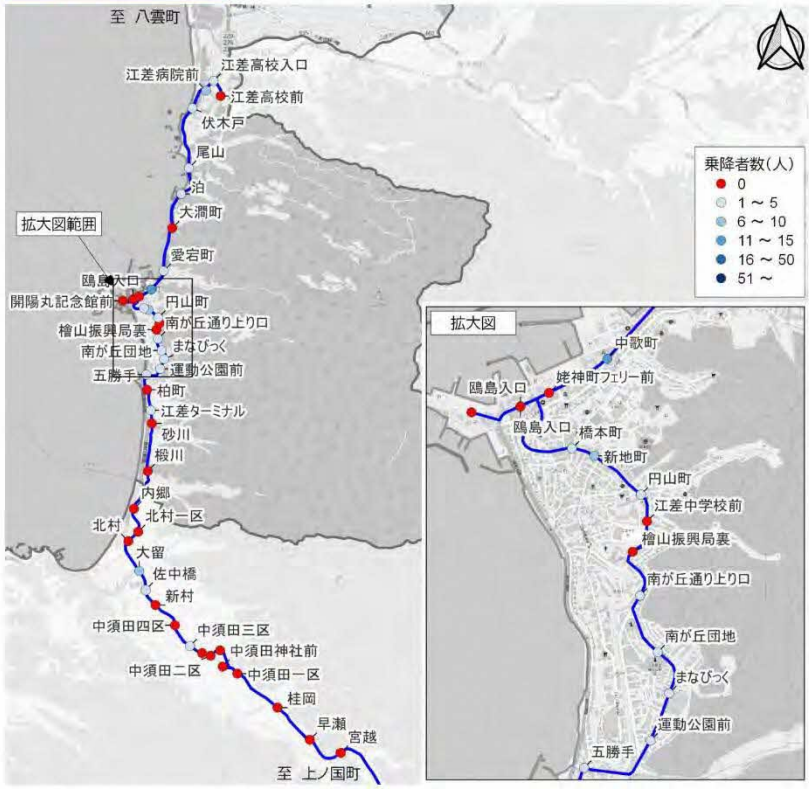
無職・その他が多い



65

8．江差・木古内線（632系統）

3　バス停別乗降者数



「宮越」以南のバス停

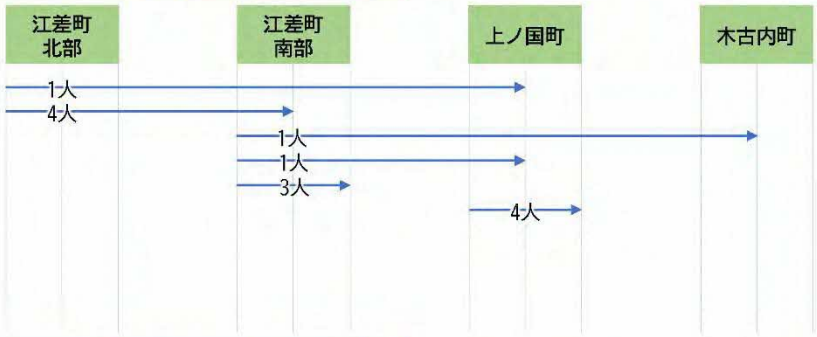
乗降者	バス停
●	・free・湯ノ岱～宮越
○	湯ノ岱
●	・free・湯ノ岱温泉～湯ノ岱
○	湯ノ岱温泉
●	・free・中の沢（上ノ国）～湯ノ岱温泉
●	中の沢（上ノ国）
●	・free・神明～中の沢（上ノ国）
○	神明
●	・free・膳棚～神明
●	膳棚
●	・free・大川（木古内）～膳棚
●	大川（木古内）
●	・free・吉堀～大川（木古内）
●	吉堀
●	・free・鶴岡禅燈寺前～吉堀
●	鶴岡禅燈寺前
●	鶴岡大谷地
●	木古内上町
●	国保病院前
○	木古内駅前

66

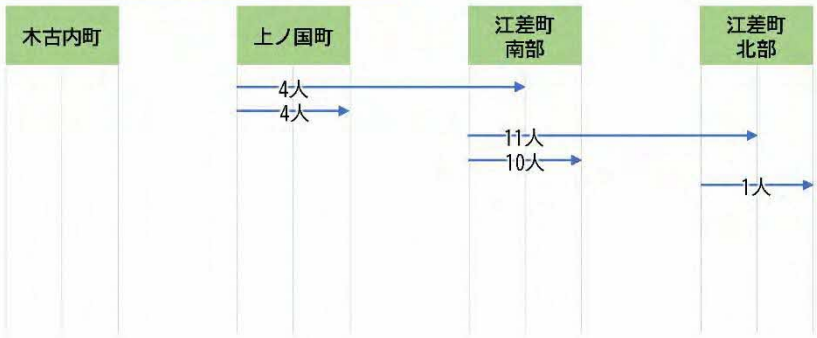
8．江差・木古内線（632系統）

4　OD整理

4-1　江差高校前→木古内駅前（12：18発）



4-2　木古内駅前→江差病院前（9：16発）



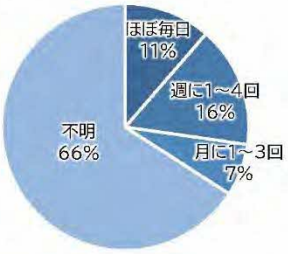
67

8．江差・木古内線（632系統）

5　利用状況　（利用者数　44人）

利用頻度

週に1～4回の利用が2割程度



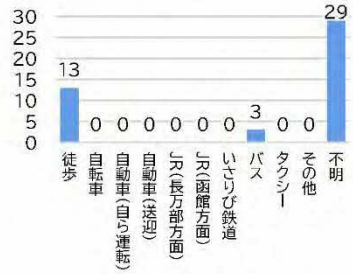
運賃の支払い方法

ICカードが2割以上



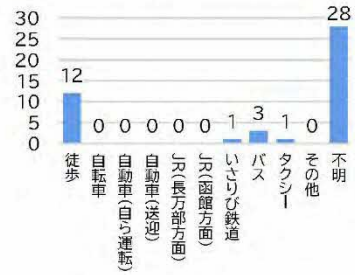
乗車前の交通手段

徒歩、バスの順で多い



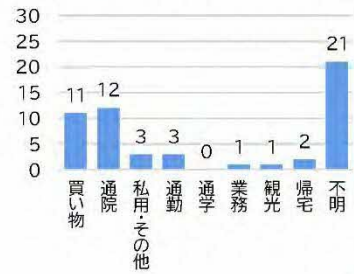
降車後の交通手段

徒歩、バスの順で多い



利用目的

通院、買い物の順で多い



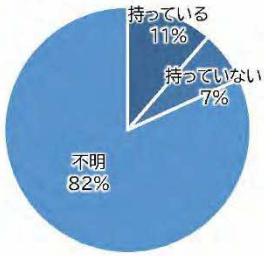
68

８．江差・木古内線（632系統）

6　運転免許・自動車の保有状況　（利用者数　44人）

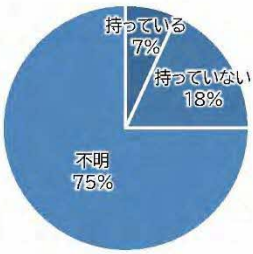
運転免許の保有

保有しているが1割以上



自動車の保有

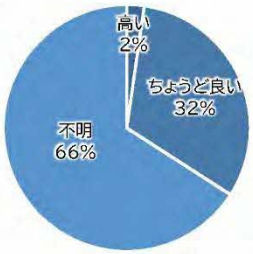
保有していないが2割程度



7　運賃　（利用者数　44人）

乗車区間の運賃

ちょうど良いが3割以上



69

２.９調査結果詳細（館線（641 系統））

9．館線（641系統）

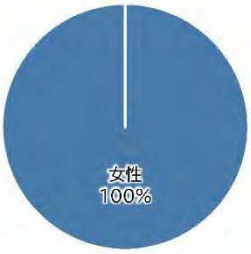
1　運行便数と利用者数

起点　→　終点	発時刻	着時刻	利用者数（人）
江差ターミナル　→　富里	6時　15分	7時　12分	1

2　利用者の属性　（利用者数　1人）

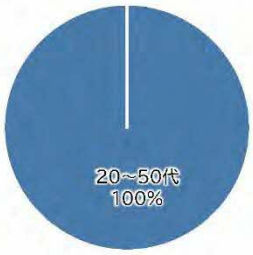
性別

女性のみ



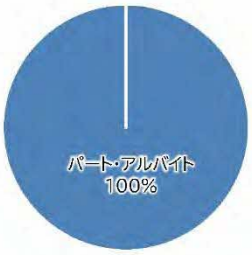
年齢

20～50代のみ



職業

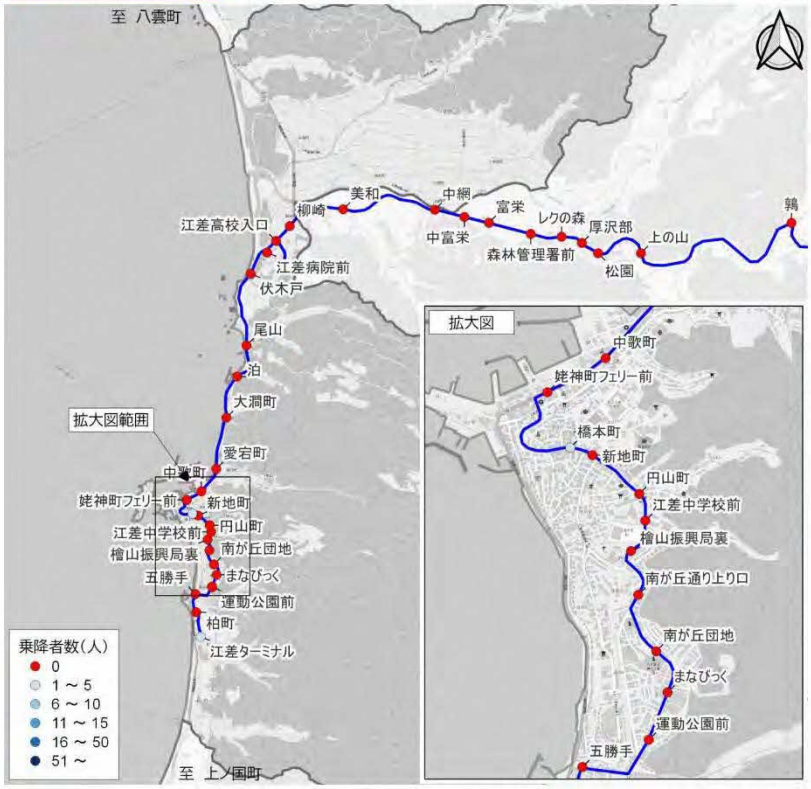
パート・アルバイトのみ



70

9．館線（641系統）

3　バス停別乗降者数



「鵜」以東のバス停

乗降者数	バス停
●	・free・鵜～清和
●	清和
●	・free・清和～館下
●	館下
●	・free・館下～下館
●	下館
●	・free・下館～館
●	館
●	・free・館～東部館
●	東部館
●	・free・東部館～集会場前
●	集会場前
●	・free・集会場前～養豚場前
●	養豚場前
●	・free・養豚場前～旧富里学校前
●	旧富里学校前
●	・free・旧富里学校前～富里
●	富里

71

９．館線（641系統）

4　OD整理

4-1　江差ターミナル→富里（6：15発）



72

９．館線（641系統）

5　利用状況　（利用者数　1人）

利用頻度

ほぼ毎日の利用



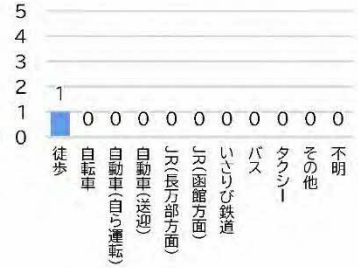
運賃の支払い方法

現金で支払い



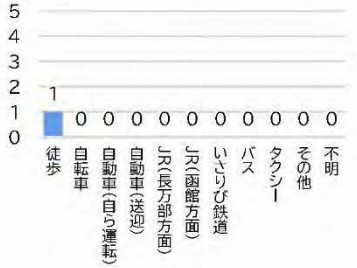
乗車前の交通手段

徒歩のみ



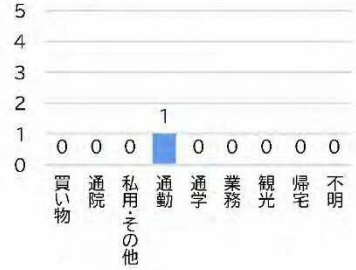
降車後の交通手段

徒歩のみ



利用目的

通勤の利用



73

９．館線（641系統）

６　運転免許・自動車の保有状況　（利用者数　1人）

運転免許の保有

保有していない



自動車の保有

不明



７　運賃　（利用者数　1人）

乗車区間の運賃

ちょうど良い



74

２.１０調査結果詳細（館線（642 系統））

１０．館線（642系統）

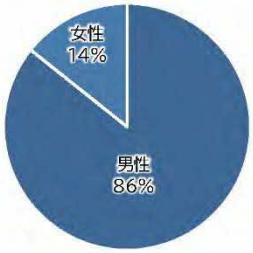
１　運行便数と利用者数

起点　→　終点	発時刻	着時刻	利用者数（人）
江差ターミナル　→　富里	15時　27分	16時　36分	7

２　利用者の属性　（利用者数　7人）

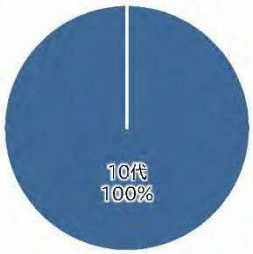
性別

男性が8割以上



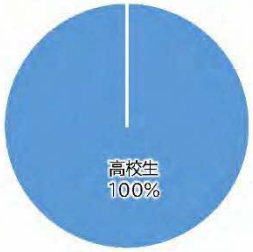
年齢

10代のみ



職業

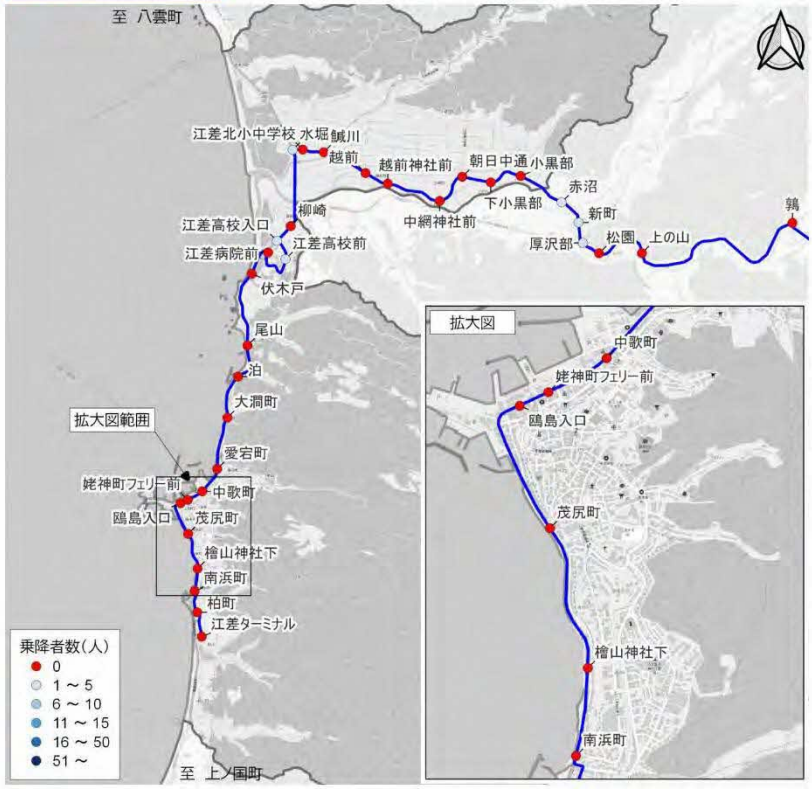
高校生のみ



75

１０．館線（642系統）

３　バス停別乗降者数



「鶉」以東のバス停

乗降者数	バス停
●	・free・鶉～清和
●	清和
●	・free・清和～館下
●	館下
●	・free・館下～下館
●	下館
●	・free・下館～館
●	館
●	・free・館～東部館
●	東部館
●	・free・東部館～集会場前
●	集会場前
●	・free・集会場前～養豚場前
●	養豚場前
●	・free・養豚場前～旧富里学校前
●	旧富里学校前
●	・free・旧富里学校前～富里
●	富里

76

１０．館線（642系統）

4　OD整理

4-1　江差ターミナル→富里（15：27発）



77

１０．館線（642系統）

5　利用状況　（利用者数　7人）

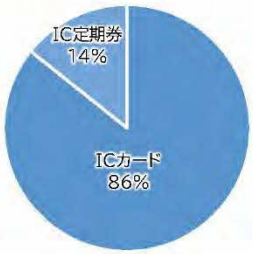
利用頻度

ほぼ毎日の利用が5割以上



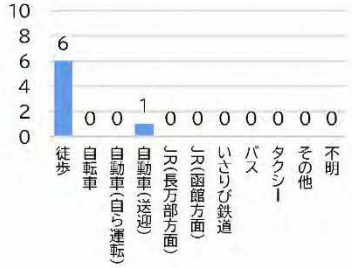
運賃の支払い方法

ICカードが8割以上



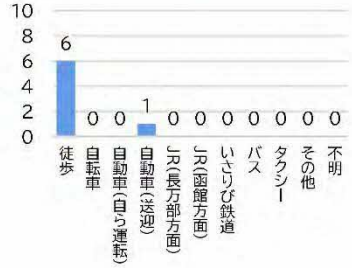
乗車前の交通手段

徒歩が多い



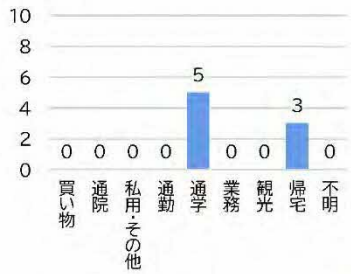
降車後の交通手段

徒歩が多い



利用目的

通学の利用



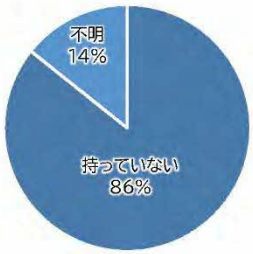
78

１０．館線（642系統）

6　運転免許・自動車の保有状況　（利用者数　7人）

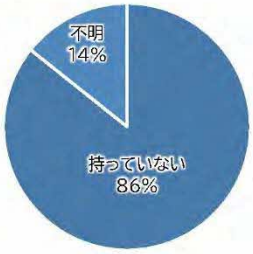
運転免許の保有

保有していないが8割以上



自動車の保有

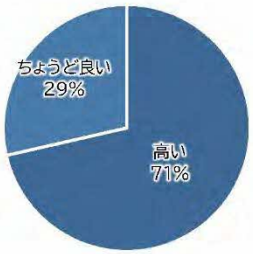
保有していないが8割以上



7　運賃　（利用者数　7人）

乗車区間の運賃

高いが7割



79

２.１１調査結果詳細（館線（643 系統））

１１．館線（643系統）

１　運行便数と利用者数

起点 → 終点	発時刻	着時刻	利用者数（人）
富里 → 江差ターミナル	16時　46分	17時　57分	1

２　利用者の属性　（利用者数　1人）

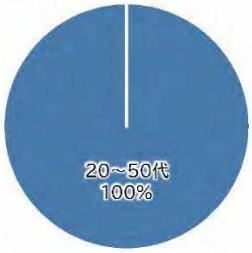
性別

女性のみ



年齢

20～50代のみ



職業

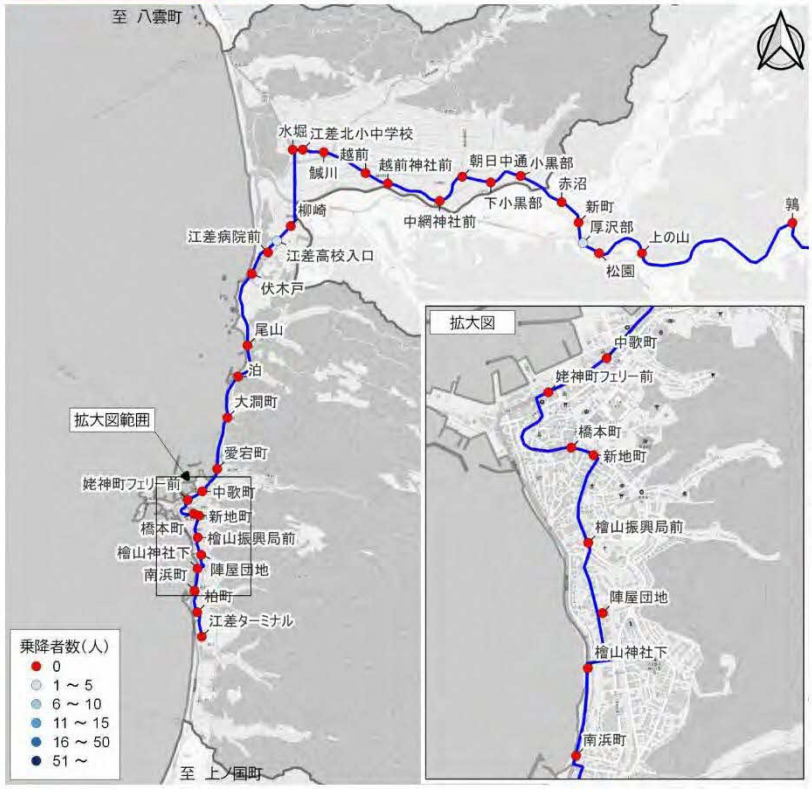
会社員



80

１１．館線（643系統）

３　バス停別乗降者数



「鶉」以東のバス停

乗降者数	バス停
●	・free・清和～鶉
●	清和
●	・free・館下～清和
●	館下
●	・free・下館～館下
●	下館
●	・free・館～下館
●	館
●	・free・東部館～館
●	東部館
●	・free・集会場前～東部館
●	集会場前
●	・free・養豚場前～集会場前
●	養豚場前
●	・free・旧富里学校前～養豚場前
●	旧富里学校前
●	・free・富里～旧富里学校前
●	富里

81

１１．館線（643系統）

4　OD整理

4-1　富里→江差ターミナル（16：46発）



82

１１．館線（643系統）

5　利用状況　（利用者数　1人）

利用頻度

ほぼ毎日の利用



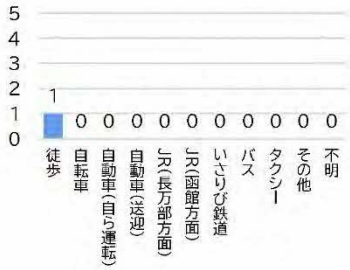
運賃の支払い方法

IC定期券



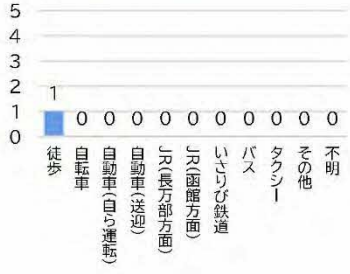
乗車前の交通手段

徒歩のみ



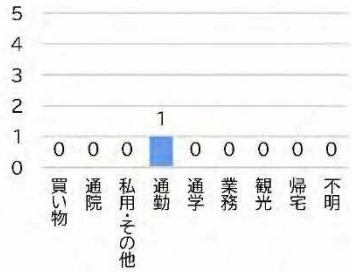
降車後の交通手段

徒歩のみ



利用目的

通勤、通学、私用・その他の利用



83

１１．館線（643系統）

6　運転免許・自動車の保有状況　（利用者数　1人）

運転免許の保有

保有していない



自動車の保有

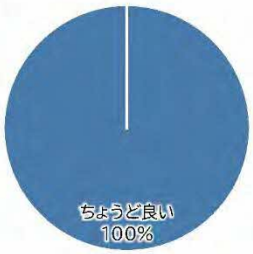
保有していない



7　運賃　（利用者数　1人）

乗車区間の運賃

ちょうど良い



84

２.１２調査結果詳細（館線（644 系統））

１２．館線（644系統）

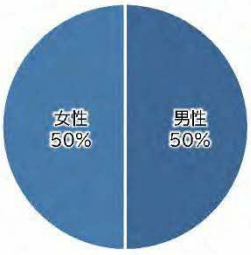
１　運行便数と利用者数

起点 → 終点	発時刻	着時刻	利用者数（人）
富里 → 江差ターミナル	7時　22分	8時　28分	6

２　利用者の属性　（利用者数　6人）

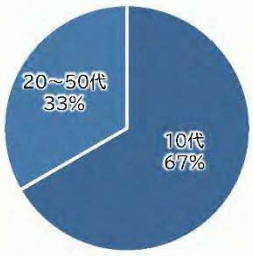
性別

男女同数



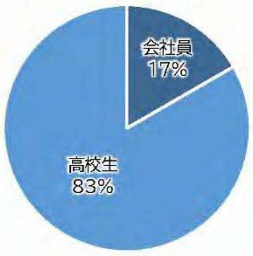
年齢

10代が6割以上



職業

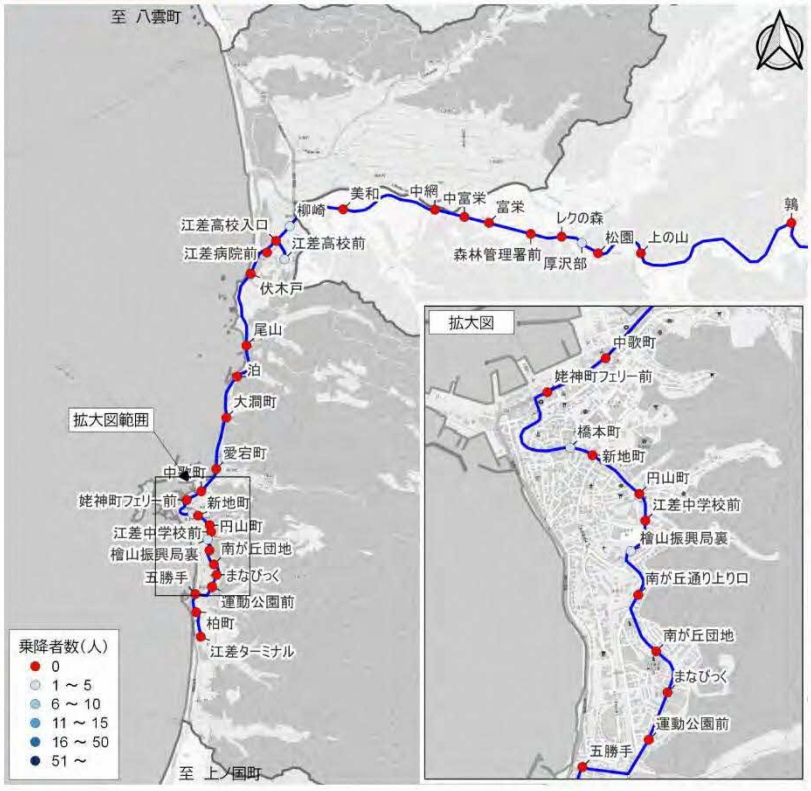
高校生が8割以上



85

１２．館線（644系統）

３　バス停別乗降者数



「鶉」以東のバス停

乗降者数	バス停
●	・free・清和～鶉
●	清和
●	・free・館下～清和
●	館下
●	・free・下館～館下
●	下館
●	・free・館～下館
○	館
●	・free・東部館～館
●	東部館
●	・free・集会場前～東部館
●	集会場前
●	・free・養豚場前～集会場前
●	養豚場前
●	・free・旧富里学校前～養豚場前
●	旧富里学校前
●	・free・富里～旧富里学校前
●	富里

86

１２．館線（644系統）

4　OD整理

4-1　富里→江差ターミナル（7：22発）



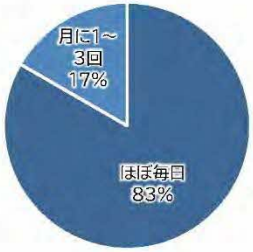
87

１２．館線（644系統）

5　利用状況　（利用者数　6人）

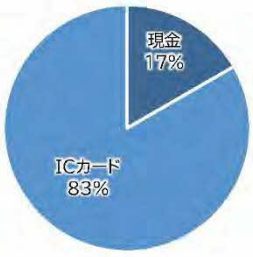
利用頻度

ほぼ毎日の利用が8割以上



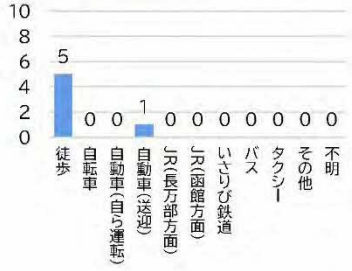
運賃の支払い方法

ICカードの利用が8割以上



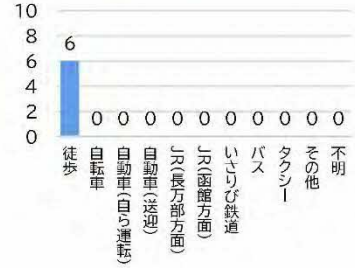
乗車前の交通手段

徒歩が多い



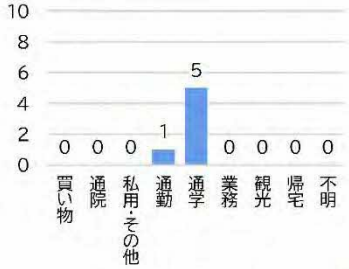
降車後の交通手段

徒歩が多い



利用目的

通学の利用が多い



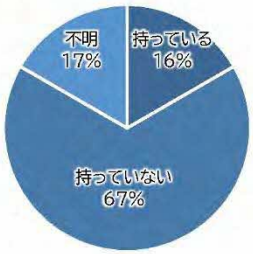
88

１２．館線（644系統）

6　運転免許・自動車の保有状況　（利用者数　6人）

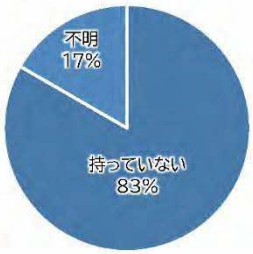
運転免許の保有

保有していないが6割以上



自動車の保有

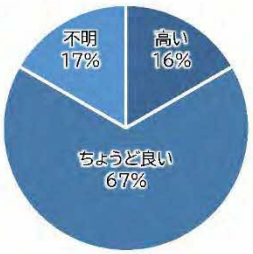
保有していないが8割以上



7　運賃　（利用者数　6人）

乗車区間の運賃

ちょうど良いが6割以上



89

２.１３調査結果詳細（館線（661 系統））

１３．館線（661系統）

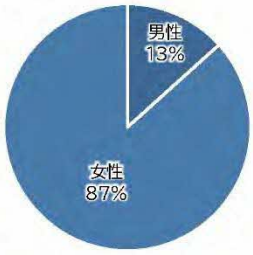
１　運行便数と利用者数

起点 → 終点	発時刻	着時刻	利用者数（人）
江差ターミナル → 東部館	11時 55分	12時 58分	7
東部館 → 江差ターミナル	13時 8分	14時 11分	8

２　利用者の属性　（利用者数　15人）

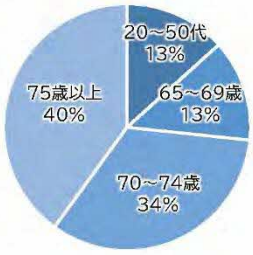
性別

女性が8割以上



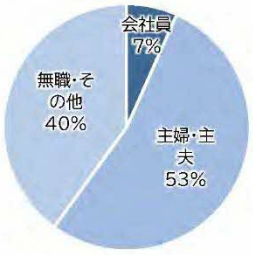
年齢

70歳以上が7割以上



職業

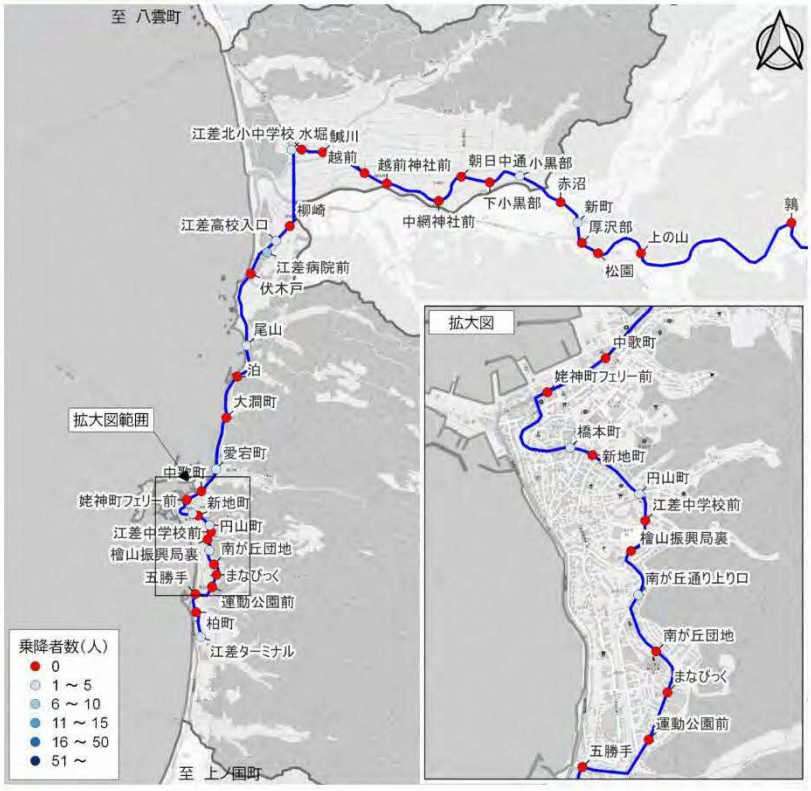
半数が主婦・主夫



90

１３．館線（661系統）

３　バス停別乗降者数



「鵜」以東のバス停

乗降者数	バス停
●	・free・鵜～清和
●	清和
●	・free・清和～館下
●	館下
●	・free・館下～下館
●	下館
●	・free・下館～館
●	館
●	・free・館～東部館
●	東部館

91

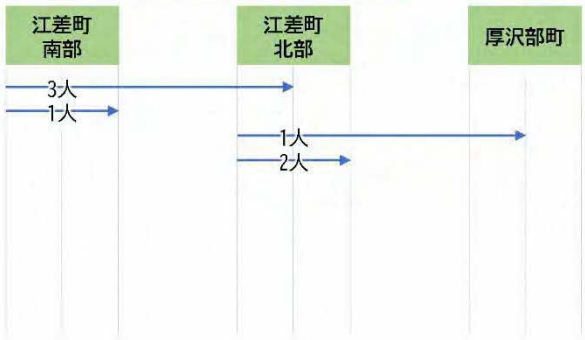
１３．館線（661系統）

4　OD整理

4-1　東部館→江差ターミナル（13：08発）



4-2　江差ターミナル→東部館（11：55発）



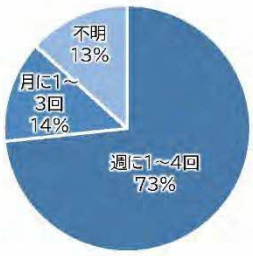
92

１３．館線（661系統）

5　利用状況　（利用者数　15人）

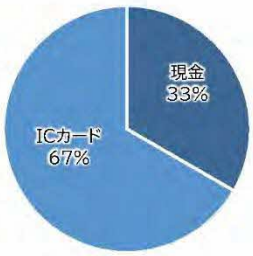
利用頻度

週に1～4回の利用が7割以上



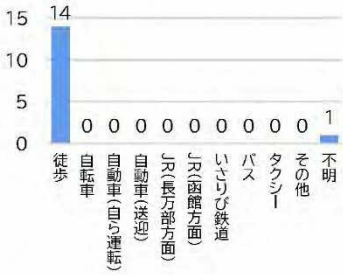
運賃の支払い方法

ICカードの利用が6割以上



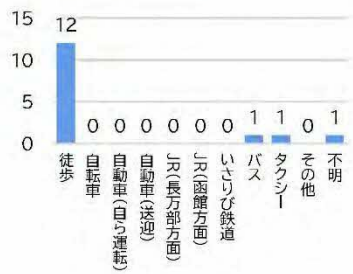
乗車前の交通手段

徒歩が多い



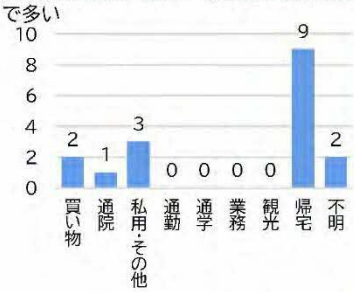
降車後の交通手段

徒歩が多い



利用目的

帰宅以外では、私用・その他、買い物の順で多い



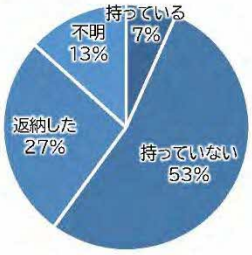
93

１３．館線（661系統）

6　運転免許・自動車の保有状況　（利用者数　15人）

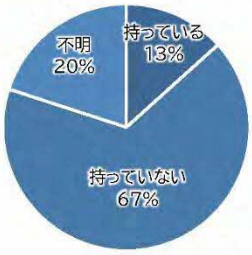
運転免許の保有

保有していないが半数



自動車の保有

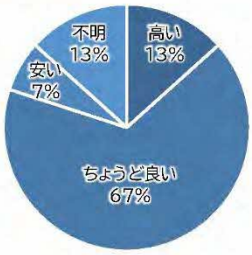
保有していないが半数以上



7　運賃　（利用者数　15人）

乗車区間の運賃

ちょうど良いが半数以上



94

２.１４調査結果詳細（館線（662 系統））

１４．館線（662系統）

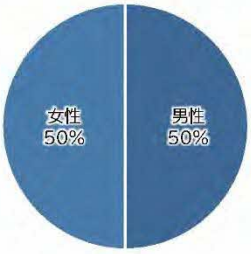
１　運行便数と利用者数

起点 → 終点	発時刻	着時刻	利用者数（人）
江差ターミナル → 東部館	18時 25分	19時 0分	1
東部館 → 江差ターミナル	19時 24分	20時 9分	1

２　利用者の属性　（利用者数　2人）

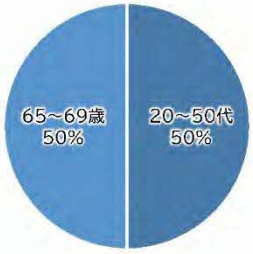
性別

男女同数



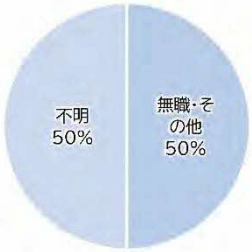
年齢

20～50代と65～69歳が同数



職業

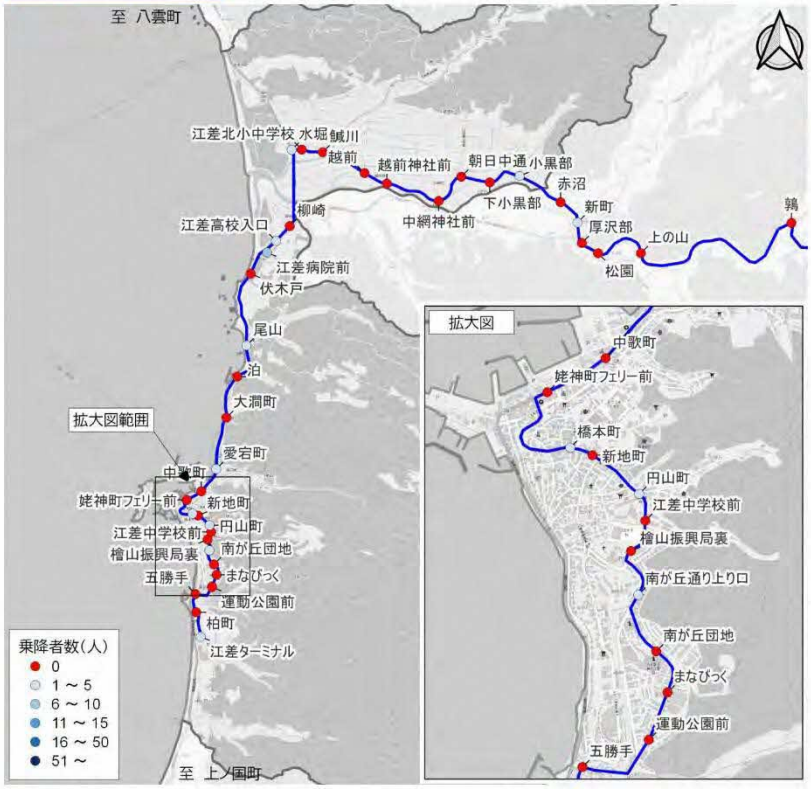
半数が無職・その他



95

１４．館線（662系統）

３　バス停別乗降者数



「鵜」以東のバス停

乗降者数	バス停
●	・free・鵜～清和
●	清和
●	・free・清和～館下
●	館下
●	・free・館下～下館
●	下館
●	・free・下館～館
●	館
●	・free・館～東部館
●	東部館

96

１４．館線（662系統）

4　OD整理

4-1　江差ターミナル→東部館（18：25発）



4-2　東部館→江差ターミナル（19：24発）



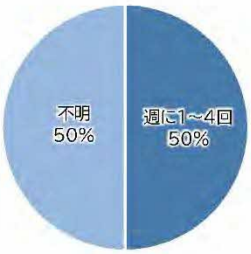
97

１４．館線（662系統）

5　利用状況　（利用者数　2人）

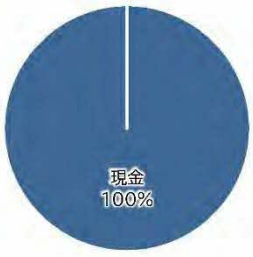
利用頻度

週に1回以上の利用が半数



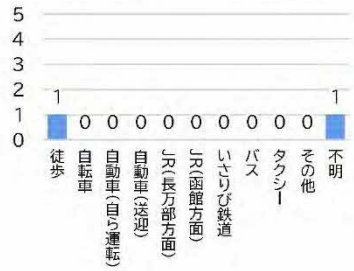
運賃の支払い方法

現金



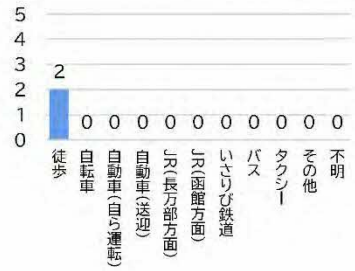
乗車前の交通手段

徒歩



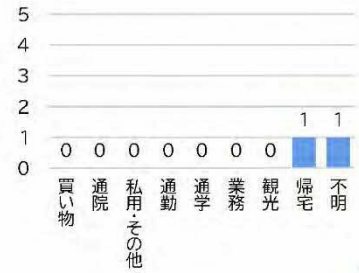
降車後の交通手段

徒歩



利用目的

帰宅



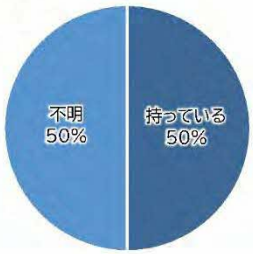
98

１４．館線（662系統）

6　運転免許・自動車の保有状況　（利用者数　2人）

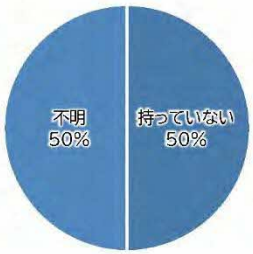
運転免許の保有

保有していない



自動車の保有

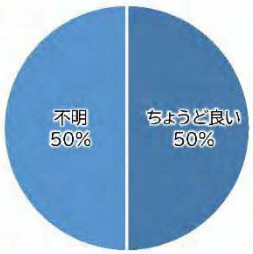
保有していない



7　運賃　（利用者数　2人）

乗車区間の運賃

ちょうど良い



99

２.１５調査結果詳細（木間内線（663 系統））

１５．木間内線（663系統）

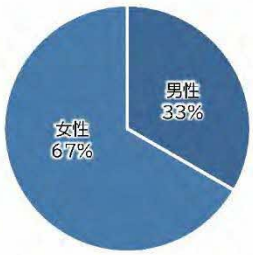
１　運行便数と利用者数

起点 → 終点	発時刻	着時刻	利用者数（人）
上木間内 → 江差ターミナル	7時　30分	8時　23分	3

２　利用者の属性　（利用者数　3人）

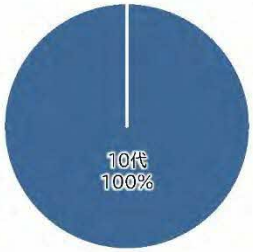
性別

女性が6割以上



年齢

10代のみ



職業

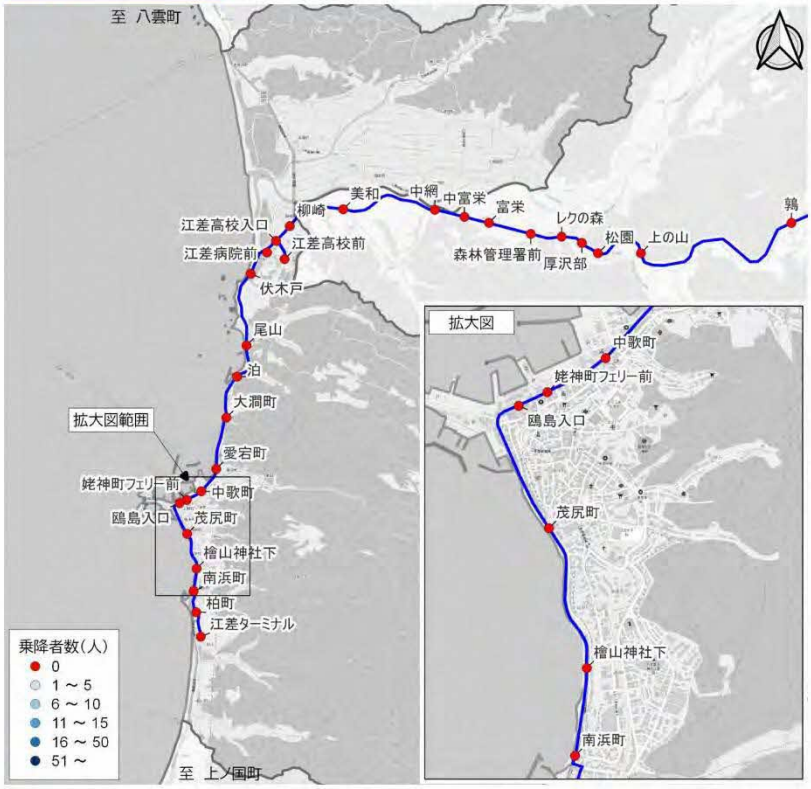
高校生のみ



100

１５．木間内線（663系統）

３　バス停別乗降者数



「鶉」以東のバス停

乗降者数	バス停
●	うずら神社前
●	うずら温泉入口
○	鶉農協前
○	鶉学校前
●	下木間内
○	旭丘（厚沢部）
●	木間内
●	上木間内

101

１５．木間内線（663系統）

4　OD整理

4-1　上木間内→江差ターミナル（7：30発）



１５．木間内線（663系統）

5　利用状況　（利用者数　3人）

利用頻度

ほぼ毎日のみ



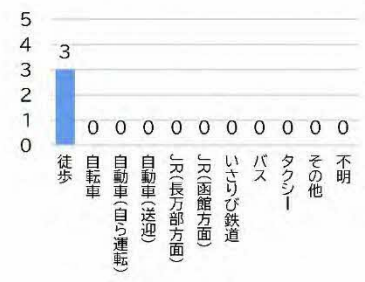
運賃の支払い方法

IC定期券が6割以上



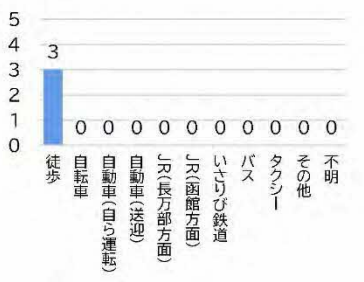
乗車前の交通手段

徒歩のみ



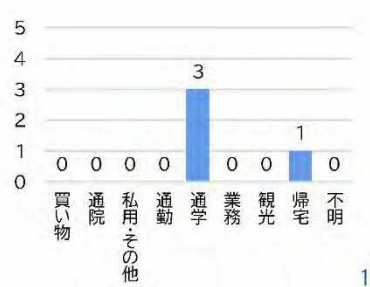
降車後の交通手段

徒歩のみ



利用目的

通学が多い



１５．木間内線（663系統）

6　運転免許・自動車の保有状況　（利用者数　3人）

運転免許の保有

保有していない



自動車の保有

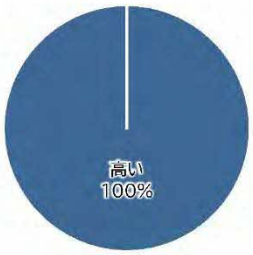
保有していない



7　運賃　（利用者数　3人）

乗車区間の運賃

高い



104

２.１６　調査結果詳細（稲見線（651 系統））

１６．稲見線（651系統）

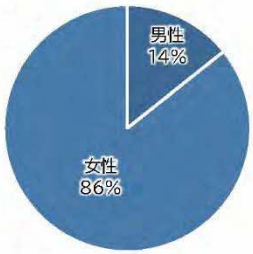
１　運行便数と利用者数

起点　→　終点	発時刻	着時刻	利用者数（人）
稲見　→　江差ターミナル	7時　32分	8時　23分	7

２　利用者の属性　（利用者数　7人）

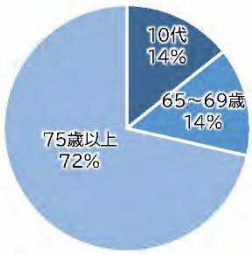
性別

女性が8割以上



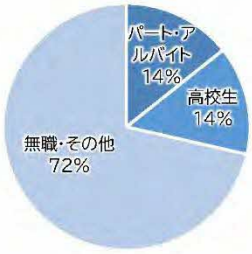
年齢

75歳以上が7割以上



職業

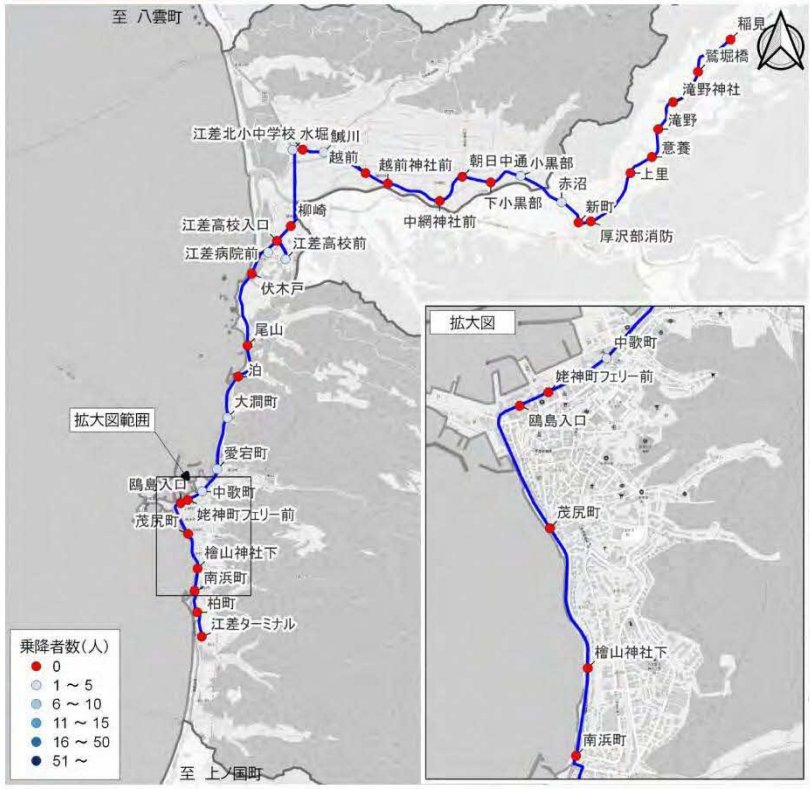
無職・その他が7割以上



105

１６．稲見線（651系統）

３　バス停別乗降者数

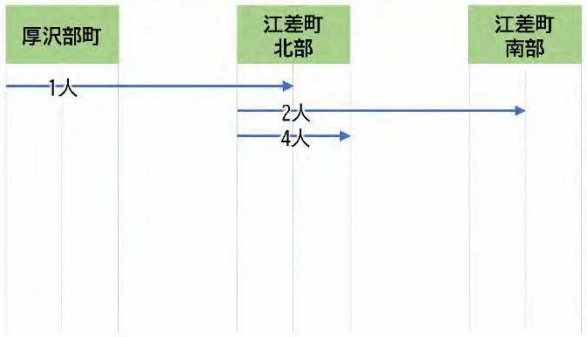


106

１６．稲見線（651系統）

4　OD整理

4-1　稲見→江差ターミナル（7：32発）



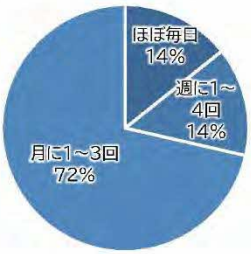
107

１６．稲見線（651系統）

5　利用状況　（利用者数　7人）

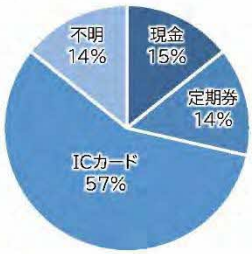
利用頻度

月に1～3回の利用が7割以上



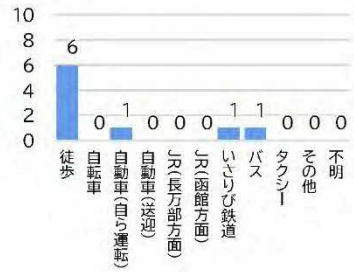
運賃の支払い方法

ICカードが半数



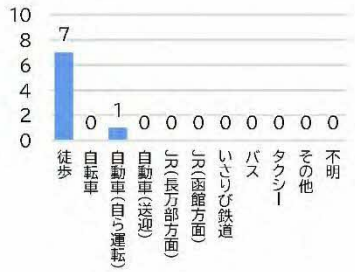
乗車前の交通手段

徒歩が多い



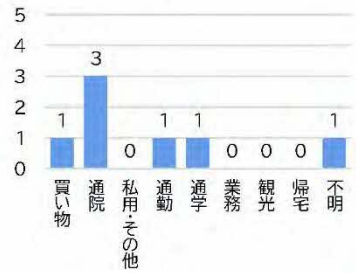
降車後の交通手段

徒歩が多い



利用目的

通院での利用が多い



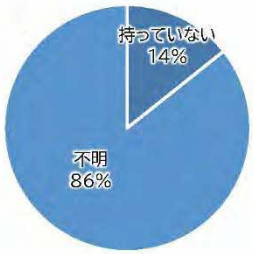
108

１６．稲見線（651系統）

6　運転免許・自動車の保有状況　（利用者数　7人）

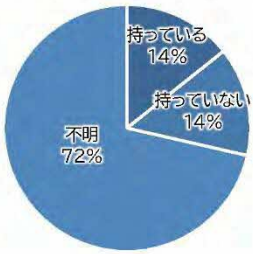
運転免許の保有

保有していないが1割以上



自動車の保有

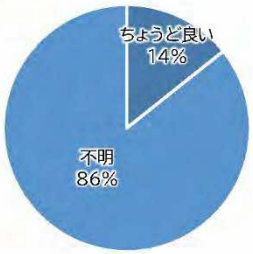
保有しているとしていないが同数



7　運賃　（利用者数　7人）

乗車区間の運賃

ちょうど良いが1割以上



109

２.１７調査結果詳細（稲見線（653 系統））

１７．稲見線（653系統）

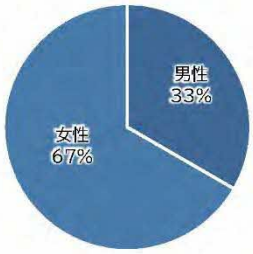
１　運行便数と利用者数

起点 → 終点	発時刻	着時刻	利用者数（人）
江差ターミナル → 稲見	17時　0分	17時　51分	3

２　利用者の属性　（利用者数　3人）

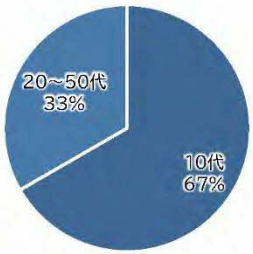
性別

女性が6割以上



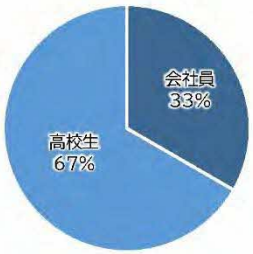
年齢

10代が6割以上



職業

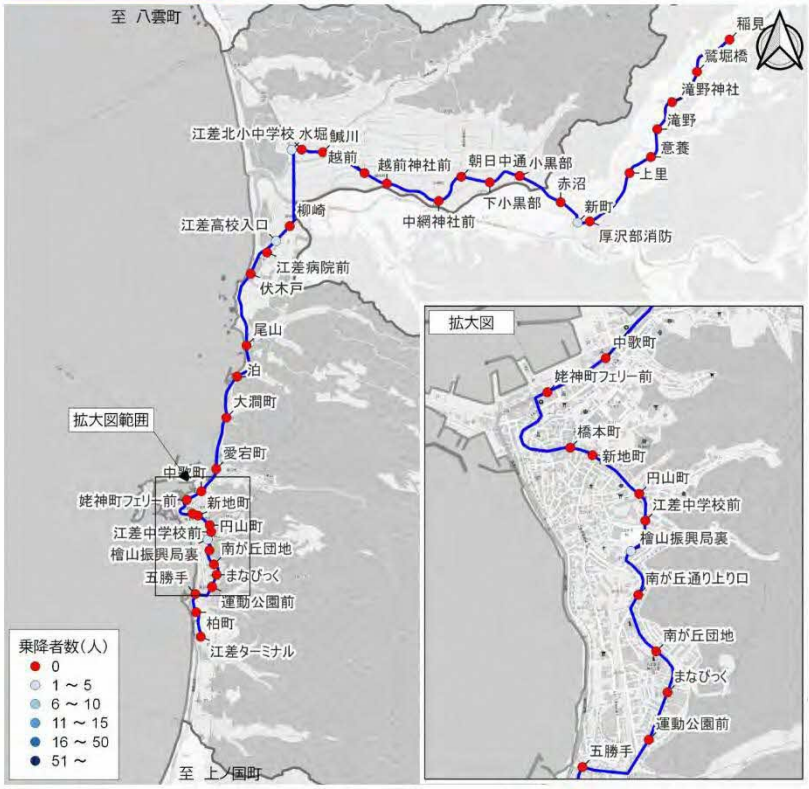
高校生が6割以上



110

１７．稲見線（653系統）

３　バス停別乗降者数

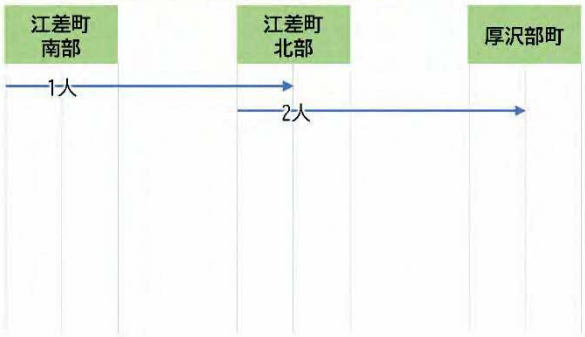


111

１７．稲見線（653系統）

4　OD整理

4-1　江差ターミナル→稲見（17：00発）



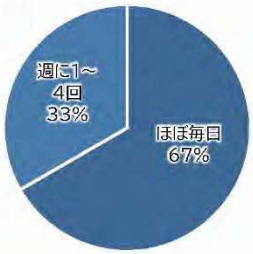
112

１７．稲見線（653系統）

5　利用状況　（利用者数　3人）

利用頻度

ほぼ毎日の利用が6割以上



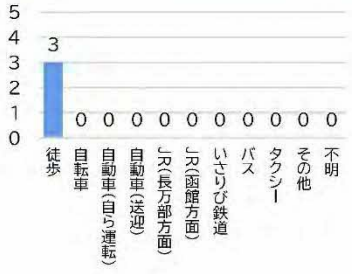
運賃の支払い方法

ICカードが6割以上



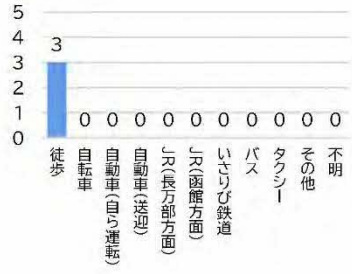
乗車前の交通手段

徒歩のみ



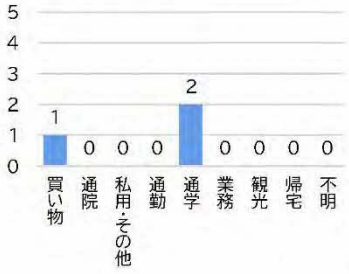
降車後の交通手段

徒歩のみ



利用目的

通学、買い物での利用



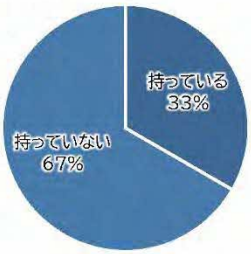
113

１７．稲見線（653系統）

6　運転免許・自動車の保有状況　（利用者数　3人）

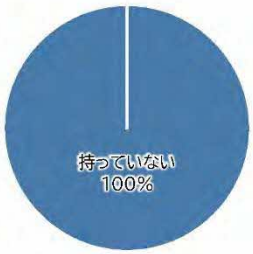
運転免許の保有

保有しているが3割以上



自動車の保有

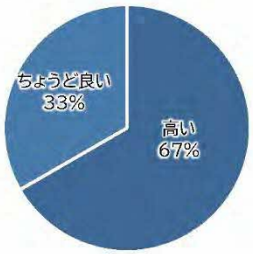
保有していない



7　運賃　（利用者数　3人）

乗車区間の運賃

高いが6割以上



114

第３章　住民ニーズ把握アンケート調査

江差町地域公共交通活性化協議会用資料

江差町の
公共交通をより良くするための
アンケート調査結果

目次

1．　調査の概要　2
1-1　調査実施の目的　2
1-2　調査実施期間　2
1-3　調査対象　2
1-4　配付・回収状況　2
1-5　調査項目　2

2．　調査結果概要　3
2-1　回答者の属性　3
2-2　回答者の生活圏　4
2-3　移動で困っていること・運行してほしい交通サービス　5
2-4　携帯端末を活用したサービス　6

3．　調査結果詳細　7
3-1　回答者属性　7
3-2　生活状況　12
3-3　携帯端末の保有・利用用途　20
3-4　公共交通に対するニーズ　22
3-5　その他自由記述　31

1

３.１　調査概要

1．調査の概要

1-1　調査実施の目的

・江差町地域公共交通計画を策定していく上で、**町民の生活圏の把握**に加え、**町民が考えている公共交通に対するニーズを把握**することを目的に、町内1,700世帯を対象に、町民ニーズ把握調査（アンケート調査）実施

1-2　調査実施期間

・令和４年２月１１日（金）～２月２５日（金）
※本資料は３月６日（日）回収分までを集計

1-3　調査対象

・江差町に居住する15歳以上の町民（1,700世帯を無作為抽出）
※1世帯に2票を配布（1世帯の場合は1票の回答、2人以上世帯については、公共交通を利用するあるいは利用したい方が優先的に回答）

1-4　配布・回収状況

・配布状況：1,700世帯（3,400票）
・回収状況：605世帯（回収率：35.8%）

1-5　調査項目

項目	内容	ねらい
1．属性	・性別、年齢　・職業　・居住地 ・免許証及び自動車の保有状況　・自動車の運転意向 ・運転困難時の移動手段　・免許証返納による困ること	・年齢や免許証保有状況、地区などの個人属性の把握 ・他項目とのクロス集計による属性ごとの傾向分析に活用
2．日常的な生活状況	・移動手段及び移動先、移動時間等 -通勤・通学、買い物、通院、私用などのお出かけの4目的	・現状の生活行動の実態把握 ・「生活圏」及び「医療圏」の把握・分析に活用
3．公共交通に対するニーズ	・普段の移動で困っていること ・運行してほしい公共交通 -その運賃、導入による外出機会の変化、その利用目的 ・MaaS等の利用意向 -スマートフォン等の携帯端末の保有状況、携帯端末の利用用途、携帯端末を活用した公共交通予約等のサービス利用意向	・新たな公共交通等の導入に関する検討項目 ・個人属性等とクロス集計により、各地区で導入すべきモードの検討やMaaS等の利用意向を把握に活用

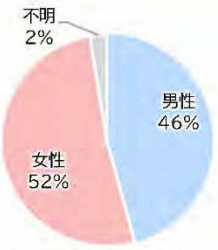
2

３.２　調査結果概要

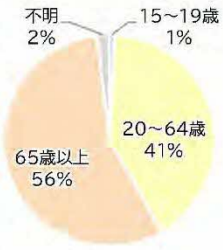
2．調査結果概要

2-1　回答者の属性

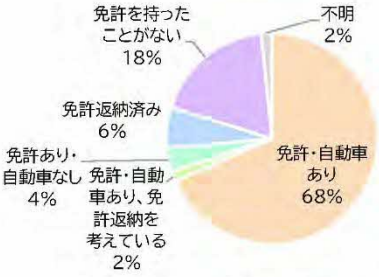
・性別は、男性・女性でおおよそ半数の割合
・年代は、65歳以上の高齢者からの回答が若干多い
・運転免許・自動車保有状況は、約７割が運転免許及び自動車を保有しており、自動車等を保有せず、
自由に移動することができない回答者は約３割
・運転免許を返納できない理由として、タクシーやバス等の公共交通機関が不便であることが挙げられている。
・自動車を保有している方で、運転が困難になった際の移動手段としては、バスの利用が６割で、免許返納で困ることは買い物や通院などの生活交通に支障がでること



問１①　性別



問１②　年齢



問４　免許・自動車の保有



問６　運転困難時の移動手段



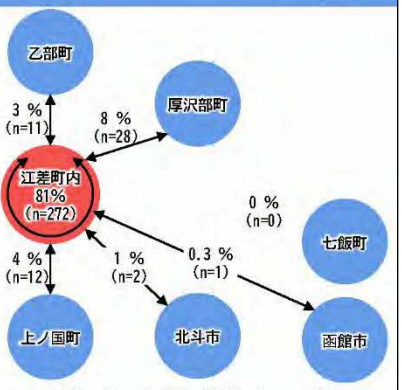
問７　免許返納により困ること

3

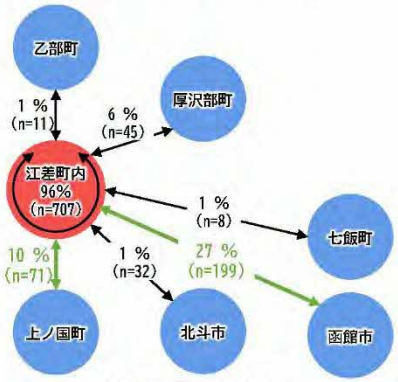
2．調査結果概要

2-2　回答者の生活圏

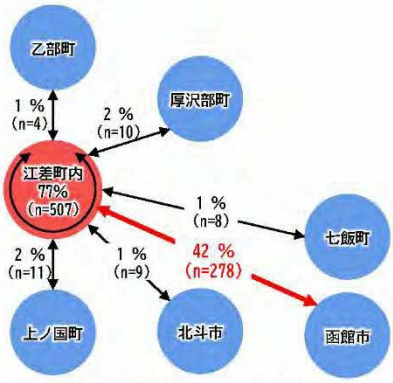
・通勤・通学圏は、江差町内が約８割
・買い物圏についても約９割が江差町内である一方で、約２割は函館市までの広域的な移動を行っている
※１０時台に到着する移動が最も多い
・通院圏についても約８割が江差町内である一方で、大規模な病院が立地している函館市までの広域的な移動を行っている方が約４割と多い
※９時台に到着する移動が最も多い
・私用圏についても約７割が江差町内である一方で、函館市までの広域的な移動を行っている方が約５割と多い
※１０時台に到着する移動が最も多い



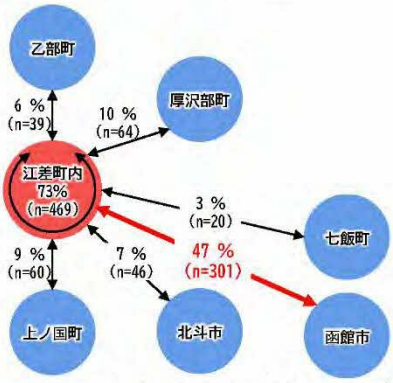
問８②　通学・通勤（n=336）



問９③　買い物（n=739）



問10②　通院（n=657）



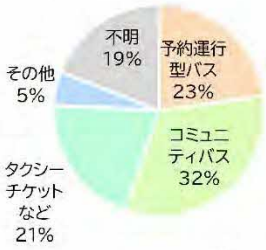
問11②　私用（n=642）

4

2．調査結果概要

2-3　移動で困っていること・運行してほしい交通サービス

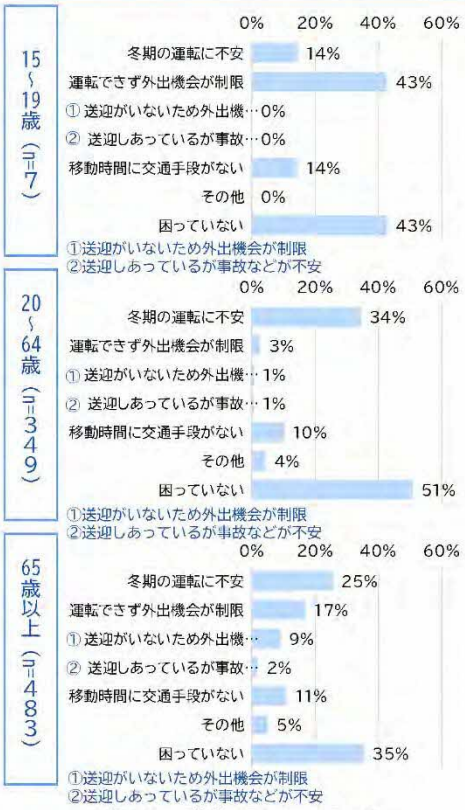
・移動で困っていることとして、**冬期の運転に不安がある**、との回答が約３割と最も多い
・この他、運転できず外出機会が制限される、や、近隣住民等で送迎しあう際の交通事故の心配が各１割の回答
・運転できず外出機会が制限される項目は、15～19歳及び高齢人口の回答割合が高く、送迎関する項目は、高齢人口の回答割合が高い
・その他の回答内容として、「バス等の公共交通サービスに関する内容」のほか、「冬期除排雪に関する内容」などが挙げられている
・新たに運行してほしい交通サービスとしては、**コミュニティバスが約３割**である一方で、自宅付近まで来る交通として、**予約運行型バスやタクシーチケットなどの交通支援の割合が各２割**の回答
・上記、各種交通サービスの導入により、**外出機会が今よりも週に１回以上増加**



問１５　新たに運行してほしい交通サービス



問１８　新たに運行してほしい交通サービスが運行した場合の外出回数の変化

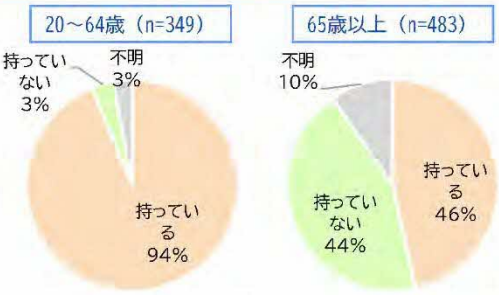


問１４　移動で困っていること

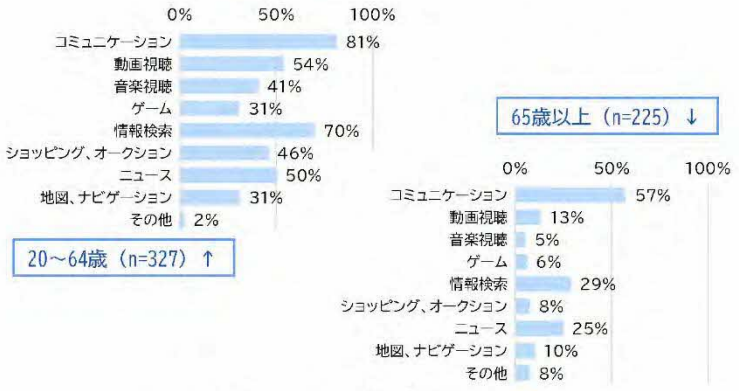
2．調査結果概要

2-4　携帯端末を活用したサービス

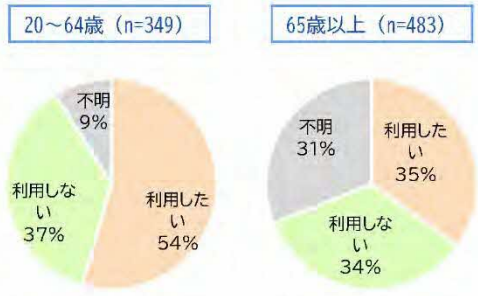
・生産年齢人口（15～64歳）と比較し、**高齢人口（65歳以上）は、携帯端末を保有する割合は低い**（生産年齢人口の約9割が保有、高齢人口では約5割が保有）
・インターネットの利用用途として、生産年齢人口はコミュニケーションのほか、アプリ等を活用した利用で携帯端末を多く使用している一方で、**高齢人口は主にコミュニケーションでの使用となっており、携帯端末の利用に不慣れである状況が推察**される
・携帯端末での運行情報や予約サービスの運用について、生産年齢人口では4割以上が「利用したい」と回答している一方で、**高齢人口では「利用したい」の回答が4割以下と比較的低い**



問１２　携帯端末の所持



問１３　インターネットの利用用途

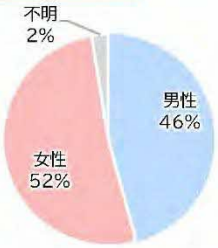


問２０　携帯端末を活用した予約サービスの利用有無

３.３　調査結果詳細（回答者属性）

３．調査結果詳細（3-1　回答者属性）

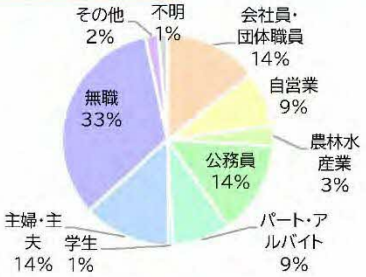
問1①　性別（n=855）



問1②　年齢（n=855）



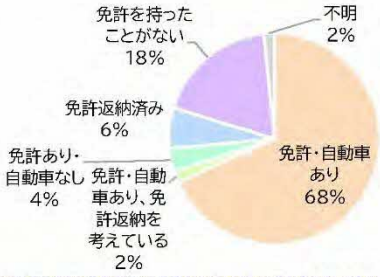
問2　職業（n=855）



問3　住所（n=855）



問4　免許・自動車の保有（n=855）

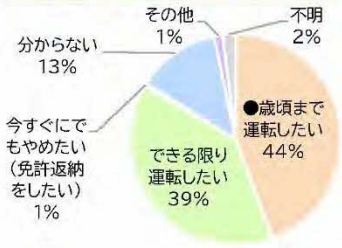


※ 江差町内における地区ごとの移動傾向等について分析するため、各町を**「五勝手・上町・下町・日明・北部」**の５地区に分類し集計。
【五勝手】南浜町・柏町・南が丘・砂川・萩ノ岱・椴川町
【上　町】上野町・橋本町・本町・新地町・緑丘・茂尻町・円山・陣屋町・海岸町
【下　町】新栄町・愛宕町・豊川町・東山・桧岱・中歌町・姥神町・津花町・鷗島
【日　明】大澗町・泊町・尾山町・田沢町・伏木戸町
【北　部】柳崎町・水堀町・五厘沢町・越前町・中網町・小黒部町・朝日町・鰊川町

7

３．調査結果詳細（3-1　回答者属性）

問5　自動車の運転意向（n=598）



●歳まで運転したい内訳（n=265）

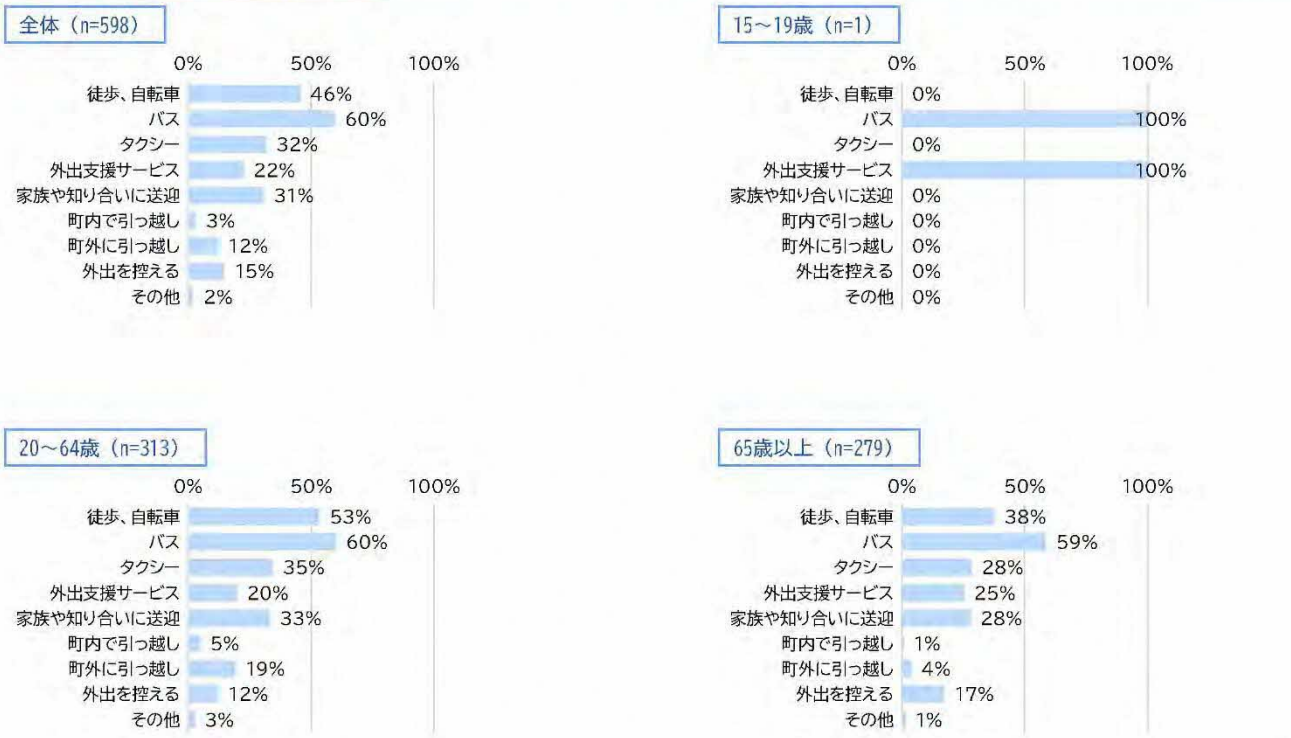


「今すぐにでもやめたい（免許返納をしたい）」の回答者
返納したい理由、すぐに返納できない理由
- タクシー不足。バスが不便。事故などの他人への迷惑等を考えると、そのようなことが無い内に
- 病院までの通院。食料品等の買い物
- 年令。事故を起こしてからでは間に合わないので

8

３．調査結果詳細（3-1　回答者属性）

問6　運転困難時の移動手段【年齢別】

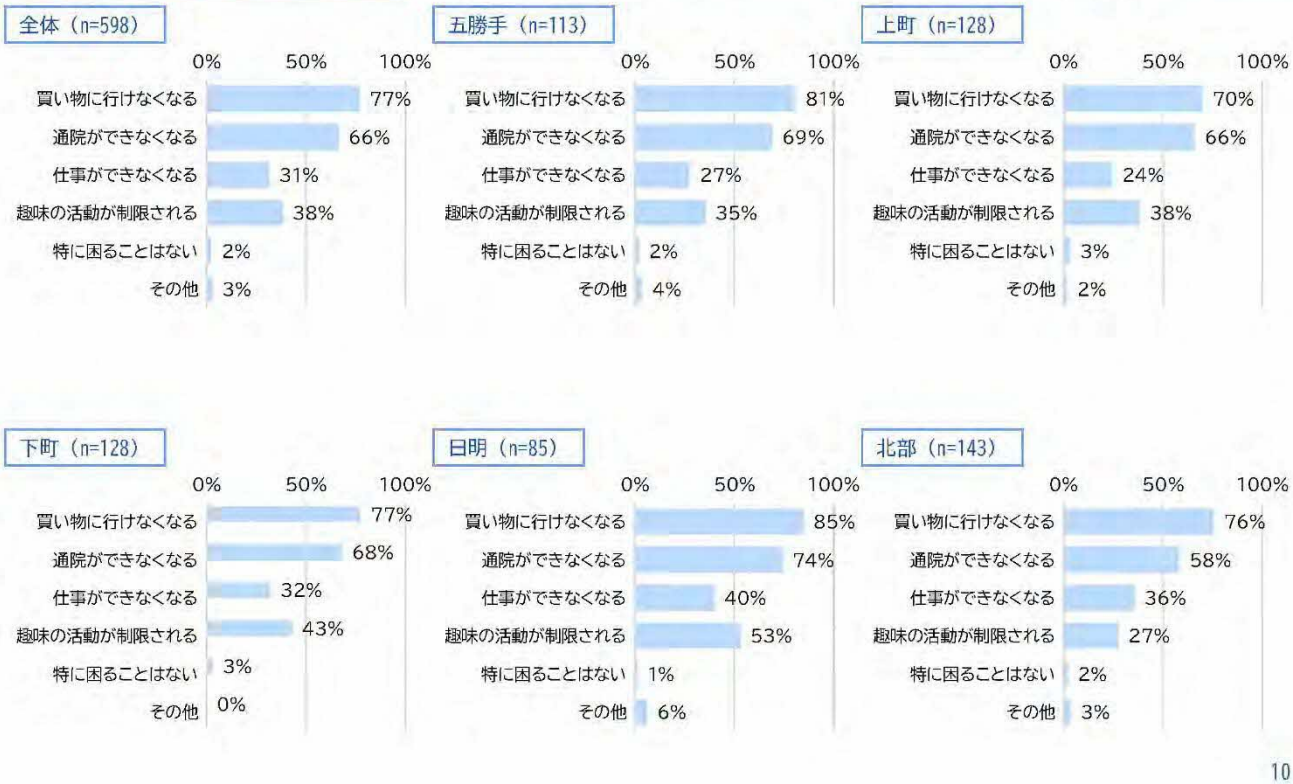


9

３．調査結果詳細（3-1　回答者属性）

問7　免許返納により困ること【地区別】

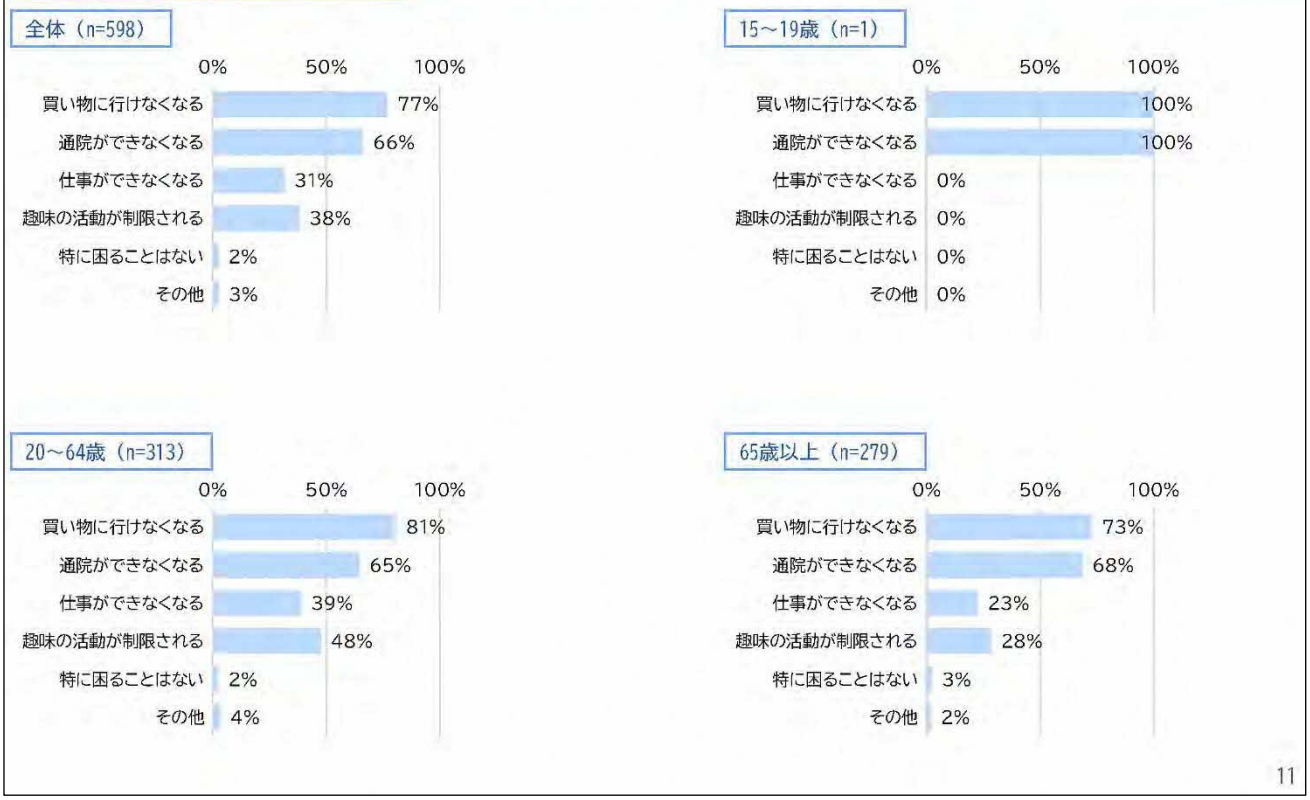
※地区別の集計については、「五勝手・上町・下町・日明・北部」の5地区で集計



10

３．調査結果詳細（3-1　回答者属性）

問7　免許返納により困ること【年齢別】

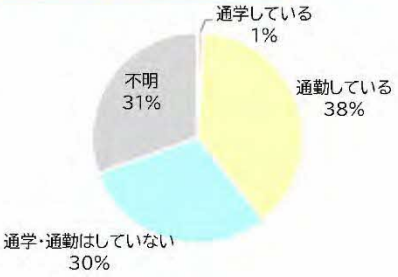


11

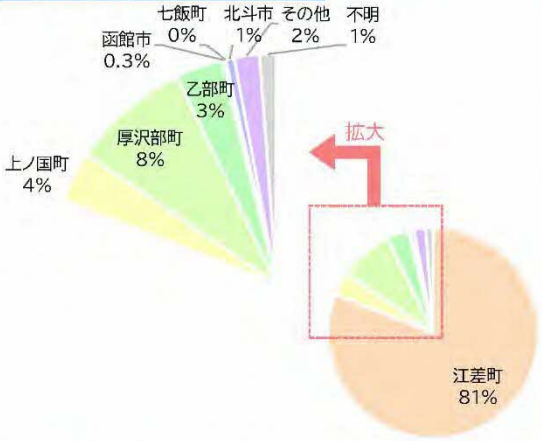
３.４　調査結果詳細（生活状況-通勤・通学）

３．調査結果詳細（3-2　生活状況-①通勤・通学）

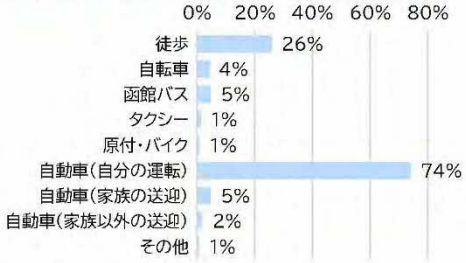
問8①　通学・通勤（n=855）



問8②　通学先、通勤先（n=336）



問8③　通学・通勤時の交通手段（n=336）



通学先の高校名

・江差高校

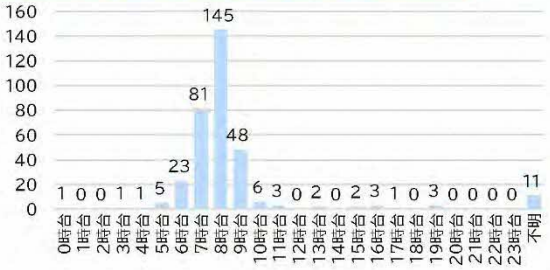
通勤先の地区

中歌町　19　/　姥神町　17　/　陣屋町　15　/　伏木戸　12　/　本町　9　/　水堀町　8　　など

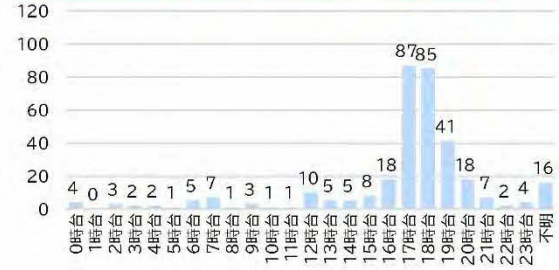
12

３．調査結果詳細（3-2　生活状況-①通勤・通学）

問8④　通学・通勤先に到着する時間帯（n=336）



問8⑤　通学・通勤先から帰宅する時間帯（n=336）



13

３.５　調査結果詳細（生活状況-買い物）

３．調査結果詳細（3-2　生活状況-②買い物）

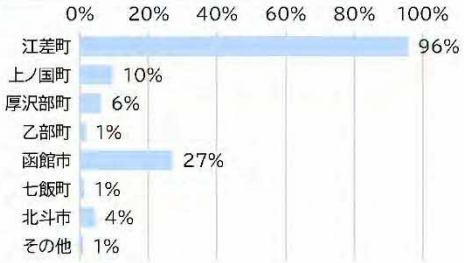
問9①　商品宅配等の利用状況（n=855）



問9②　買い物に行く頻度（n=855）



問9③　よく行く買い物先（n=739）



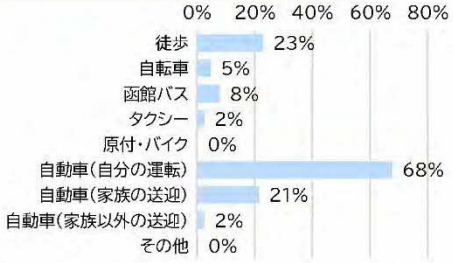
よく行く買い物先（具体的な店名）

ラルズマート　363　/　ブンテン　358　/　サツドラ　181　/　イエローグローブ　98　/　ツルハ　82　/　ホーマック　63　/　小林商店　41　/　イオン　40　/　セイコーマート　39　　など

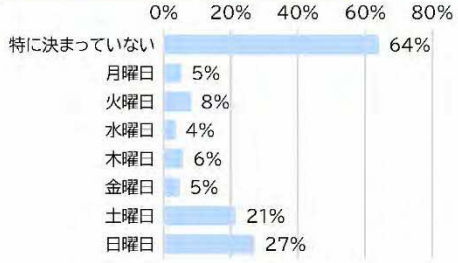
14

３．調査結果詳細（3-2　生活状況-②買い物）

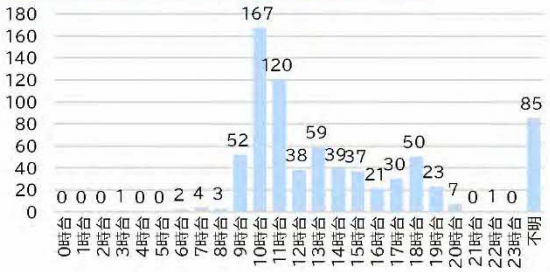
問9④　買い物時の交通手段（n=739）



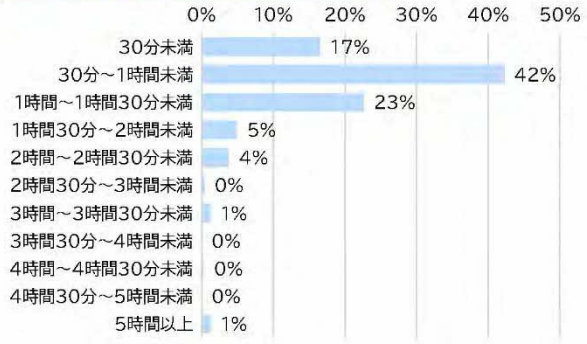
問9⑤　よく出かける曜日（n=739）



問9⑥　買い物先に到着する時間帯（n=739）



問9⑦　買い物先での滞在時間（n=739）

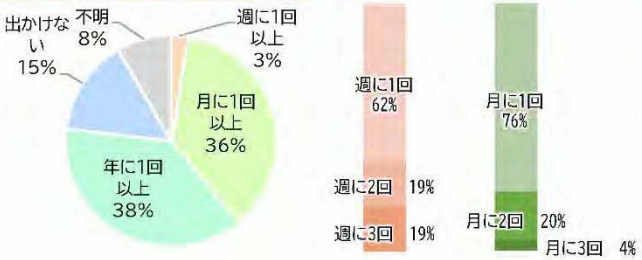


15

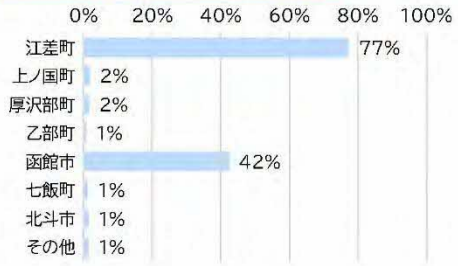
３.６　調査結果詳細（生活状況-通院）

３．調査結果詳細（3-2　生活状況-③通院）

問10①　病院に行く頻度（n=855）



問10②　よく行く通院先（n=657）



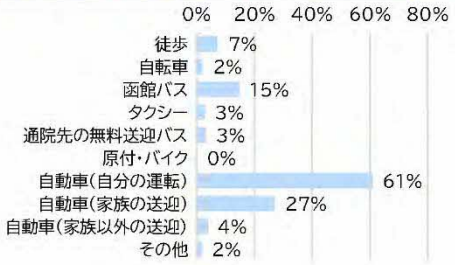
よく行く通院先（具体的な病院名）

道立江差病院　265　/　道南勤医病院　67　/　佐々木病院　48　/　五稜郭病院　30　/　市立函館病院　28　/　函館中央病院　26　/　江差脳神経外科クリニック　22　　など

16

３．調査結果詳細（3-2　生活状況-③通院）

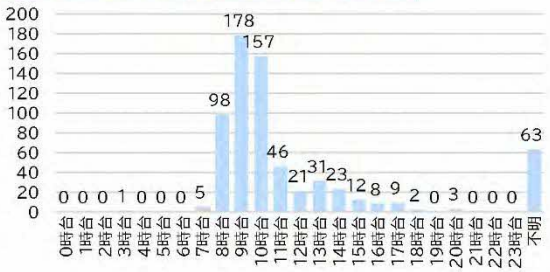
問10③　病院に行く際の交通手段（n=657）



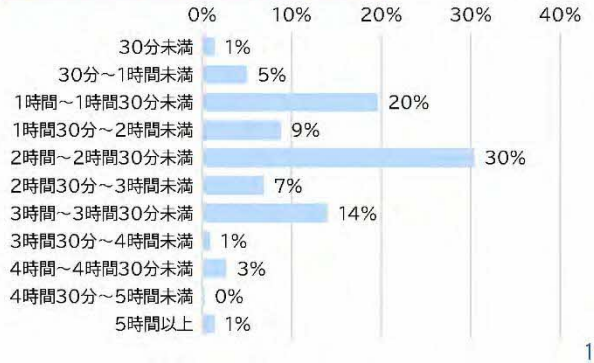
問10④　よく通院する病院（n=657）



問10⑤　通院先に到着する時間帯（n=657）

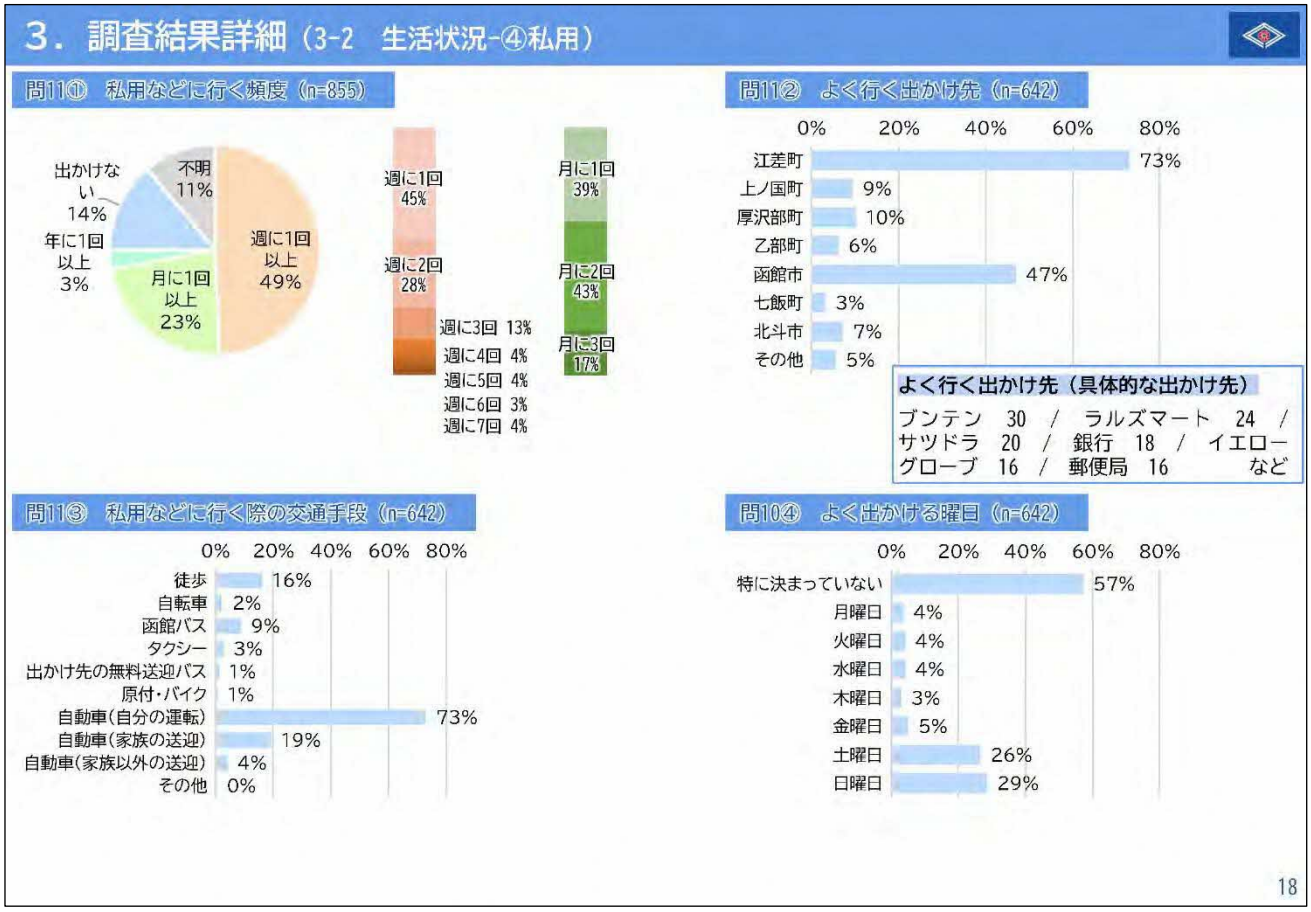


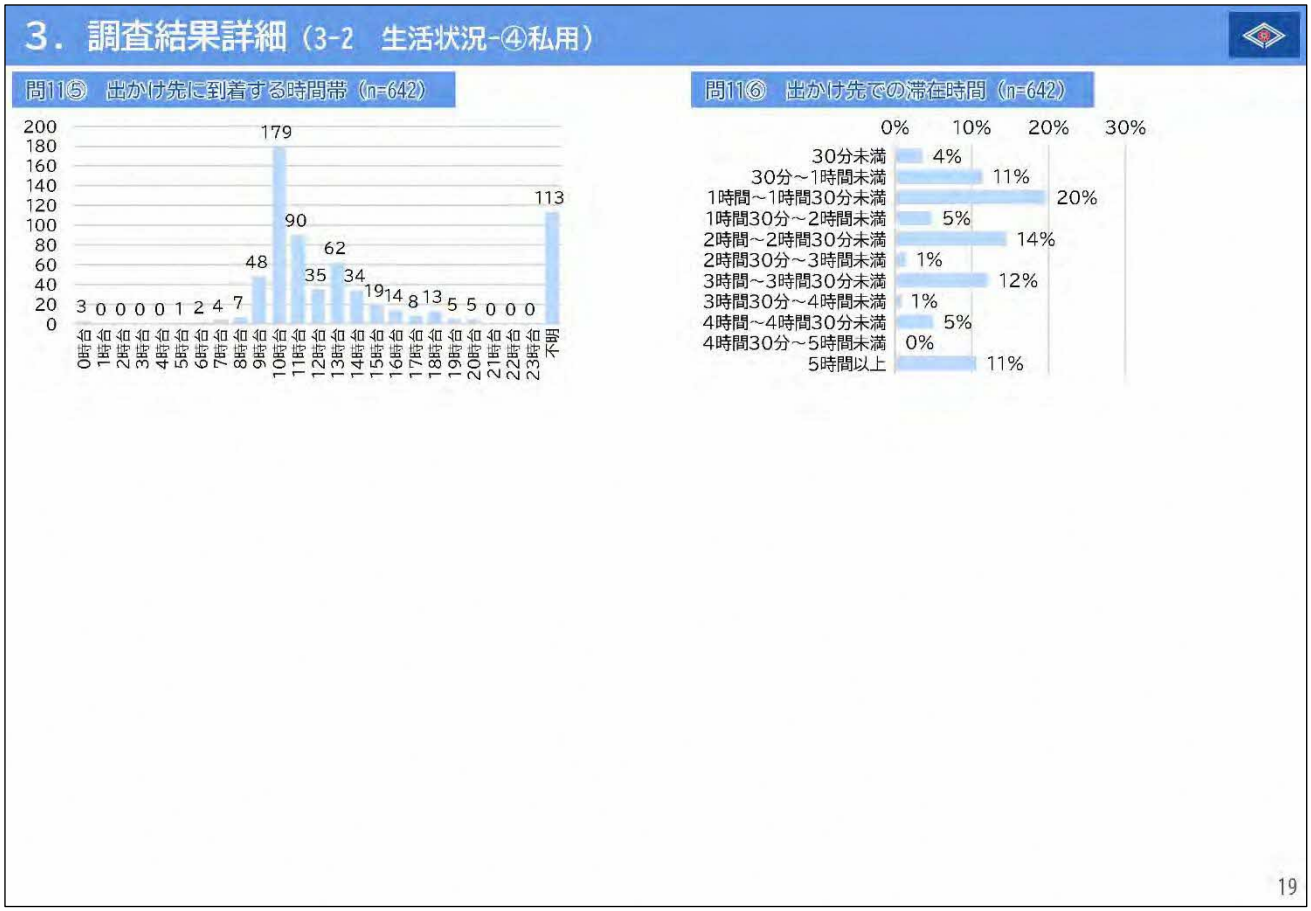
問10⑥　通院先での滞在時間（n=657）



17

３.７　調査結果詳細（生活状況-私用）





３.８　調査結果詳細（携帯端末の保有・利用用途）

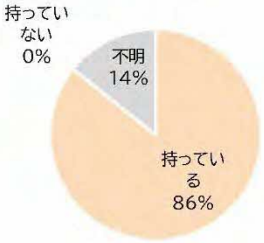
３．調査結果詳細（3-3　携帯端末の保有・利用用途）

問12　携帯端末の所持【年齢別】

全体（n=855）



15～19歳（n=7）



20～64歳（n=349）



65歳以上（n=483）

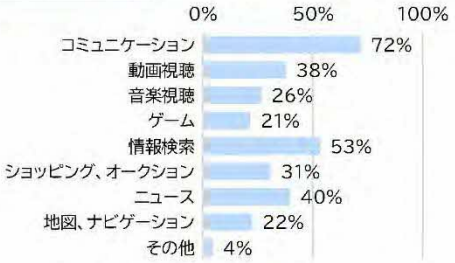


20

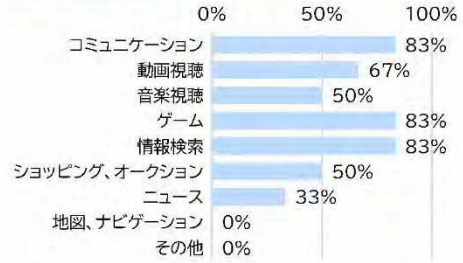
３．調査結果詳細（3-3　携帯端末の保有・利用用途）

問13　インターネットの利用用途【年齢別】

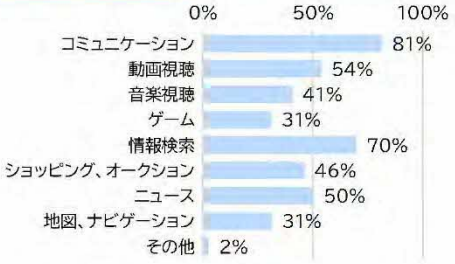
全体（n=561）



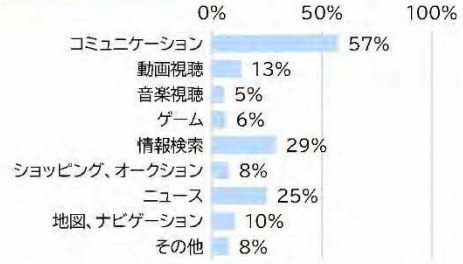
15～19歳（n=6）



20～64歳（n=327）

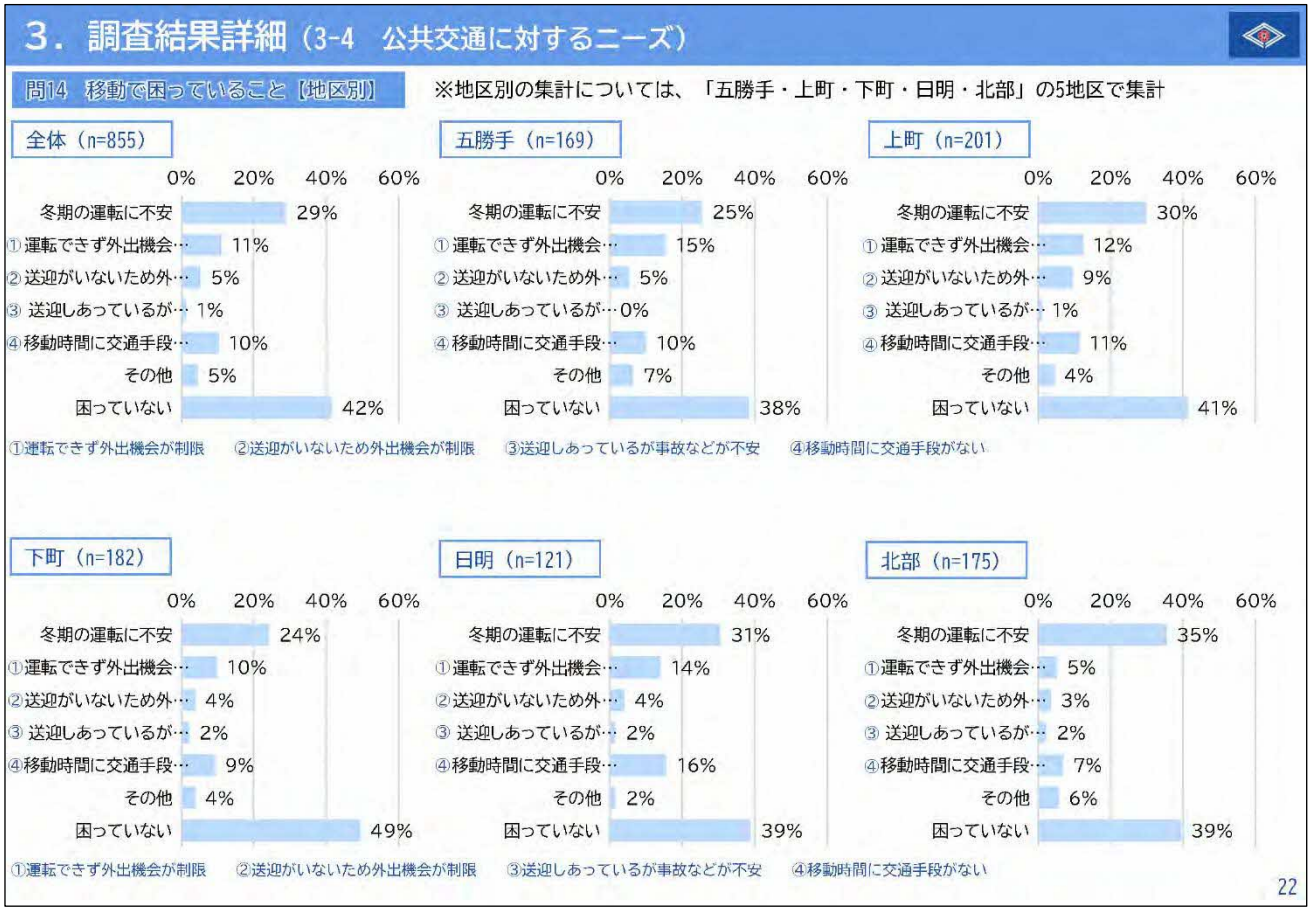


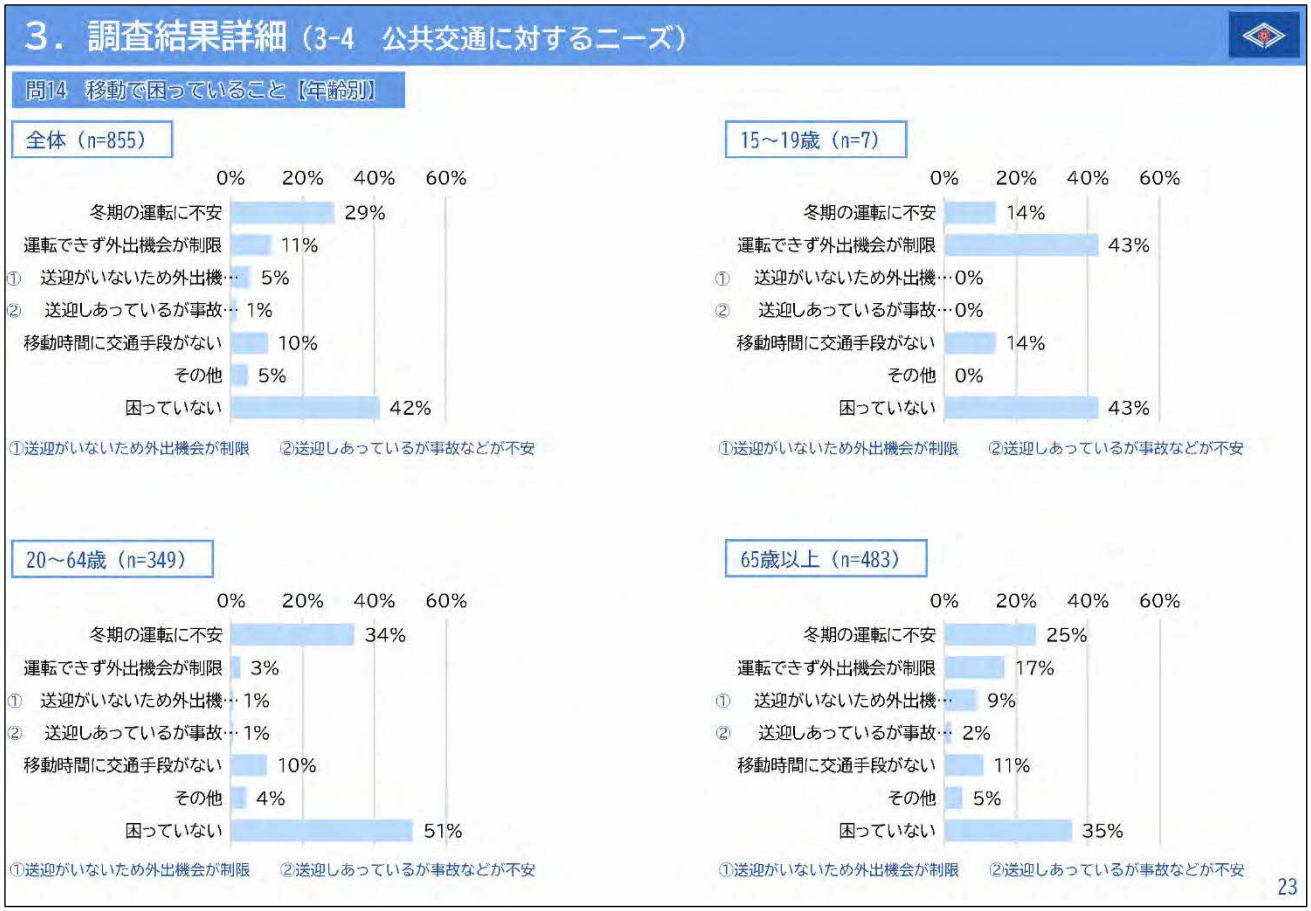
65歳以上（n=225）



21

３.９　調査結果詳細（公共交通に対するニーズ）





３．調査結果詳細（3-4　公共交通に対するニーズ）

問14　移動で困っていること【その他意見】

バスについて
・バスの回数が少ない
・バスの時間が空きすぎて不便
・バスの本数が少ない
・バスの時間帯が少ない
・バスの数が足りないと思います。役場や買い物等
・函館に行き来するバスの本数が少ない

タクシーについて
・タクシーが夜中に走らない。何かあったら不安
・タクシーの利用多し

送迎について
・配偶者に送迎してもらう
・娘が運転するので、いない時は不便
・家族への負担

冬道、除雪について
・朝の除雪を早くして欲しい
・坂が多いのにロードヒーティングが少ない
・駐車場出入り口に積み上げられた除雪の雪に困っている
・冬期は道路状況が悪く、徒歩も難しくなり、外出回数が減少する
・冬の歩道の整備
・歩道が除雪されていなく歩きづらい
・ラッセル車除雪後
・小中学生の交通手段（特に冬）
・渡島中山峠が吹雪くと見通しが悪いので、該当などが、もっとあるといいなと思う
・冬場の函館までの運転
・道路が滑るので心配
・道路の除雪が来ていない時間に外出すること

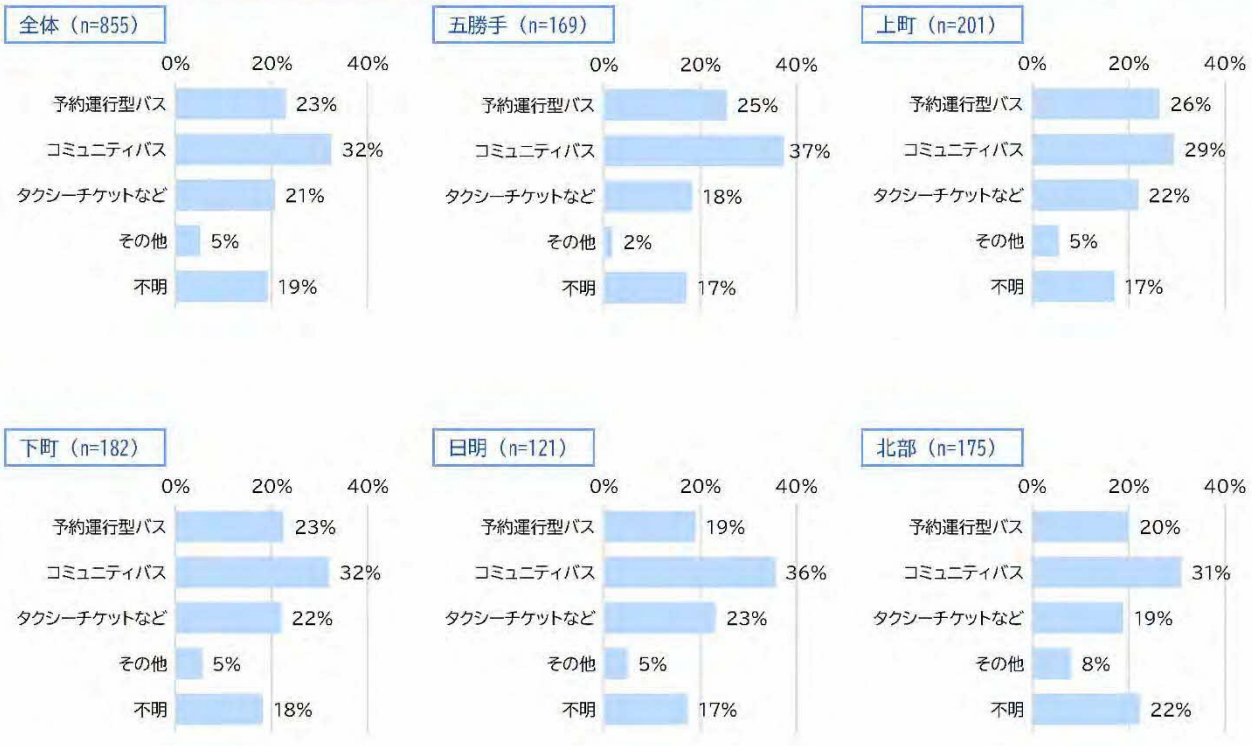
移動困難
・足が悪いので近くの所でなければ出れない
・年末に骨折し、退院後リハビリ中、今後全てにおいて不安である
・函館等の長距離移動
・親が買い物の交通手段がない

その他
・移動販売車で週1回だけ買い物する
・今のところ自家用車で自分の運転で、家族同伴で移動しているので特に困ったことはない
・介護施設入所者のため、日常的に移動はない
・ガソリンが高い
・ガソリン代が高い（車の維持費等も）
・免許返納後の事が心配
・介護利用
・現在は自分で運転しています
・入所中の為、出かけられない
・波が車に被るので、江差や上ノ国に行きたくない

24

３．調査結果詳細（3-4　公共交通に対するニーズ）

問15　新たに運行してほしい交通サービス【地区別】　※地区別の集計については、「五勝手・上町・下町・日明・北部」の5地区で集計



25

３．調査結果詳細（3-4　公共交通に対するニーズ）

問15　新たに運行してほしい交通サービス【年齢別】

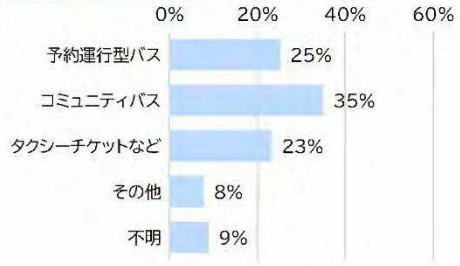
全体（n=855）



15～19歳（n=7）



20～64歳（n=349）



65歳以上（n=483）



26

３．調査結果詳細（3-4　公共交通に対するニーズ）

問15　新たに運行してほしい交通サービス【その他】

バス-増便・利便性向上など
- JRや持続可能な都市間バスを増やしてほしい
- バス停を少し多くしてほしい
- バスとJRの乗り継ぎ時間を見直して欲しい

バス-都市間
- 都市間バス（江差～札幌）
- 札幌行きの高速バス等があれば嬉しい

バス-その他
- 日にちを決めて地域の人たちと共同でスーパー等の往復バス

タクシー
- 代行
- タクシーが24時間あって欲しい
- 函館までのタクシーの割引

デリバリー、移動販売
- ウーバーイーツ
- 移動販売

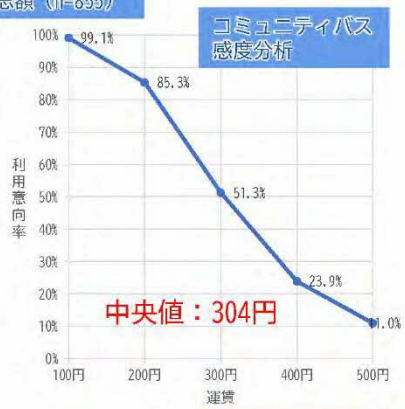
その他
- Maasを実現し、サブスクリプション的な利用を可能にする
- 介護・障害等福祉関係の交通の割引
- 家族が面倒を見てくれるため無し
- 現役で働いている間は不要
- 市中に店舗施設等の導入
- 介護を利用している
- 街灯などの整備

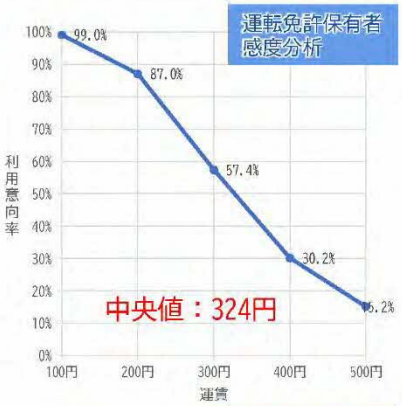
27

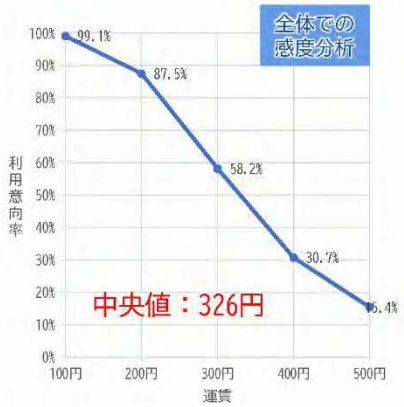
３．調査結果詳細（3-4　公共交通に対するニーズ）

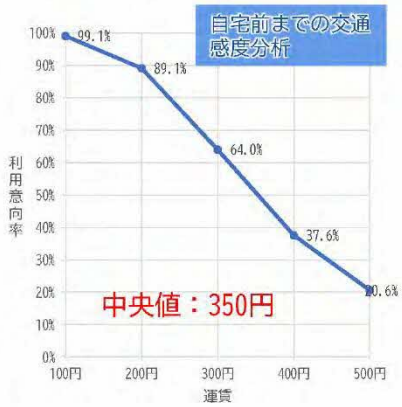
問16　運行してほしい交通の導入時の支払い意思額（n=855）

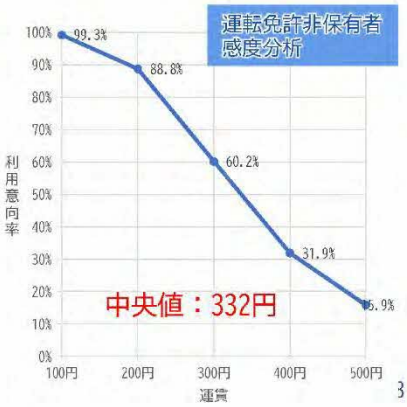








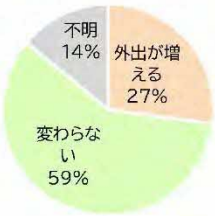




3

３．調査結果詳細（3-4　公共交通に対するニーズ）

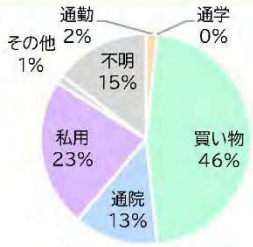
問17　運行してほしい交通の導入時の外出機会（n=855）



問18　運行してほしい交通の導入時の想定外出回数（n=232）



問19　運行してほしい交通の導入時の想定される利用目的（n=232）



29

３．調査結果詳細（3-4　公共交通に対するニーズ）

問20　携帯端末での運行情報・予約サービスの運用【年齢別】

全体（n=855）



15～19歳（n=7）



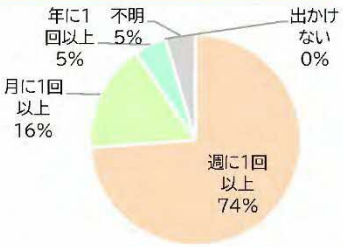
20～64歳（n=349）



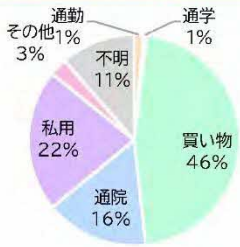
65歳以上（n=483）



問21　運行情報・予約サービスの運用時の外出機会（n=367）



問22　運行情報・予約サービスの運用時の想定される利用目的（n=367）



30

３.１０　調査結果詳細（その他自由記述）

３．調査結果詳細（3-5　その他自由記述）

バスについて

バスの運行、料金

・バス運行は費用が掛かるので、ハイエース等の大型ワンボックスカーを利用する。
・バスの利用者が日常化できる運行・料金・支援等。バスの利用ができないエリアや時間帯の共助の仕組み（規制緩和、住民による乗り合い）。町職員の通勤利用の徹底（本気で）。
・沿線自治体と連携し、函館バスの拡充をすることで対応可能と思います。バスの小型化と運行頻度の倍増、それに伴う人員増・人件費の補填、定住化に向けた施策など。
・皆が端末を持っているとは限らない。いつでも定期に運行している事と住民に周知することで、助かる高齢者もいると思う。住民目線で町づくりをお願いします。
・交通系ICカードニモカをもっと町民にアピールなどし、江差町民にポイントを利用してバスを利用してもらえるように、還元を考えると良いと思います。 例えば、江差高校までの通学にニモカを利用で、町で半分定期代を負担するとか、免許返納者には、ニモカを持ってもらい町内の移動のみ100円にするとか、どんな形で町民に利用してもらえるかは、賛否色々有ると思いますが、そんな感じで町民に公共の乗り物を理解してもらえると思います。
・松前町の様に均一（￥100）を走らせてほしい。
・JRや持続可能な都市間バスを増やしてほしい
・バスとJRの乗り継ぎ時間を見直して欲しい

運行ルート

・海岸町においては、交通（バス亭などが無い、通らない）為、ほとんど徒歩である（30分～60分）。
・決まった時間で、細かいルート（柳崎、伏木戸方面も）巡回。しかも運賃が『無料』なら、利用者が増えると思います。
・将来的に柳崎地区に商店が多くなったら不便になると思う。道立病院を柳崎方面へ移転した事が陳地、本町、愛宕町商店街の裏返しに影響していると思う。
・豊川町在住の友人が、函館バスが通らなくなり不便と言っている。交渉していただきたい。
・バスの本数が少ないので、買い物がとても不便（特に冬場）。スーパーへのバスが欲しい。ラルズ江差店、柳崎方面（ブンテン、ホーマックあたり）へのバスがあると買い物が助かる。親も免許がない為、現在苦労しています。
・ホーマックやブンテン等に行きたいのですが、その方面にバスが行かず不便に感じています。
・松崎のパークゴルフ場にも巡回する運行をしてほしい。
・郡部にも、もっと利便性を。
・交通空白地域などへのきめ細かい交通網を確保するなど、高齢化社会に備した対策が必要と考えます。高齢の方にとっては、ありがたく待ち望んでいる事だと感じます。
・高齢者には必要ないかもしれないが、札幌や函館等、主要都市への高速バスがあると便利かもしれませんね。また、電気自動車の地域シェアがあると便利かも。
・巡回バス等が運行したとしても、自宅から乗り場までの距離が遠い方は、結局利用することが難しくなってしまうと思います。 曜日ごとに回る地域を変えるなどして、どの方も利用しやすい公共交通機関の運行をしていただけると、生活がもっと便利になると思います。　いつも地域のために尽力してくださり、ありがとうございます。
・町内であれば不満なし。桧山全域は分断されているので、通れるようにして欲しい。熊石～せたな間。
・買い物でなく、病院や施設等へ行くバスがありましたら、とても利用しやすく助かります。

31

３．調査結果詳細（3-5　その他自由記述）

バスについて

バスの運行本数・時間・時刻

・江差町内を夜8時頃まで運行して欲しい。
・大きいバスでなくても良いので、マイクロバスにして（通勤、通学時を除く）便数を増やしては？
・公共交通機関の偏りが日々不便さを助長している。私は病院勤務をしていますが、患者さん達の多くが「バス時間」の制約のため、過度に早い時間や診療後数時間待たないと帰宅できない現状があります。そのような地域の足としての交通が検討されるとありがたいです。
・小型のバスで良いので、江差町と函館市の直通で、時短を頼む
・函館バスの午前中の回数を一便だけ多くして欲しい。
・バスの朝9時台の本数が少ない。函館の病院の帰りの便が17時までないので15時頃の便に間に合わない時は19時頃になり、家に着くのは21時30分過ぎ…。辛いです。
・バスの便数を増やして欲しい（江差高校）。
・バスの便が少ないので、車は必要です。
・病院の帰り、2時過ぎ台のバスが無いので困っています。
・民家のある町道を通るバスを増便できれば良い。
・引っ越しして来て1年未満。 地方の小さい町は 公共交通機関は便数や路線や時間など使いにくいので使ってません。 自分のクルマが無いと生活できません。
・公共交通が学生用とその他の住み分けができて、便数が多く便利なら、是非利用したいと思います。難しい事とは思いますが…。年齢が増すごとに不安になります。
・江差高校への登下校における公共交通の充実を望みます。
・江差高校前の道路に路上駐車が多く、通行の妨げになっている。高校生のバス利用を増やすだけでも、メリットはあるのではないのでしょうか。
・先日道南バスに乗り、新函館北斗まで行ったが、数分到着が遅れて電車に乗り換え出来ない事があった。長距離の為仕方がないと思うが、バスの到着時間とJRの時間にゆとりがあると助かる。
・夜飲酒後にバスで帰宅できるのはとてもありがたいです。しかし、利用できる時間帯は減っており、なくなってしまわないか心配です。
・バスの回数が少ない。

バス停

・交通が不便。足や腰が悪いのに、バス停までが遠い。
・停車場を作らず、路上の停車できる場所ではどこでも乗り降りできる場所が必要です。
・函館バスの時間帯に次に来るバスの時間待ちが長い為、往復バスを利用の際は限られた時間に行く事になるため不便である。冬のバス停は待合室がないので寒い。
・函バス停の徒歩距離も長く、年齢を重ねるうえで不安があり、運行時間や運行数も少なくなり不便で仕方がない。
・バス停が遠く便利が悪い。
・バスの便数が少なく、風雪の強い江差では特に冬の待ち時間が苦痛です。これらを整えられたらと願っています。覆いのないバス停は辛いです。
・バス停を少し多くしてほしい

32

３．調査結果詳細（3-5　その他自由記述）

デマンドバス、コミュニティバスについて

・このアンケートのように、デマンドバスでもコミュニティバスでも住民が活動的に動くことが出来ると一日一日が明るく活動できると思います。
・コミュニティバスを運行してほしい。
・是非コミュニティバスの導入を実現させてほしい。
・デマンド型は年寄りには難しいサービスだと思います。コミュニティバスを町内別に（月、木）下町方面の運行とかの方が、使いやすいかも知れないですね。
・デマンドバス（予約運行型）と説明文を書くなら、始めから予約とかいてほしい。
・デマンドバス、コミュニティバスのそれぞれに利便があると思う。これから自身が運転が難しくなってきた時に無理をしないで免許返納が出来るためには、上記のサービスは必要だと思う。
・デマンドバス、コミュニティバスも長所短所があるが、あれば助かる人もいると思う。皆老いて行くので、交通手段の確保は必要。
・デマンドバスを運行する時は、利用時間を出来るだけ夜遅くまでのばしてほしい。
・まだ自分で運転できるので、公共交通は利用しないが、将来的にはコミュニティバスがあれば、無理に運転せずに利用したい。
・既にボランティア活動を止めた。コミュニティバスがあれば良い。
・問15について。デマンドバスは予約方法などで、アナログ世代は利用しなさそう（高齢化社会）。コミュニティバスは都会的で良いけど「ただ走っている」時間が多そう（赤字につながる）。なので既存の交通の料金割引に「○」をつけました。

携帯端末による予約など

・運行状況の検索は学生ならとても良いと思う。（導入して欲しい）老人となると、このサービスの利用は難しいと思う。
・携帯端末が使えない人も簡単に予約が出来て、歩行が難しい人も自宅の前まで迎えに来てもらえ、低賃金で利用できたら良いですね。その時対応して下さる運転手さん等が優しい方だと素敵ですね。自分はまだ一人で移動できるけれど、高齢者の方は本当に大変だと思います。
・公共交通は必要な事ですが、不必要な外出は避けています。また、スマートフォンのギガ数が限られているので、あまり外では使用したくありません。
・高齢者の為、通常の会話程度の利用である。携帯を操作して、デマンドバスを利用することはないと思われる。
・スマートフォンが使えないため、他の方法を考えてほしい。
・スマートフォンを上手に使えないので、利用しないと思います。
・スマートフォンを操作しての登録や予約などは苦手です。シンプルでわかりやすいサービスを希望します。
・スマートフォンを持っていません。
・スマホの使い方が分からない。
・スマホの所有者が何割なのか？スマホを所有していない町民のことを考えたサービスを望む。
・スマホを持っていないので、コミュニティバスの停留所に運行時間、回路表示をしてくれたら利用したいです。
・スマホを持っていないし、持っても操作に自信がない。デマンドバスはとても良いと思うが、高齢者が予約しやすいシステムを希望する。
・他人とのコミュニケーションが苦手である。携帯も苦手で受電のみの利用である。その為、デマンドバスの利用の考えはない。移動は通院と買い物ぐらいの為、今は親族の世話になっている。積極的に出かけようと思わないため、自身には考えが無い。
・私は携帯を持っていないので2月より江差マースと言うタクシーが出来ましたが携帯を持っていない私には便利な物ではありません。

33

３．調査結果詳細（3-5　その他自由記述）

タクシー

・過疎が進む中、一朝一夕にベストな方法などは…とは思いますが、バスの運行も年々少なくなり、又、タクシーも急な依頼は、ほとんど利用不可。どうなるのでしょうか。この町の生活は！？
・交通の便で不便している方の事はよくわかりませんが、シンプルに？タクシーの増台（24H）、代行があれば良いなとずっと思っています。難しいのは分かりますが…。
・高齢になると、足や視力が弱くなり、冬期は高くても自宅より自宅までが便利でタクシー頼りです。
・タクシーの台数を増やす。小さめのバスでも良いので、運行を増やす。
・タクシー代が高い。
・他地区からの転入者です。自家用車があれば不便は感じないですし、例えば飲酒時等、運転出来ない時はタクシーを使えば全く問題ありません。（そもそも街がコンパクトで徒歩のみでもOK）個人的には、特に新たな交通手段等は必要性を感じません。
・介護が必要な高齢者が増加しているので送迎サービスの充実、相乗りタクシーとかあればいい。そして住民が定着する高齢者を支える世代が住みやすい町作りが必要だと思う。
・将来、足腰が現在より悪くなる可能性が高いので、長時間の待機がや歩行が不安です。具合が悪くなった時、すぐに対応できるタクシーなどを安く利用したい。

移動販売、デリバリーサービスなど

・買い物が不便だが、予約するバスを利用したいと思わない。ネットの予約ができる高齢者は多くないと思う。予約が不便。移動販売の車があると、利用を考えると思う。
・高齢社会だし、外食なども車を使わなければならない距離だし、コロナのこんなご時世なので、トドックのような買い物代行サービス、移動販売、ウーバーイーツのような宅配を充実した方が雇用も生まれるし（町あげて、お店を巻き込んで）良いのでは？
・小さい子供がいるお母さんの為の買い物代行サービスがあるといいのではないかと思っています。
・乳児、幼児がいる家庭だと子供を連れての買い物が大変です。交通を良くすのもよいですが、子育て世帯への買い物サービスなど公共興津を活用したものを行って欲しい。

34

３．調査結果詳細（3-5　その他自由記述）

移動制約者対応

・足が悪いので近くを利用します。
・足や腰の悪い人への、サービスの充実。
・高齢者が車の免許を手放しても、あまり制限されやすい安心して暮らせるサービスが充実して欲しい。子の世代からしても、親が高齢で運転し続けるのは不安。
・高齢になった時生活行動を占めるのは、通院と買い物や理美容室などだと思います。その部分を安心してストレスなく充足できるような、公共交通の整備をお願いしたいです。
・坂が多く徒歩が困難な江差町において、無料で利用できる町民の足を整備する事が、町政、人口増につながると思います。町民が利用しやすさを重視した施策になればと思います。
・自分は移動に問題ないが、小学生や中学生の子供が自力で買い物に行けないため、交通手段にもっと慣れる環境ができるといいと思います。
・問20，多分自分が70，80代になったら使いこなせなくなるので利用できない。

35

３．調査結果詳細（3-5　その他自由記述）

その他

検討プロセスについて
・高齢者や弱者の声を充分に聞いてからの実施をして下さい。お役所サイドの決定とならないようお願いします。
・場所や時間等を、地域町内会の意見も参考にしてほしい。
・各地区の状況をもっと知る事が必要。
・今後も高齢者は増加していくので、危険運転を防ぐため運転免許の更新を厳しくするべきです。その上で、免許返納をした人の意見を尊重するのが良いと思います。

まちづくりなど
・公共施設及びスーパー等の食料品店の一局集中の街造りを願いたい。江差町管内全体の分数型街造りは
・町内に安心して歩ける歩道。商店街に駐車場。高校前の道路拡張又は駐車場。
・人、会社、家、土地を誘致する。

その他
・除雪について、もう少し雪を残さないようにしていただきたいです。
・お年寄りだけでもサービスがあると、高齢者の不安な車の運転がなくなると思う。
・コロナの状況によっても利用状況が変わると思う。
・自分の運転技術に迷いが出た時は、70歳でなくても返納したいと思います。
・町民の税負担を軽減するために良い方法を。
・なるべく歩くようにしています。バスを利用しています。
・まだ若いので自動車で通勤できていますが、ガソリン価格の高騰で自家用車の使用をなるべく減らしています。休日もなるべく家にいる事が増えているのですが、江差町で交通サービスを開始しても、あまり便利さが増すことがないような気がします。交通サービスよりガソリンの補助があれば助かります。
・街の無料の車があれば良いと思います。
・脚が不自由なので、公共交通機関を利用できず、もっぱら家族の送迎に頼った外出となっている。
・釧路管内浜中町の交通システムが結構便利でした。
・暫定的に高齢者を想定したサービスばかりを想定せず、5G普及を急ぎ、全ての年齢層の人が等しく恩恵を受けられるサービスを模索すべき。 不可能と断じている内は何も実現できない。
・足腰が悪いので、ない。
・店や街に遠いへき地のケアを充実させてほしいと思います。
・年寄りにも利用しやすいものがあれば。

36

第４章　北海道江差高等学校への通学状況に関するアンケート調査

江差町地域公共交通活性化協議会用資料

北海道江差高等学校への通学状況に関するアンケート調査

目次

1．調査の概要 2
1-1 調査実施の目的 2
1-2 調査実施期間 2
1-3 調査対象 2
1-4 配付・回収状況 2
1-5 調査項目 2
2．調査結果概要 3
2-1 バス運行時間帯と通学時間帯（帰宅時）のミスマッチ 3
2-2 運賃助成等の住民が利用したいと思える運賃体系 4
3．調査結果詳細（生徒用） 5
3-1 回答者属性 5
3-2 通学状況 6
3-3 公共交通への要望 9
3-4 公共交通の利便性改善時の利用頻度 11
4．調査結果詳細（保護者用） 12
4-1 回答者属性 12
4-2 通学状況 13
4-3 公共交通への要望 14
4-4 公共交通の利便性改善時の利用頻度 18

1

４.１　調査概要

１．調査の概要

1-1　調査実施の目的

・公共交通の主な利用者となり得る、北海道江差高等学校への通学者の**現状の通学状況の把握**及び**公共交通へのニーズを把握**することを目的に、通学者及び保護者を対象としたアンケート調査を実施

1-2　調査実施期間

・令和４年７月１３日（水）～７月２２日（金）

1-3　調査対象

・北海道江差高等学校に通学している生徒（全学年）及びその保護者

1-4　配布・回収状況

・配布状況　生徒・保護者 222人
・回収状況　生徒128人（回収率：57.7%）、保護者137人（回収率：61.7%）

1-5　調査項目

項目	回答種別	内容	ねらい
１．属性	共通	・学年　・居住地	・属性別で傾向を把握
	生徒用	・部活動所属	
２．通学時の移動状況	共通	・行き・帰りの移動手段	・居住地による特性を把握
	生徒用	・普段の通学時間	
３．公共交通に対するニーズ	共通	・公共交通を利用していない理由 ・公共交通の利用頻度、通学費用 ・通学で困っていること、不便に感じていること ・公共交通の改善策や要望及び改善時の利用頻度の変化	・公共交通利用における課題の把握 ・改善策の検討
	生徒用	・公共交通を活用した移動区間	

2

４.２　調査結果概要

2．調査結果概要

2-1　バス運行時間帯と通学時間帯（帰宅時）のミスマッチ

・生徒及び保護者からの回答で共通して最も多く挙げられた、公共交通が不便な点は、「バスの運行時間が合わない」
・生徒の通学時間帯を整理した結果、帰宅時において、午前中授業（定期試験）や部活動を行う生徒の帰宅時に、現バス運行時間帯とのミスマッチが発生してることが予想される

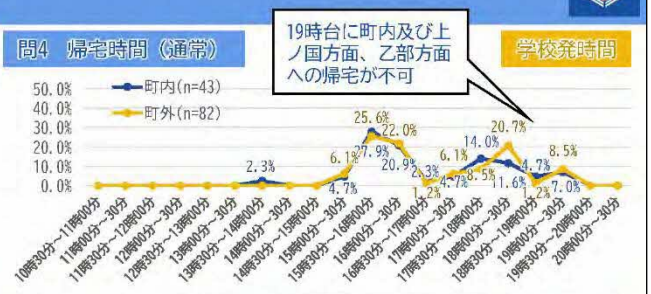
■バスの運行時間が合わない

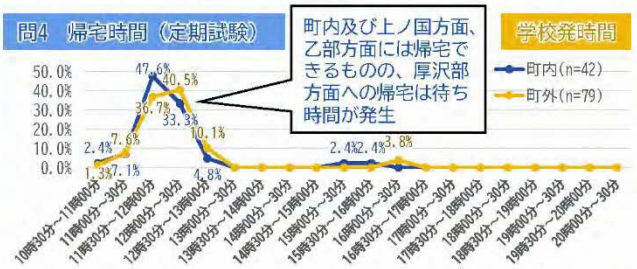
【生徒用アンケート部抜粋】
・バスの帰りの時間が15時半しかなく、次が19時なので不便
・朝のバスはあるが帰りのバスがない
・夕方は１時間ごとに便を増やしてほしい
・部活が終わったらバスがなく、１時間以上待たなければならない
・3時間目で学校が終わるとバスがない。早く終わった場合でも通常の時間で帰ることになるので、函館行きのバスの時間を増やしてくれたら帰れる時間が自由になる

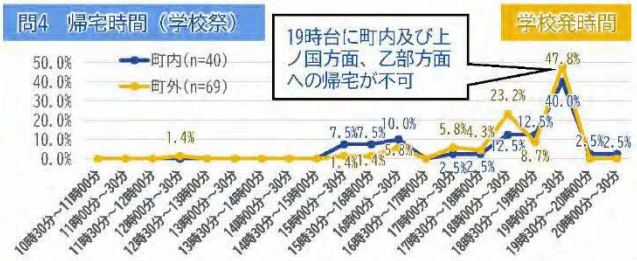
生徒用問10　普段の通学で困っていること、不便に感じてること

【保護者用アンケート部抜粋】
・早く学校が終わるとちょうどいいバスがなく、待つか他の人に迎えを頼まなければならない
・テストのときなど午前で終わるときはバスの本数が少なく、待ち時間が長い
・バスの帰りの時間が15時半で、次が19時までないのでとても不便
・帰りの最終バスが18時のため、部活が18時15分までだと迎えに行かなければならない。冬は命がけで迎えに行けないので不安
・休日の部活で、部活の開始時間と終了時間とバスの時間が合わないので毎回送迎が必要となってしまう

保護者用問7　普段の通学で困っていること、不便に感じてること



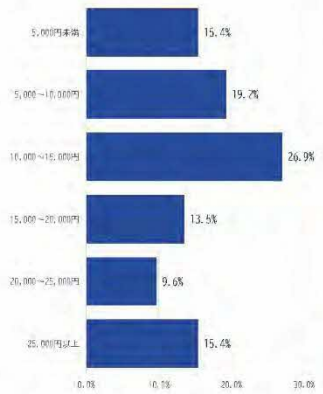




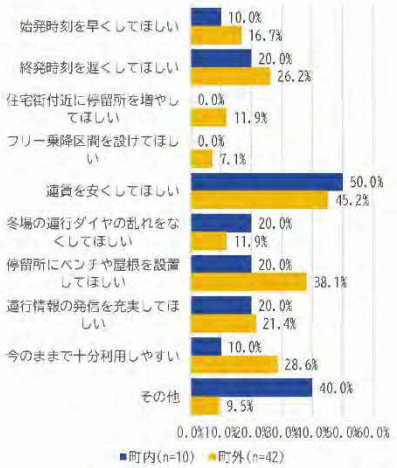
2．調査結果概要

2-2　運賃助成等の住民が利用したいと思える運賃体系

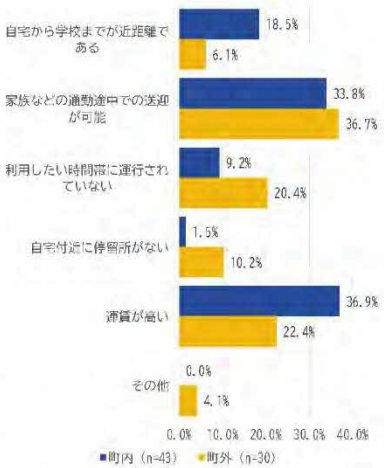
・生徒が挙げる公共交通の改善点として、最も回答割合が高いのは「運賃を安くしてほしい」
・保護者からの要望として、公共交通機関を利用しない理由として、「運賃が高い」が最も多くの意見
・北海道江差高等学校が立地する町内からの利用であっても、1か月当たり10,000円以上の費用負担を行っている世帯も存在



保護者用問6
公共交通を利用した際の1か月の通学費用



生徒用問9
公共交通の改善点



保護者用問4
公共交通機関を利用しない理由

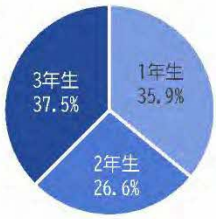
1か月当たりの通学費用

4

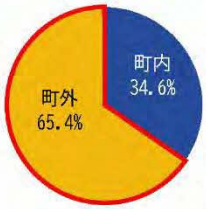
４.３　調査結果詳細（生徒用-回答者属性）

3．調査結果詳細（生徒用）　3-1　回答者属性）

問1　学年（n=128）



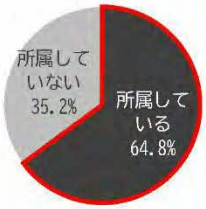
問2　居住状況（n=127）



町外通学者の居住状況

居住地	回答数	割合
乙部町	36	28.3%
上ノ国町	20	15.7%
厚沢部町	22	17.3%
八雲町	5	3.9%
町外合計	83	65.4%
町内合計	44	34.6%
総計	127	100.0%

問3　部活動への所属（n=128）



回答者の部活動の所属状況

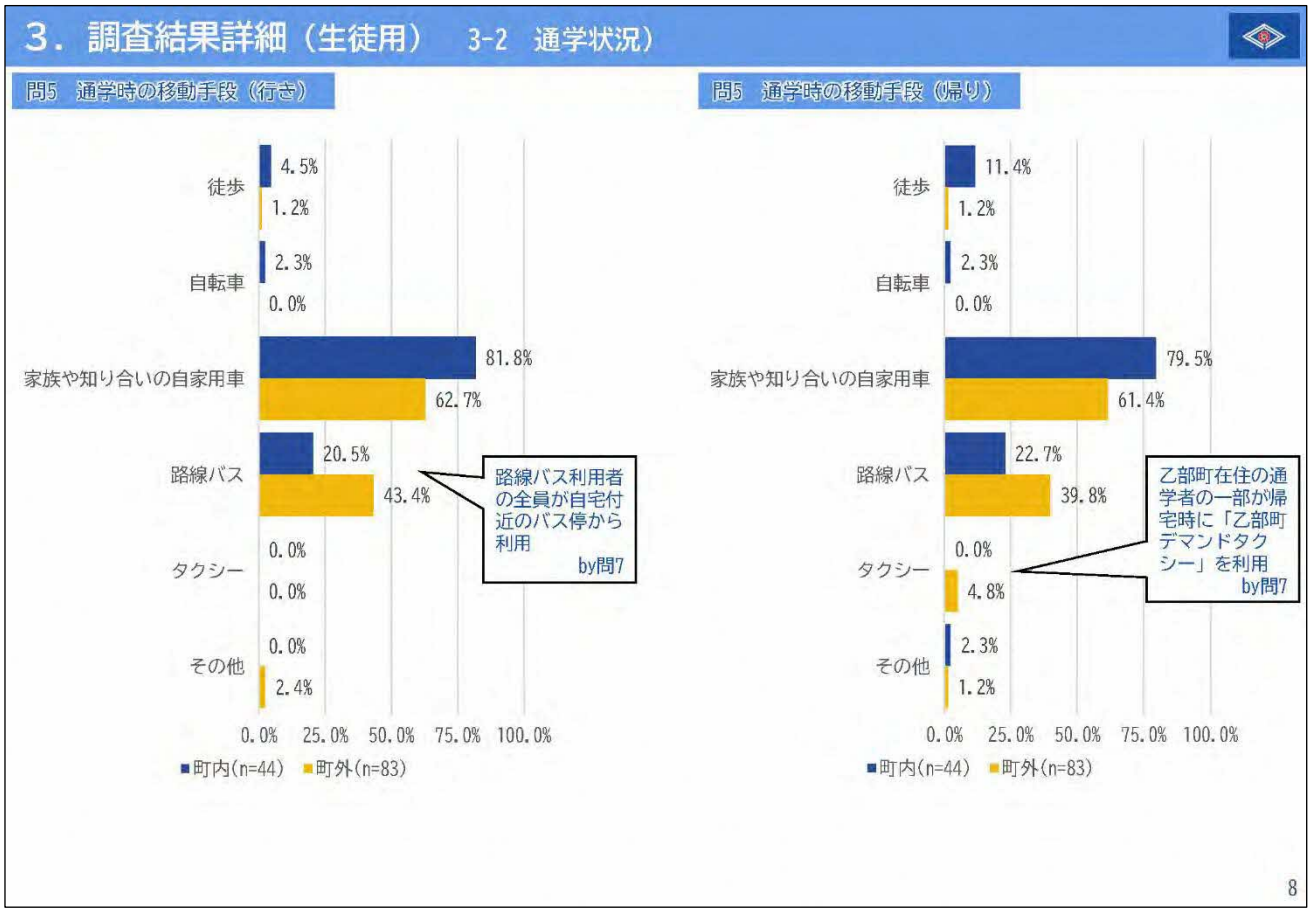
部活動	回答数	割合
弓道	14	19.7%
バスケットボール	13	18.3%
野球	12	16.9%
バドミントン	9	12.7%
サッカー	6	8.5%
男子バレーボール	5	7.0%
美術	5	7.0%
書道	4	5.6%
茶道	4	5.6%
女子バレーボール	3	4.2%
剣道	3	4.2%
吹奏楽	3	4.2%
総計	127	100.0%

5

４.４　調査結果詳細（生徒用-通学状況）



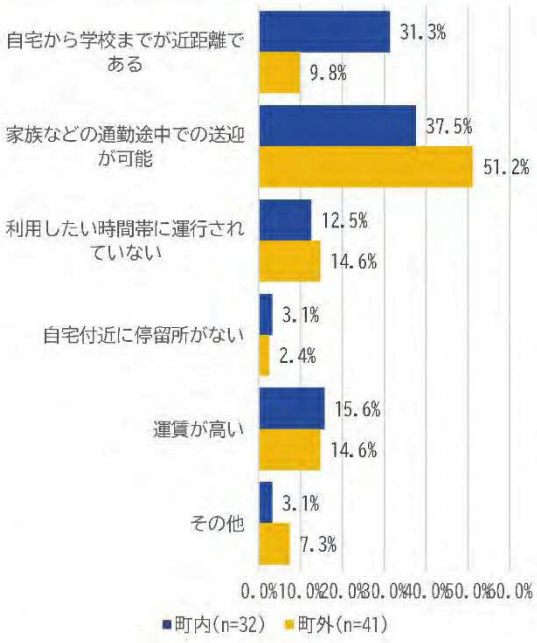



3．調査結果詳細（生徒用）　3-2　通学状況）
問5　通学時の移動手段（行き）
徒歩
4.5%
1.2%
自転車
2.3%
0.0%
家族や知り合いの自家用車
81.8%
62.7%
路線バス
20.5%
43.4%
路線バス利用者の全員が自宅付近のバス停から利用
by問7
タクシー
0.0%
0.0%
その他
0.0%
2.4%
0.0%　25.0%　50.0%　75.0%　100.0%
町内(n=44)　町外(n=83)
問5　通学時の移動手段（帰り）
徒歩
11.4%
1.2%
自転車
2.3%
0.0%
家族や知り合いの自家用車
79.5%
61.4%
路線バス
22.7%
39.8%
乙部町在住の通学者の一部が帰宅時に「乙部町デマンドタクシー」を利用
by問7
タクシー
0.0%
4.8%
その他
2.3%
1.2%
0.0%　25.0%　50.0%　75.0%　100.0%
町内(n=44)　町外(n=83)
8

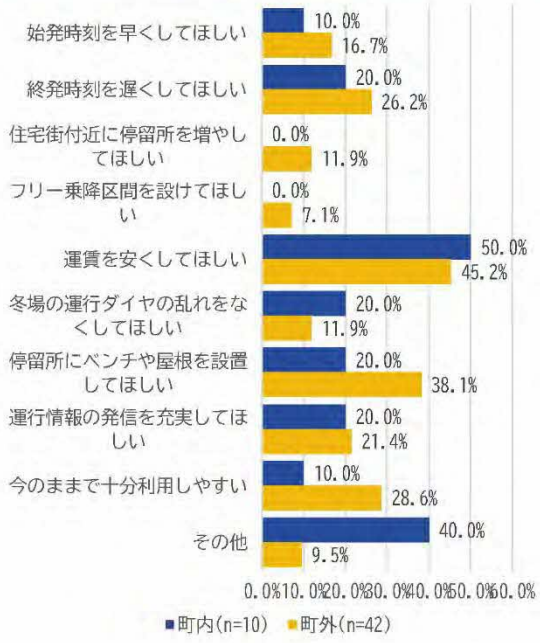
４.５調査結果詳細（生徒用-公共交通への要望）

3．調査結果詳細（生徒用）　3-3　公共交通への要望）

問6　公共交通機関を利用していない理由



問9　公共交通の改善点



9

3．調査結果詳細（生徒用）　3-3　公共交通への要望）

問10　普段の通学で困っていること、不便に感じてること

■バスの運行時間が合わない（n=18）

【詳細内容】
・バスの帰りの時間が15時半しかなく、次が19時なので不便
・朝のバスはあるが帰りのバスがない
・掃除が長引いたときや、ホームルームが長引いたときに函館バスセンター行きの16時台のバスに間に合わない
・16時台のバスがないのが不便
・16時45分頃に江差高校に着くバスが欲しい
・部活が終わるのが17時くらいなので、17時20分くらいに函館行きのバスを運行してほしい
・18時に終わった時のバスがない
・夕方は１時間ごとに便を増やしてほしい
・熊石行きはお昼12時台から16時台までバスがないのでもう何本かほしい
・間のバスがなくて長時間待たないとならないので少し不便
・日曜、祝日は学校に行ける時間のバスがないため、検定等がある場合厳しい
・休日や部活、模試テストのときにバスが利用できない
・部活が終わったらバスがなく、１時間以上待たなければならない
・平日お昼で終わった時、バスで帰ると自宅に着くのが遅すぎる
・3時間授業の時の待ち時間が長すぎる
・定期試験が3時間で終わるときにまっすぐ家に帰れないので、12時くらいに函館行きのバスを運行してほしい
・3時間目で学校が終わるとバスがない。早く終わった場合でも通常の時間で帰ることになるので、函館行きのバスの時間を増やしてくれたら帰れる時間が自由になる
・バスの始発時間がもう少し早いと早めに学校につける

■バス停が遠い（n=2）

【詳細内容】
・停留所が遠いので夜は暗くて怖い
・最寄りの停留所まで遠すぎて毎日バス停までの送り迎えが大変

■バスが混雑している（n=2）

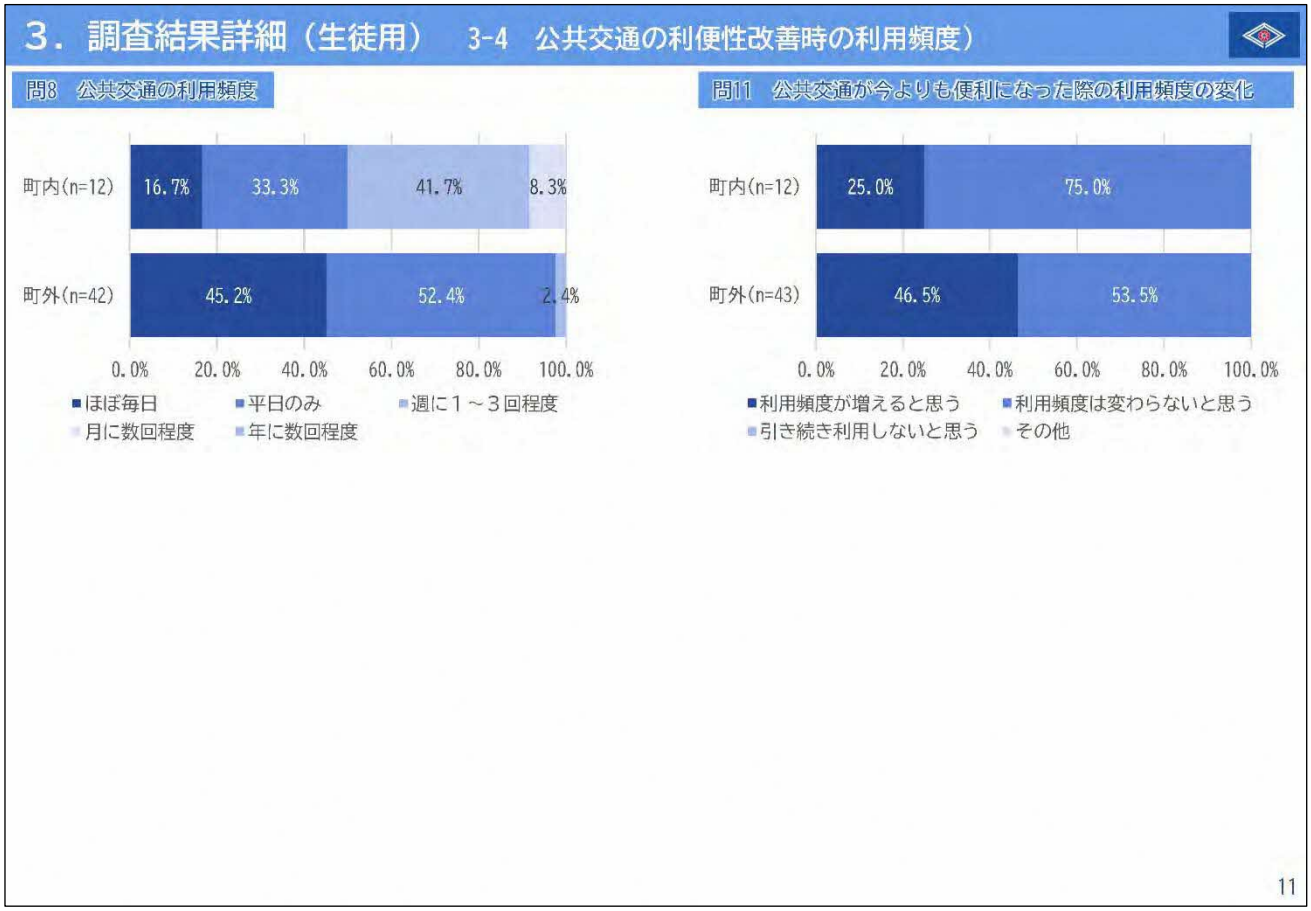
【詳細内容】
・バスが狭いので朝座れない
・行きのバスが混みあって大変

■その他（n=2）

【詳細内容】
・バス利用に係る助成してほしい
・部活の荷物が多く、バスより車での送り迎えのほうが子供が少しでも休める

10

４.６　調査結果詳細（生徒用-公共交通の利便性改善時の利用頻度）



４.７　調査結果詳細（保護者用-回答者属性）

4．調査結果詳細（保護者用）　4-1　回答者属性）

問1　お子様の学年（n=137）



問2　居住状況（n=137）

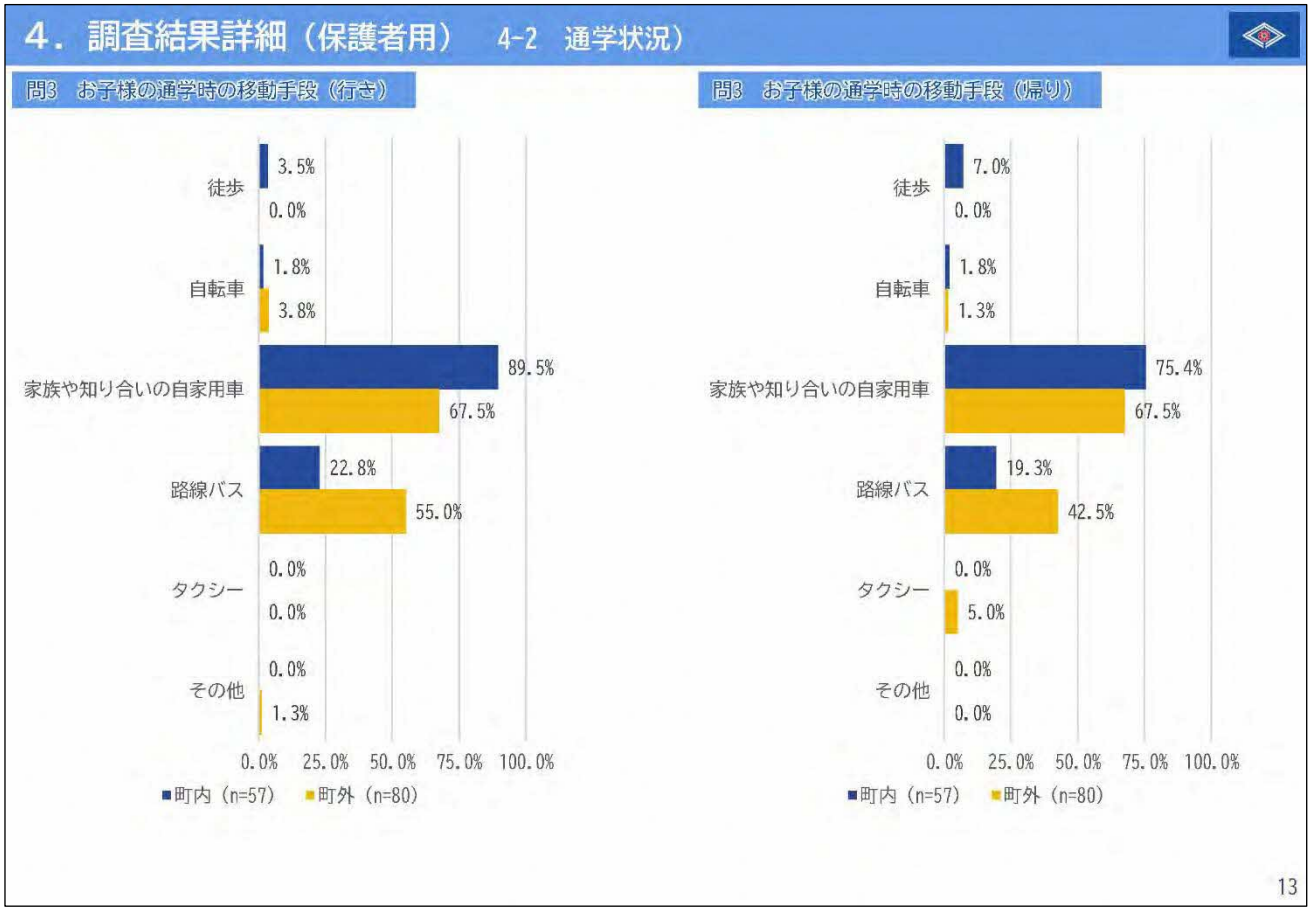


町外居住者の状況

居住地	回答数	割合
乙部町	33	24.1%
上ノ国町	20	14.6%
厚沢部町	21	15.3%
八雲町	6	4.4%
町外合計	80	58.4%
町内合計	57	41.6%
総計	137	100.0%

12

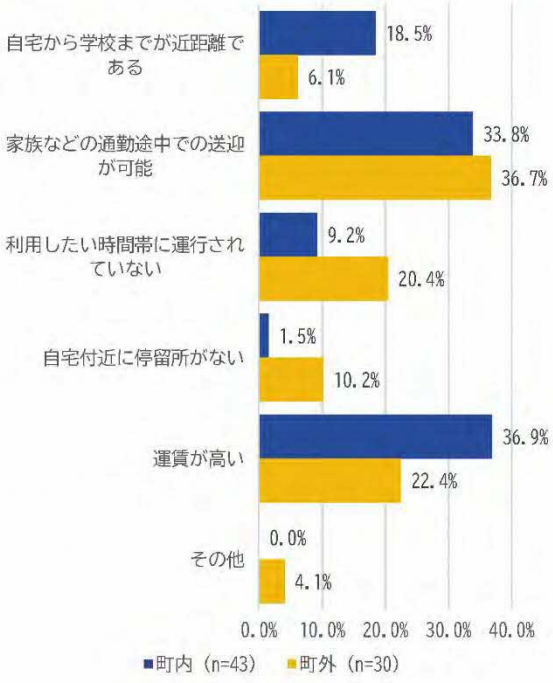
４.８　調査結果詳細（保護者用-通学状況）



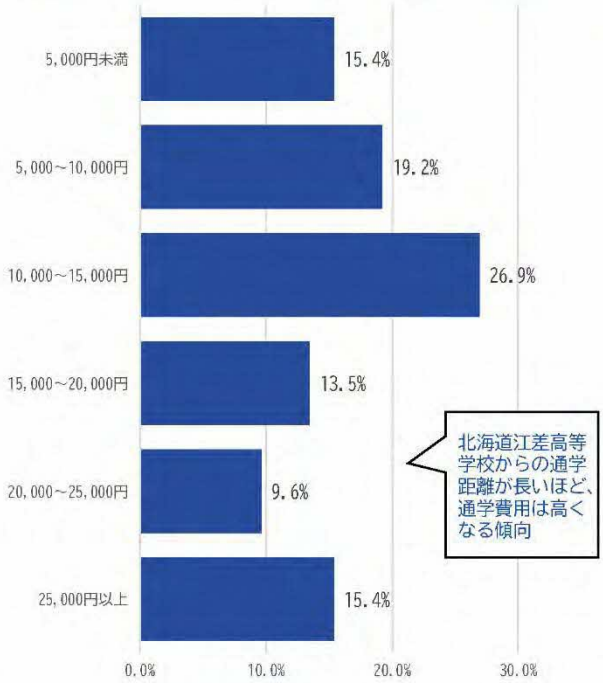
４.９　調査結果詳細（保護者用-公共交通への要望）

４．調査結果詳細（保護者用）　4-3　公共交通への要望

問4　公共交通機関を利用しない理由



問6　公共交通を利用した際の1か月の通学費用（n=52）



14

４．調査結果詳細（保護者用）　3-3　公共交通への要望

問7　お子様の普段の通学で困っていること、不便に感じてること

■バスの運行時間が合わない（n=17）

【詳細内容】
- 朝は学校に着くのが時間ギリギリ
- 朝の通学用のバスの時間が早すぎるので使えない。午前授業のときもいい時間帯のバスがないので大変不便。木古内行きのバスは昼の時間帯に運行しているので直通で帰れるが、海方面のバスは昼12時18分に出発してもターミナルまでしかなく、乗り換えて家に着くのは14時頃になるので、昼ご飯が必要になる状態はどうかと思う。午前授業をやめてほしくなる。
- 早く学校が終わるとちょうどいいバスがなく、待つか他の人に迎えを頼まなければならない
- テストのときなど午前で終わるときはバスの本数が少なく、待ち時間が長い
- バスの帰りの時間が15時半で、次が19時までないのでとても不便
- 行きはバスの時間があるが、帰りの時間が合わないので１時間以上待つことになる
- 下校時に早くなったり、遅くなった時にちょうどいいバスがない
- バスの本数は限られている中、下校時間がまちまちであるためバス通学させられない
- バスの運行時間がわかりづらい
- 部活が後半のときの帰りのバスがない
- 帰りの最終バスが18時のため、部活が18時15分までだと迎えに行かなければならない。冬は命がけで迎えに行けないので不安
- ちょうどいい時間のバスがなく部活が満足にできない
- 定期を買っているが部活が遅いと結局帰りは迎えに行っている。乙部タクシーがあるが予約が面倒なので使っていない
- 休日の部活で、部活の開始時間と終了時間とバスの時間が合わないので毎回送迎が必要となってしまう
- 休日の部活の日、帰りのバスがない時間があり困っている
- 土曜日の部活にバスが利用できない時間帯があるので、バスの時間帯にもう少し合わせてほしい
- 土日が登校日になった時に、朝のバスがなくて困る

■運賃、定期代が高い（n=9）

【詳細内容】
- 定期代が高い
- バス通学させたいが、通学費用が高く仕方なく送迎している
- バスの運賃が高いのでできる限り自家用車で送り迎えをしている
- 運賃が自家用車送迎より高くつくことからバス通学させられない
- 補助金がなくなったら高くて利用できない
- 仕事のため送迎できないのでバスで通っているが定期代が高い
- 今の運賃の半額か、スクールバスがあるといい
- 往復で利用すると860円かかるのでもう少し低料金だったらもっと利用したい
- 上ノ国優待でターミナルまではいいが、ターミナルから高校となると月の交通費が高い

■バス停が遠い（n=4）

【詳細内容】
- バス停が遠い
- バス停まで時間がかかる。帰りは歩くとなると街灯が少なく暗い
- バスの時、自宅付近に停留所がないので送迎が必要になる
- 自宅近くにバス停がないため、4キロ離れたところまで送迎しなければならない

■バスが混雑している（n=3）

【詳細内容】
- バスで通学させたいが、生徒及び一般客で混雑し、乗れない状態が入学から現在まで続いている
- バスが混みすぎている
- バスの座席が足りない。部活道具と教科書を持ちながら立ちっぱなしは毎日大変そうです

5

4．調査結果詳細（保護者用）　3-3　公共交通への要望

問7　お子様の普段の通学で困っていること、不便に感じてること

■その他（n=10）

【詳細内容】
・送ってくるだけで30分かかり、1日の中で送迎に1時間費やす
・朝や部活など仕事の時間をずらさなければならない
・兄弟で帰宅時間帯が違うため何往復かしている状態で大変
・送迎の混み具合がすごい
・行き帰りの送迎は全然大丈夫なのですが、車のマナーの悪さに困っています。生徒が乗ったらすぐに出発しない、バスの停留所のところや旋回場で待っている車が邪魔で通行しにくい、列になっている車の前のほうが空いているのに車を前に移動しないなど。
・自家用車だと学校前の混雑で危うく衝突しそうになることもあるのでなるべく避けたいが、バス代もあるので車を使う。学校前の車列で間を詰めないで、旋回場付近で待機してそのままUターンする車がいるので危ない
・学校の駐車場を利用できれば、近隣住民や他の通行車両に迷惑がかからないと思う
・帰りのバスが江差高校前までこないので、江差高校入口まで間に合わないことが多い
・先輩、後輩など気を使いながら登校したくない
・色々な面で大変なことは多々ありますが、それを教えて学ぶのも良いことだと諦めてやっている

16

4．調査結果詳細（保護者用）　3-3　公共交通への要望

問8　公共交通機関についての改善策や要望

■バス運行本数の改善（n=15）

【詳細内容】
・朝は以前のように7時50分ぐらいのバスがあれば嬉しい、19時に部活が終わるときは19時台のバスがあればいい
・もう少し朝早い時間のバスがあれば登校時間に余裕が持てる
・行きのバスの台数を増やしてほしい
・下校時の12時くらいから13時くらいの時間も運行してほしい
・早退の時バスの本数が少ないので大変
・3時間授業や4時間授業の時に臨時で良いのでお願いしたい、17時半と18時半ごろにあると助かる
・せめて1時間に1本のバスが欲しい
・帰宅時間のバスの運行本数を少し増やしてほしい
・16時ごろにバスがあれば帰宅時に利用できる
・16時40分ごろのバスがあると嬉しい
・部活や委員会活動に対応できる時間があれば助かる
・夜19時半のバスがあると助かる
・17時40分と18時30分に乙部方面行きのバスを熱望します
・利用者が少ない理由で難しいとは理解しているが、12時台に出発する原口方面への便を運行してほしい
・土日祝日のバス運行をお願いしたい

■運賃割引及び定期代助成（n=6）

【詳細内容】
・定期代の補助を行ってほしい、一人でも大変ですが二人になったらもっとかかるので
・高校生にバス運賃の補助をお願いしたい
・運賃を安くしてほしい
・町の話だとバス利用が少ないらしいが、バス代が高額なため自家用車で通っているだけで、補助があるとバス利用が増えるのではと思う
・江高生学割か、片道200円なら毎日利用したい。
・上ノ国町の人は割引があるので、ターミナルでのやり方を改善してほしい

■バス停の増設（n=2）

【詳細内容】
・えぞだて公園付近にバス停があるとよい
・ヘリポート付近に停留所を設置してほしい

■スクールバス運行（n=2）

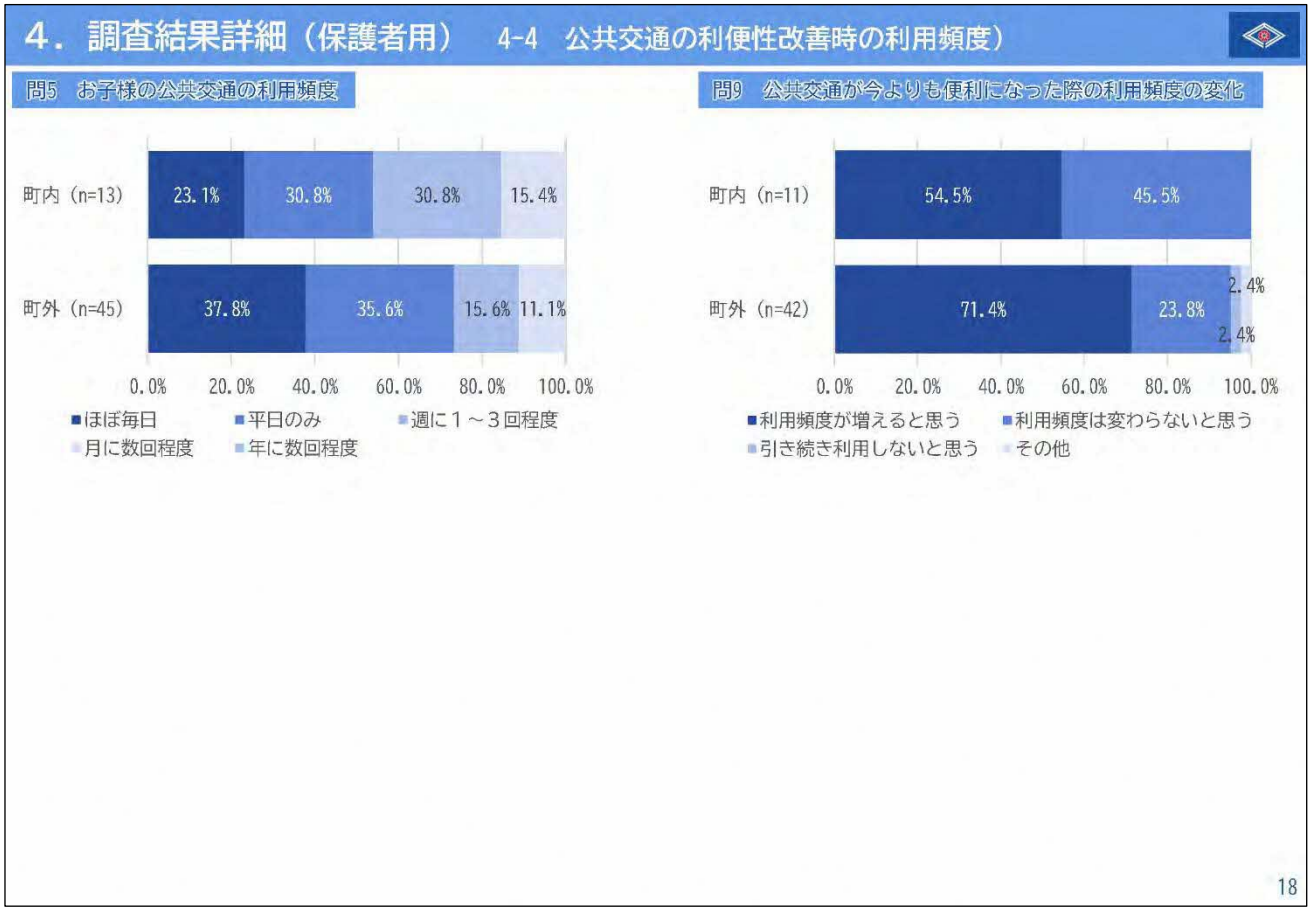
【詳細内容】
・スクールバス制
・通学専用バス運行と利用率向上による低運賃が実現できる仕組みづくり

■その他（n=2）

【詳細内容】
・学校の敷地も広大ですし、駐車場の新設を検討されては？近隣住民や通行車両に迷惑がかからないと思う
・バス停がなくてもフリー乗降できれば良い

7

４.１０　調査結果詳細（保護者用-公共交通の利便性改善時の利用頻度）



第５章　町民意見交換会

５.１　町民意見交換会の開催概要

（I）町民意見交換会開催の目的

江差町地域公共交通計画を策定していく上で、アンケート調査等では把握しきれない町民の詳細な移動実態や公共交通に対するニーズを把握することを目的に開催しました。

（II）対象者

当町に居住する町民を対象としました。

（III）場所・意見交換会内容・参加者数

意見交換会内容等の詳細について、以下に示します。

表　５-１　町民意見交換会の場所・内容・参加者数

実施年度	開催日	場所	意見交換会内容	参加者数
令和３年度	令和４年 ３月 15 日（火）	江差町老人福祉センター	・町民の移動範囲 ・移動で困っていること ・導入してほしい交通サービス ・江差マース実証運行	４人
		五勝手生活館		３人
		南が丘ふれあいセンター		７人
	令和４年 ３月 16 日（水）	コミュニティセンター水堀会館		７人
		田沢憩いの家		７人
		江差町文化会館小ホール		６人
令和４年度	令和４年 １１月 17 日（木）	コミュニティセンター水堀会館	・江差町地域公共交通計画（素案） ・地域概況や各種調査結果に基づいた公共交通の実態の共有 ・江差マース実証実験 ・町民が使いたいと思える生活移動支援策	７人
		中網老人憩いの家		２人
		江差町老人福祉センター		５人
	令和４年 11 月 18 日（金）	江差町文化会館小ホール		２人
		田沢憩いの家		５人
		南が丘ふれあいセンター		14 人

５.２　町民意見交換会結果概要

（I）令和３年度

(I)-i 町民の移動範囲

・柳崎地区に立地している商業施設及び道立江差病院を利用
・江差町市街地に立地している商業施設を利用
・上ノ国町の商業施設を利用
・函館市への通院に合わせ、買い物目的や私用目的等で移動

(I)-ii 移動で困っていること

・荷物を持って帰ることが大変
・バス停までの移動が大変（坂などがあると特に）
➡特に冬はツルツル路面となり、転倒事故なども心配
・バス時刻に合わせて生活することが不便（便数などが少ない、時間が合わない）
➡バス運行情報を知らない町民も存在
・運賃が高い
➡学生などは部活動後にバスで移動するのが不便であり、定期券を買うのはもったいない
・いつまでも車を運転することが不安
➡特に冬はツルツル路面となり、交通事故が不安

(I)-iii 導入してほしい交通サービス

・江差マースのような自宅まで来る交通が望ましい
・函館バス路線の自由乗降化が望ましい
・地区をきめ細かく運行するコミュニティバスが望ましい
・高齢者が乗りやすい低床車両の導入
・運賃負担の軽減化
・町内交通と広域交通の接続性の確保及び交通結節点の整備
➡道立江差病院の駐車場をパーク＆ライド化など
・函館方面（新函館北斗駅など）への早い交通の確保

(I)-iv 江差マース実証運行

・今後も継続してほしい
・予約システムの見直し（電話予約も可など）
・運行範囲の拡大
・時間帯の拡大（夜間の運行など）
・バスやタクシーなどとのすみ分けが必要

（II）令和４年度

(II)-i 江差町地域公共交通計画（素案）

・江差木古内線の車両は乗りやすい
・今後の公共交通の展開には、期待が高まっている
・江差マースは便利だと思うので、ぜひ継続してほしい
・休憩等に活用できる交流・交通拠点の創出は重要

(II)-ii 地域概況や各種調査結果に基づいた公共交通の実態の共有

・路線バスの運行時間帯と移動したい時間がマッチしていない
・モビリティだけでなく、冬場の道路除雪も含めた円滑な移動の確保が重要
・路線バスと町内の交通がセットになって移動できることは重要
・近年の ICT 化についていけない方は一定数いる
・友人や知人を自家用車に同乗させるのは、事故時のリスクがある

(II)-iii 江差マース実証実験

・予め運行時間帯が決まっている方が、乗り合いで利用しやすい
・お出かけなども含めた多様な目的で利用したい
・実証実験時の料金設定だと、1 乗車のみの利用の時に割高に感じる
・オペレーターを通じた予約でも、きちんと予約できているか不安が残る
・携帯電話などを持っていない方の外出先での予約変更等の対応
・予約から乗車までを体験できる機会があると良い
・実証実験の運行時間帯よりも拡大されると良い
　➡8 時台の路線バスに間に合うような時間設定や 18 時まで予約受け付け、など
・町内各地区の拠点施設も目的地として設定されると良い

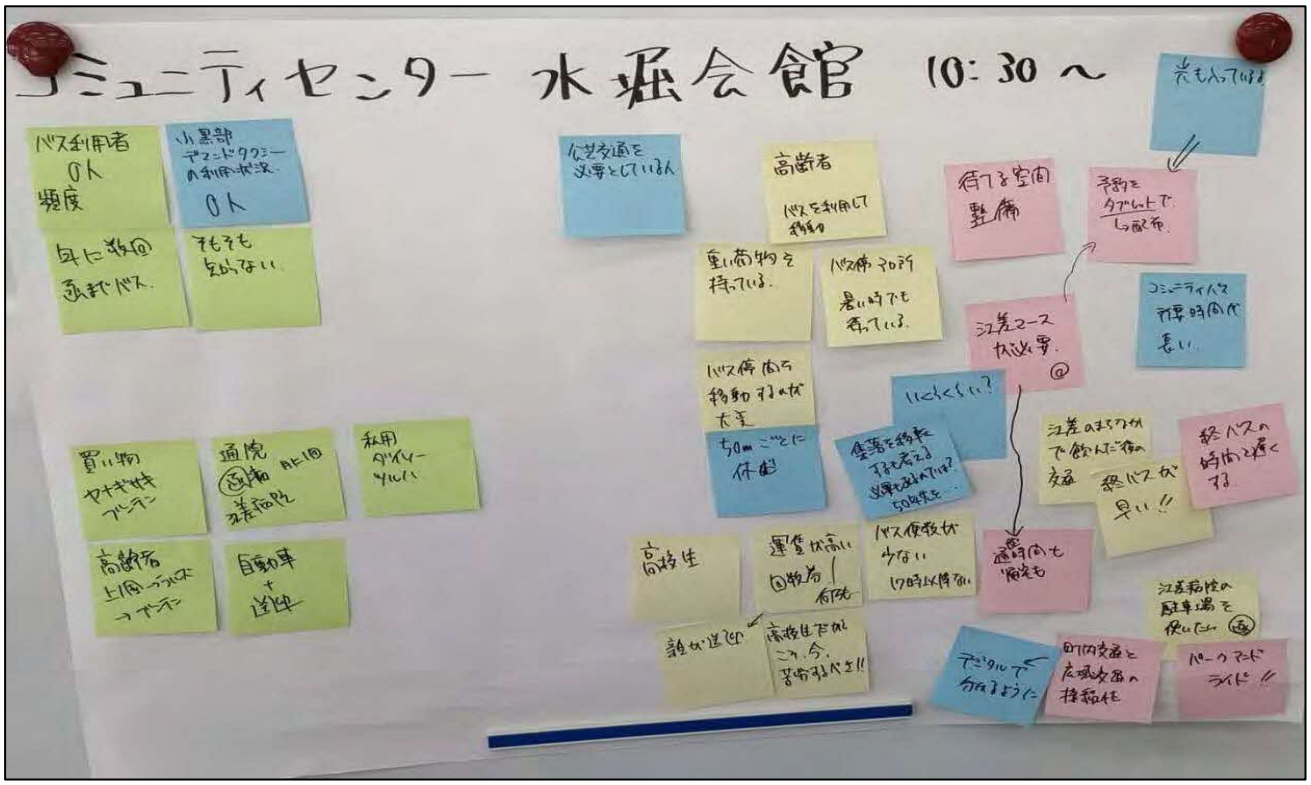
(II)-iv 町民が使いたいと思える生活移動支援策

・路線バスのフリー乗降の実施
・低床車両での運行

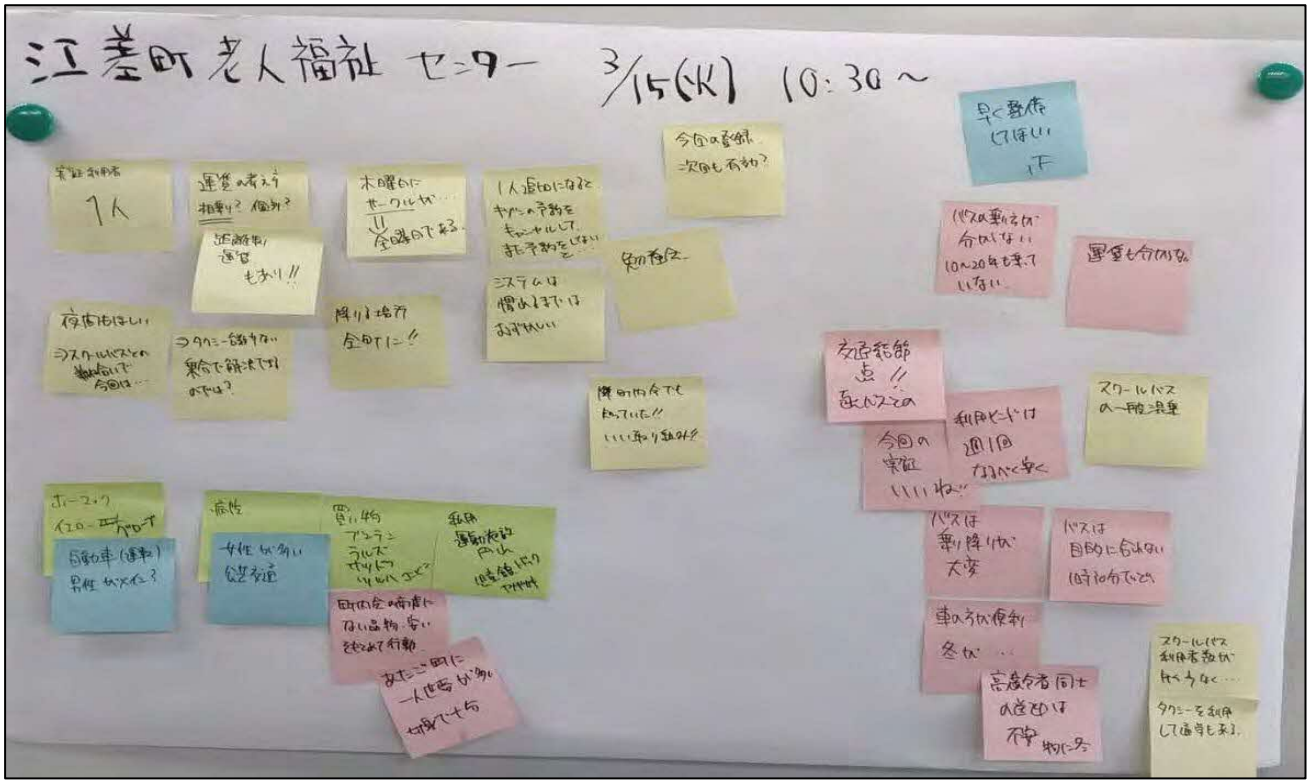
５.３　町民意見交換会結果詳細

（I）令和３年度

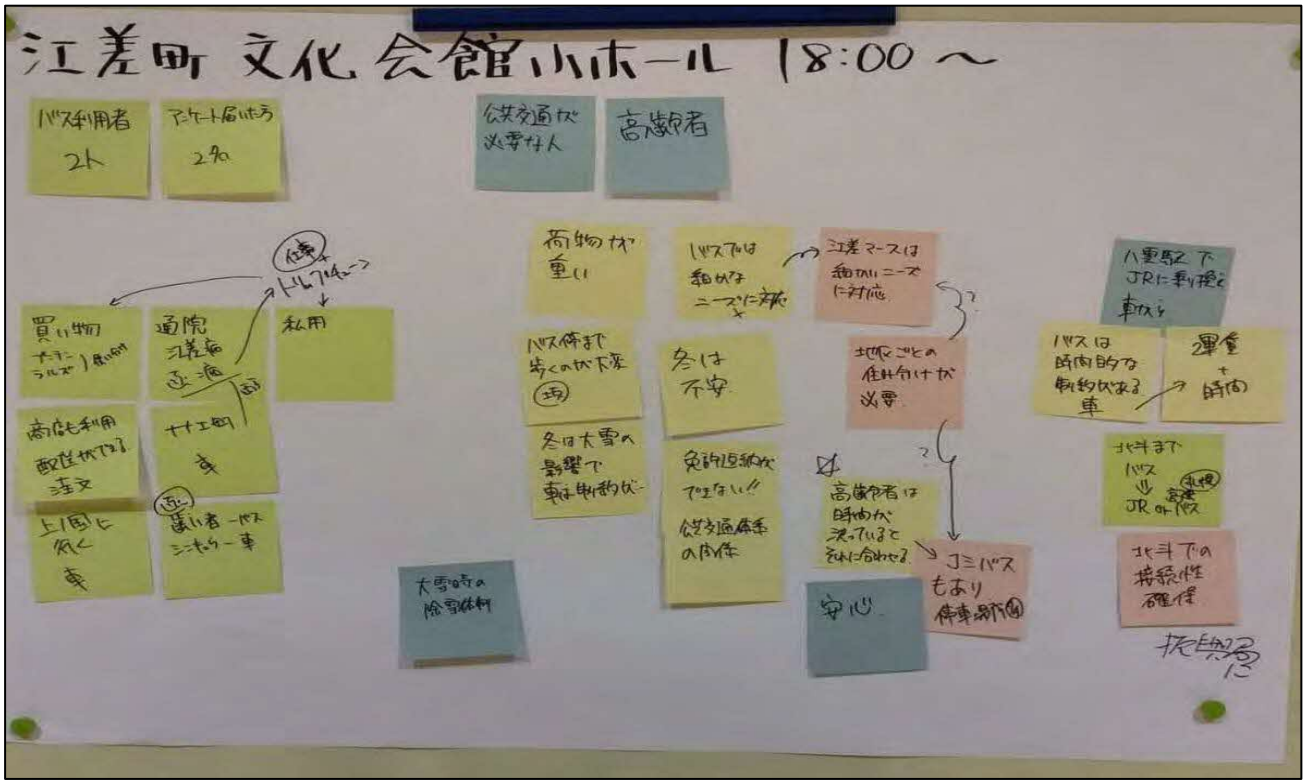
(I)-i コミュニティセンター水堀会館



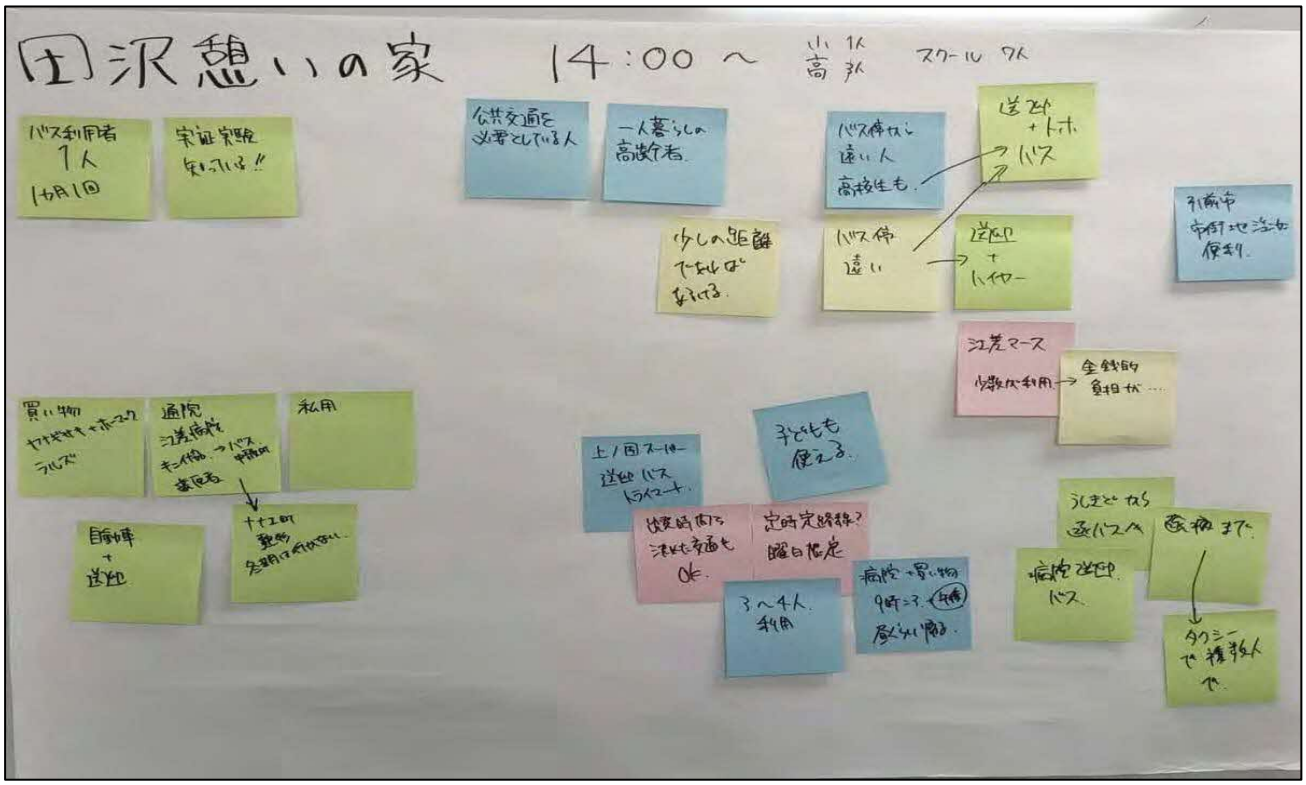
(I)-ii 江差町老人福祉センター



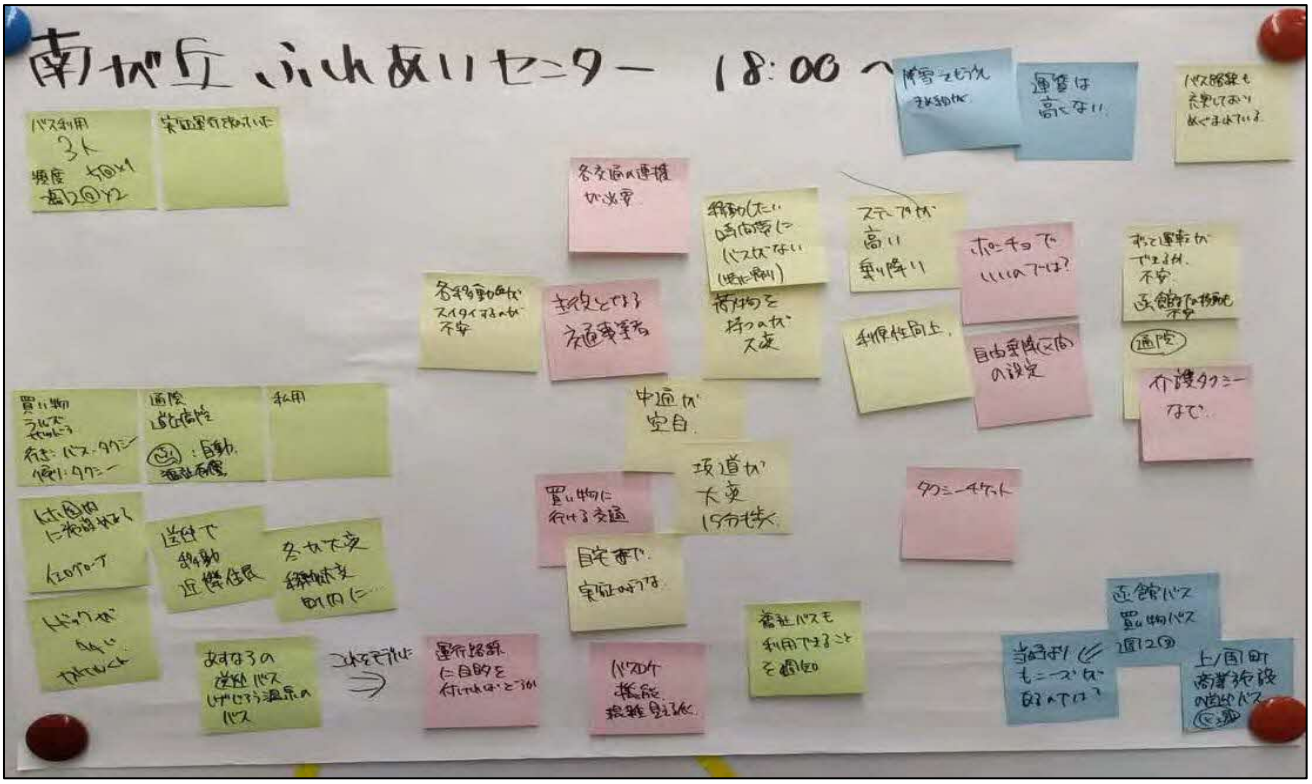
(I)-iii 江差町文化会館小ホール



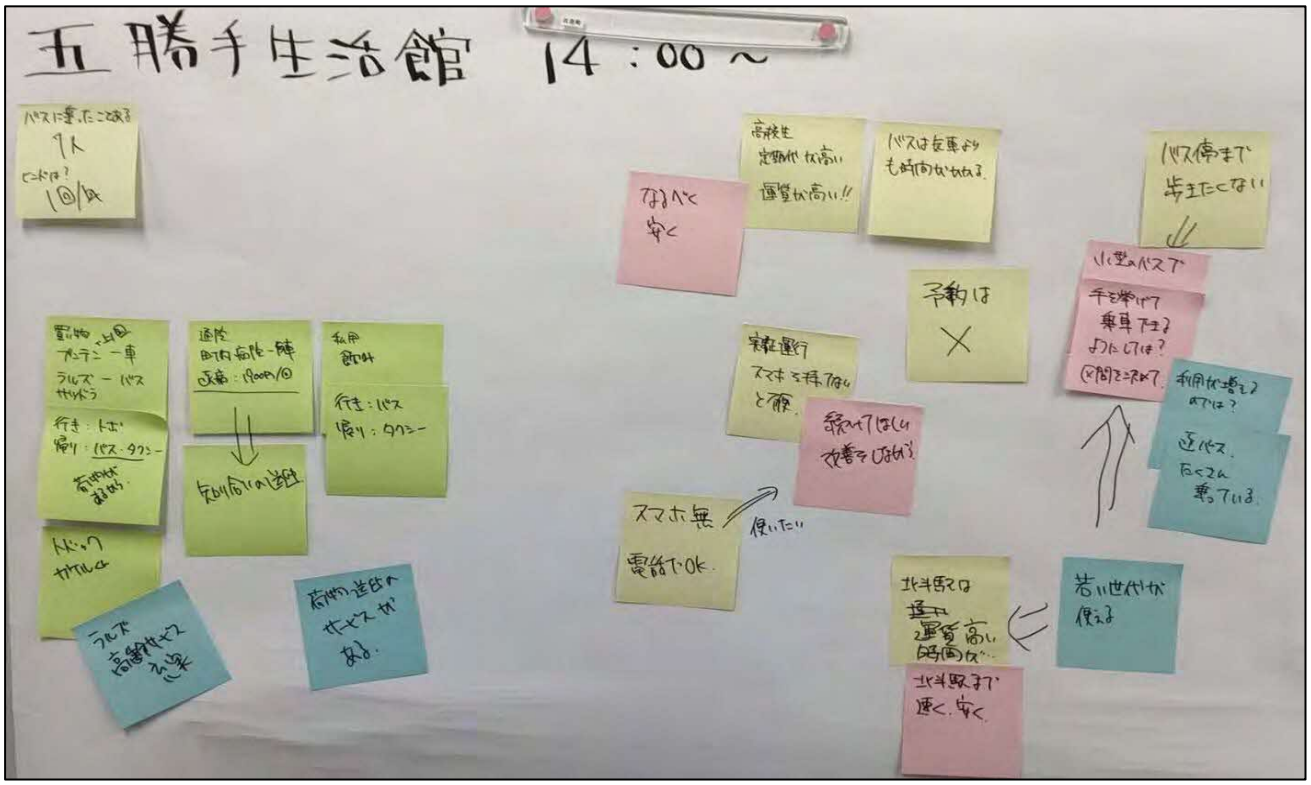
(I)-iv 田沢憩いの家



(I)-v 南が丘ふれあいセンター

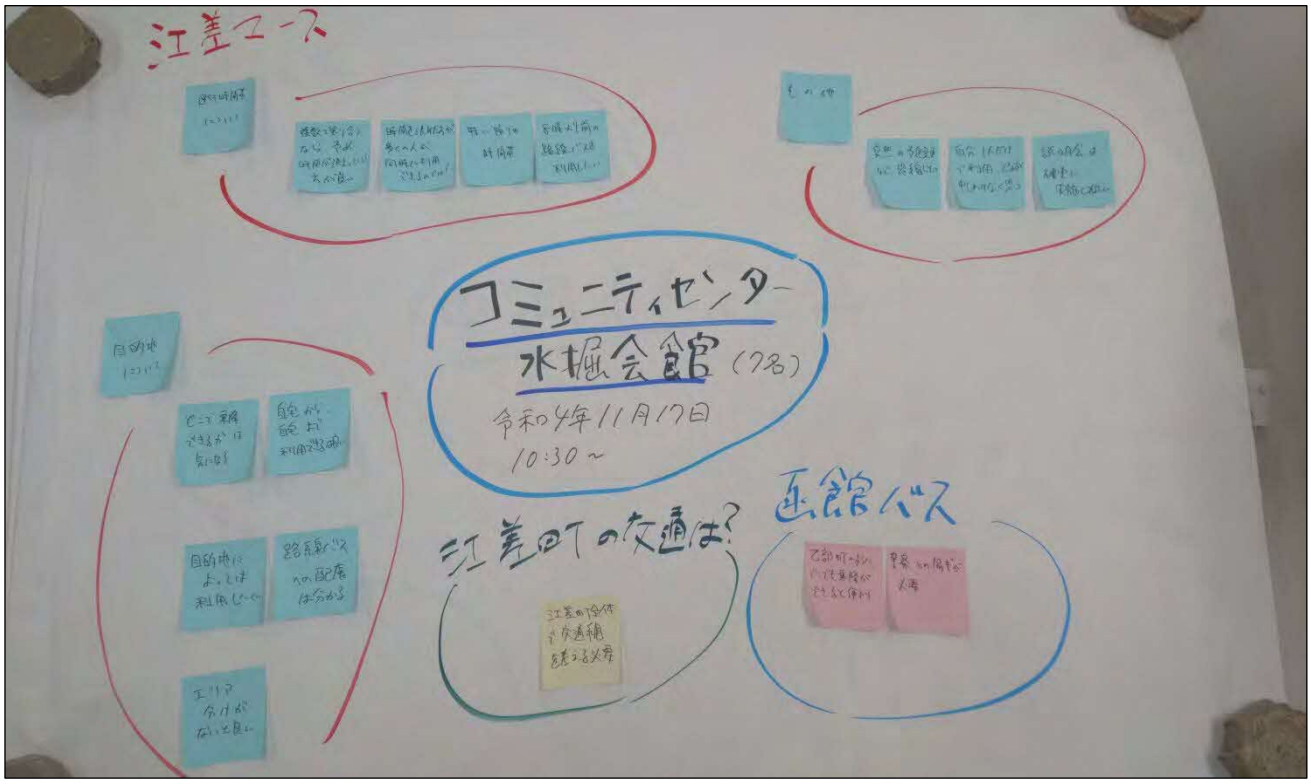


(I)-vi 五勝手生活館

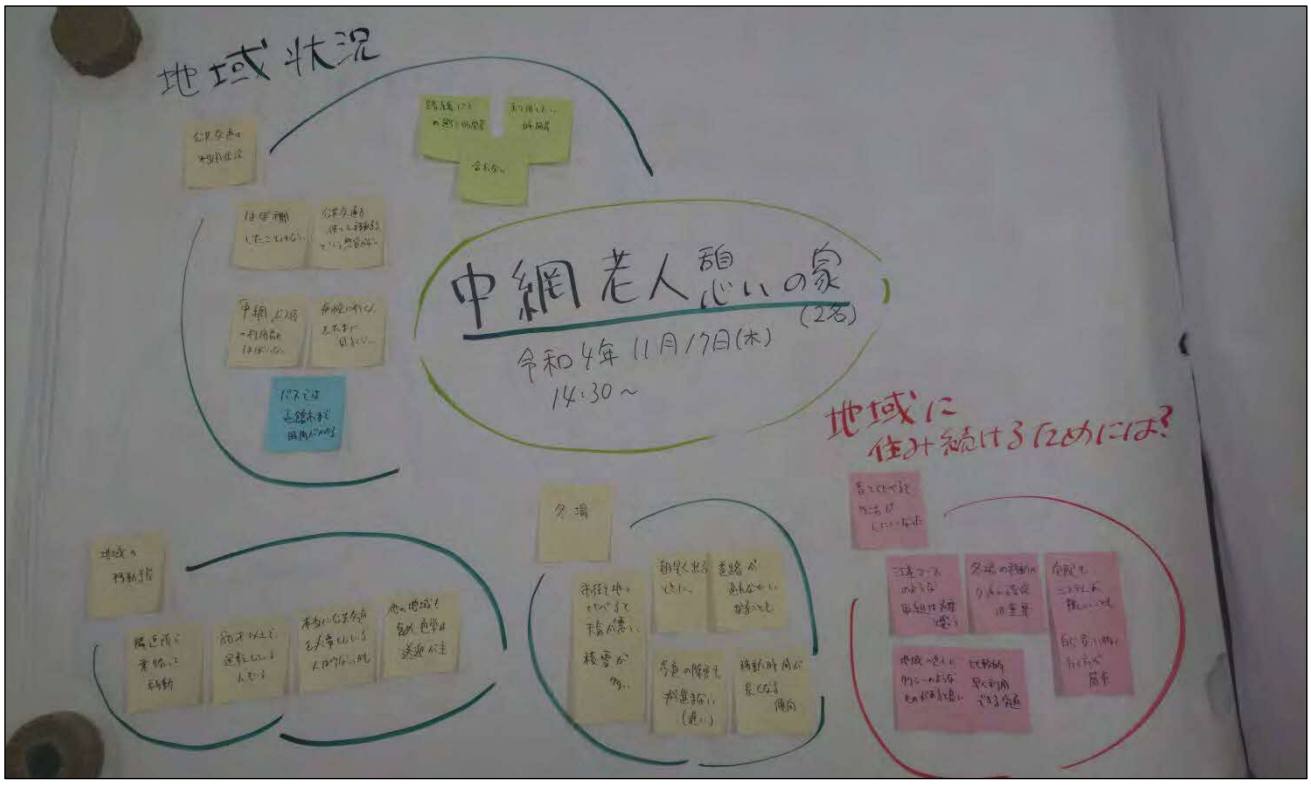


（II）令和４年度

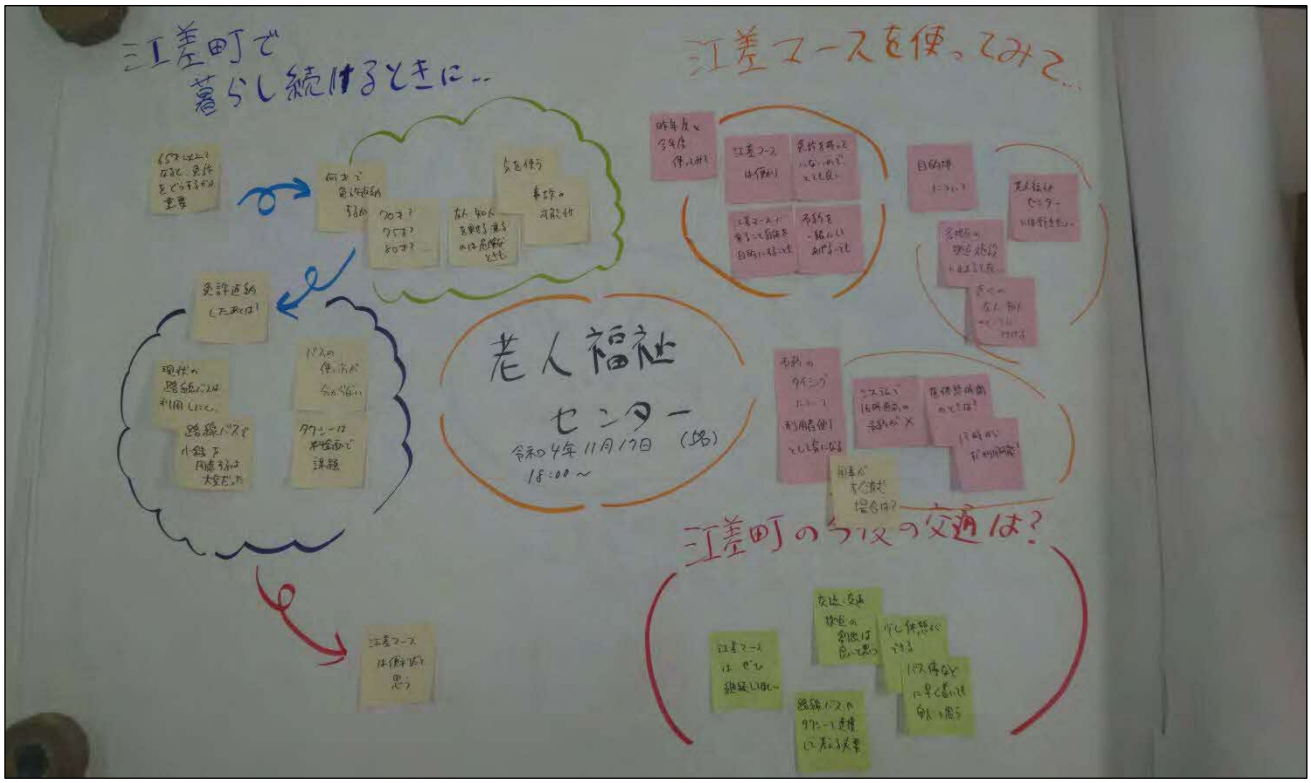
(II)-i コミュニティセンター水堀会館



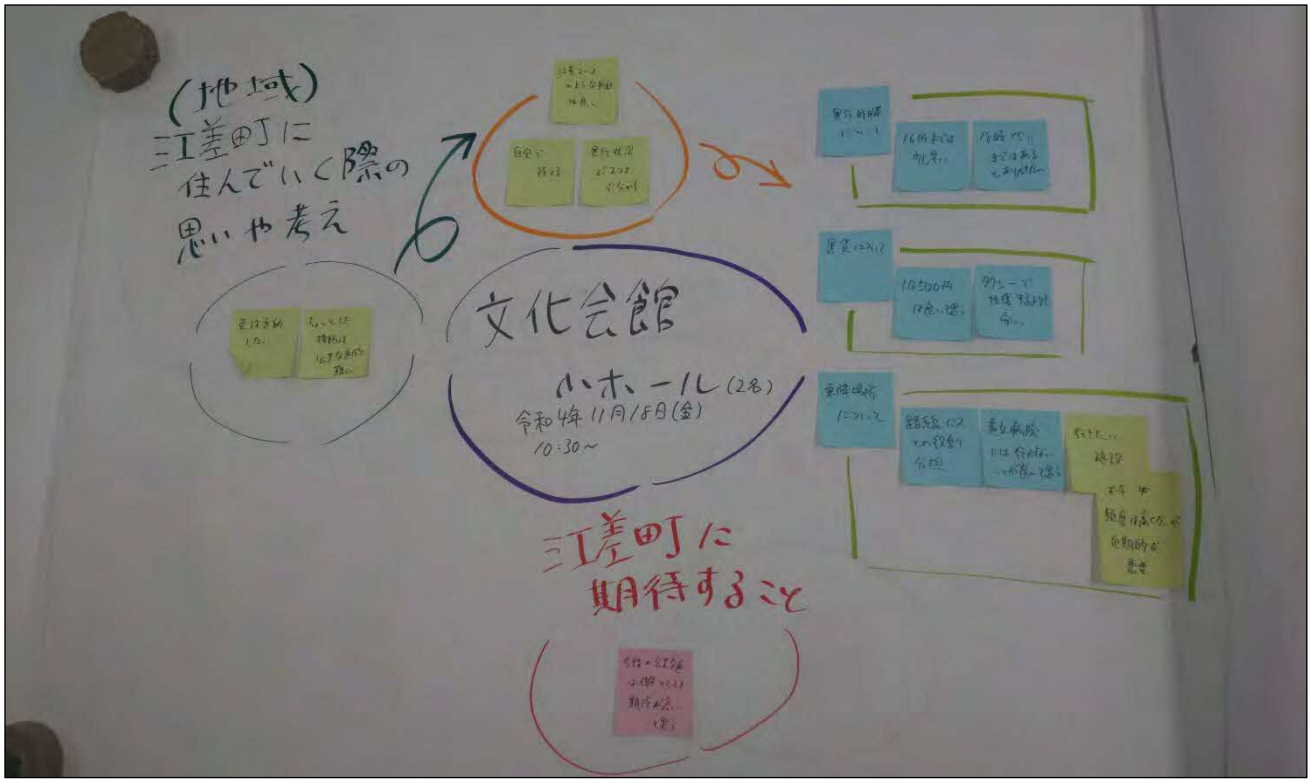
(II)-ii 中網老人憩いの家



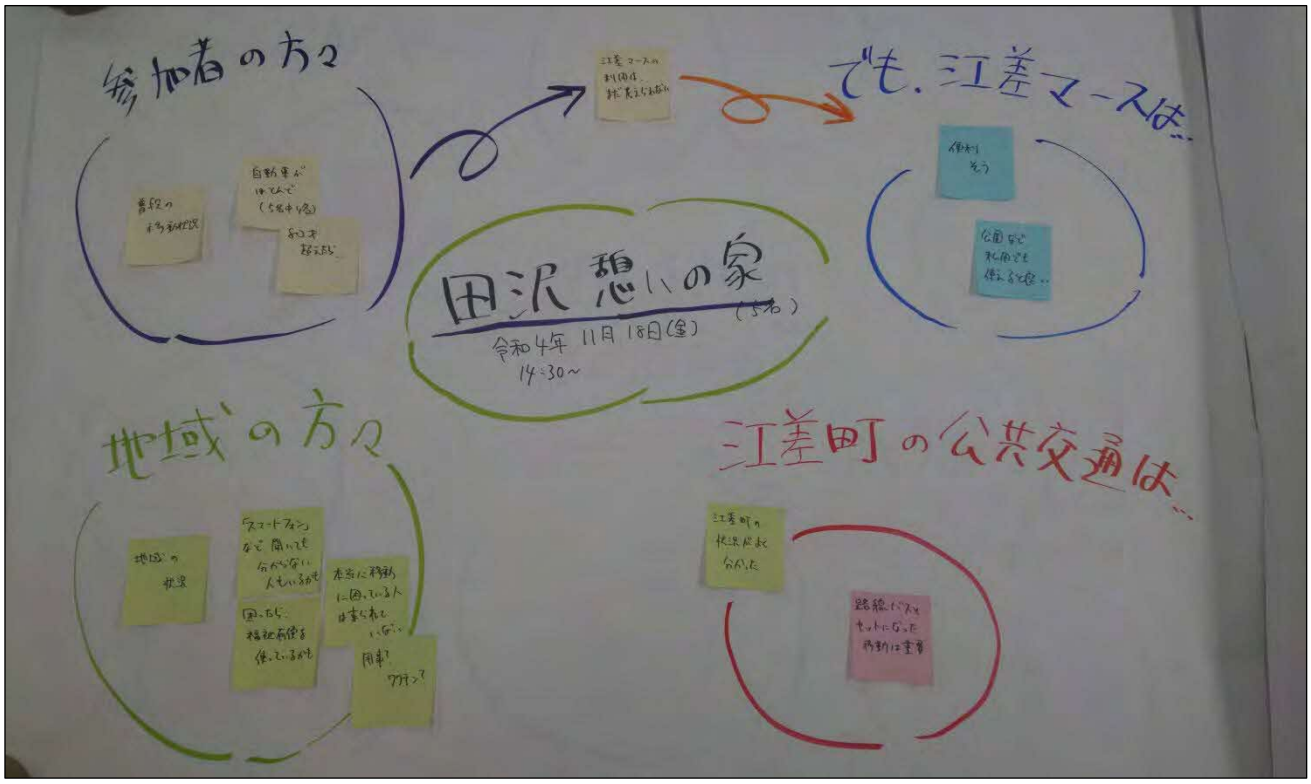
(II)-iii 江差町老人福祉センター



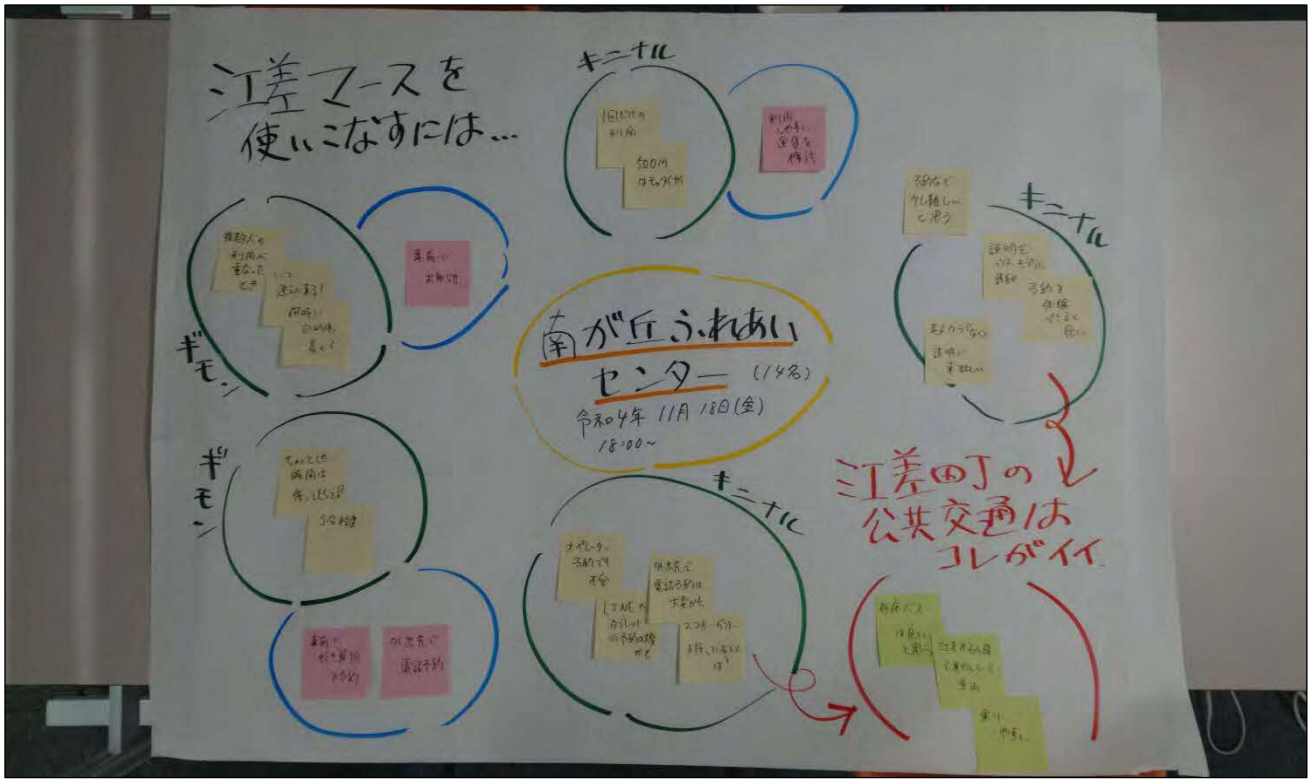
(II)-iv 江差町文化会館小ホール



(II)-v 田沢憩いの家



(II)-vi 南が丘ふれあいセンター



第６章　関係者ヒアリング

江差町地域公共交通活性化協議会用資料

関係者ヒアリングの結果

目次

1．　関係者ヒアリングの概要 ・・・・ 2
1-1　実施目的 ・・・・ 2
1-2　実施日程・場所・対応者 ・・・・ 2
2．　関係者ヒアリング結果のまとめ ・・・・ 3
2-1　町内を運行する移動手段と利用者属性の整理及び課題整理 ・・・・ 3
3．　関係者ヒアリング結果の詳細 ・・・・ 4
3-1　江差町高齢あんしん課 ・・・・ 4
3-2　江差町社会福祉協議会 ・・・・ 4
3-3　江差町町民福祉課 ・・・・ 5
3-4　江差町追分観光課 ・・・・ 5
3-5　江差町教育委員会学校教育課 ・・・・ 6
3-6　ヘルパーステーションゆいっこ ・・・・ 6
3-7　特定非営利活動法人南桧山在宅福祉支援ゆい ・・・・ 7
3-8　ハートランドフェリー株式会社 ・・・・ 7
3-9　函館バス株式会社江差営業所 ・・・・ 8
3-10　有限会社桧山ハイヤー ・・・・ 8
3-11　町立保育園 ・・・・ 9
3-12　道立江差病院 ・・・・ 9

1

６.１　関係者ヒアリングの概要

１．関係者ヒアリングの概要

1-1　実施目的

・江差町地域公共交通計画を策定していく上で、町内を運行する各種交通資源に係る関係者の**現状及びニーズを把握**することを目的に、関係者ヒアリングを実施

1-2　実施日程・場所・対応者

分類	開催日	場所	対応者	
庁内関係部署	令和4年5月17日（火）	江差町役場	江差町高齢あんしん課	三好課長、畑主幹、明上主任、金澤保健師、畑主任、野口主事
		江差町社会福祉協議会	江差町社会福祉協議会	中島事務局長
	令和4年8月16日（火）	江差町役場	江差町町民福祉課	竹内課長、兵庫谷主幹
		江差町役場	追分観光課	畑課長、浅見事務局長
		江差町役場	学校教育課	西山主幹、関田校長
交通事業者	令和4年5月17日（火）	ヘルパーステーションゆいっこ	ヘルパーステーションゆいっこ	奈良管理者
	令和4年5月18日（水）	特定非営利活動法人南桧山在宅福祉支援ゆい	特定非営利活動法人南桧山在宅福祉支援ゆい	小野寺理事長
		ハートランドフェリー株式会社江差支店	ハートランドフェリー株式会社	佐藤支店長、佐野課長
		函館バス株式会社江差営業所	函館バス株式会社	横山係長、寺澤所長代理
		有限会社桧山ハイヤー	有限会社桧山ハイヤー	菊池部長
その他	令和4年8月16日（火）	江差町役場	かもめ保育園	竹内課長、矢口副園長
	令和4年8月17日（水）	江差町役場（WEB会議）	道立江差病院総務課	成田主任

2

６.２　関係者ヒアリング結果のまとめ

2．関係者ヒアリング結果のまとめ

2-1　町内を運行する移動手段と利用者属性の整理及び課題整理

○：利用可能 △：利用制約の可能性有 ×：利用不可or利用しない	学生	一般	高齢者	要介護 ・要支援	観光客	奥尻町民	課題
路線バス	○	○	○	△	○	○	・坂道等の関係でバス停までのアクセスが困難 ・町外移動においては、運行距離が長く、所用時間が長いため、通学利用は困難 ・フェリーとの乗継時間が長い ・乗務員不足
ハイヤー	○	○	○	△	○	○	・路線バスと比較して運賃が高い ・乗務員不足
福祉有償運送	×	×	×	○	×	×	・運賃が安く、事業継続が困難 ・担い手不足の関係から運営継続が困難
おでかけサポート事業	×	×	×	○	×	×	-
フェリー事業	○	○	○	△	○	○	・奥尻町内の宿泊施設の不足 ・燃料高騰などにより、運営維持が困難
課題	・路線バスの定期券代が高いなどの影響から家族が送迎を実施	・自家用車への依存が強く、公共交通利用に繋がらない	・非運転者の足の確保	・福祉有償運送等の制度に対する理解度の向上	・町内観光施設へのアクセスが不便な施設も存在	・江差町内での公共交通の移動が待ち時間等の関係から不便	■江差町地域公共交通計画におけるターゲット ・学生 ・高齢者 ・観光客 ・奥尻町民

3

６.３　関係者ヒアリング結果の詳細

３．関係者ヒアリング結果の詳細

3-1　江差町高齢あんしん課

■実施事業について
・高齢者交通費助成事業（６５歳以上の高齢者、特定医療費受給者）
・高齢者等外出支援サービス事業（６５歳以上の要介護もしくは要支援）
・福祉バスの運行（老人クラブや町内会、福祉関係の研修などの団体）
・ぬくもり保養センター無料送迎バス（６５歳以上の高齢者）

■事業実施に係るリソースについて
・福祉バスの運行で２台のバス車両を保有（20人乗り1台、40人乗り1台）
・運転手は高齢者事業団（６０歳以上の高齢者）で運行
・このほか、６５歳以上を対象とした「がっつり運動教室」や「いきいき健康教室」で送迎を実施

■町民から挙がっている移動に関する要望について
・福祉有償運送は夜間営業を行っていないので、緊急対応の面からもハイヤー事業者の確保は町として必要
※ハイヤー事業者の営業時間：深夜２時まで
・生活支援体制整備事業では、一番の課題として「移動」が挙がった
・地域住民間での運送の話も挙がっているが、体制構築が課題

3-2　江差町社会福祉協議会

■福祉有償運送について
・要介護を対象に実施
・運転手は、訪問介護員（国土交通省の認定）、他、中島事務局長、高齢者事業団１人
・町内移動のみを対象

■おでかけサポート事業について
・おでかけしづらい高齢者等の方を対象に、商業施設で買い物などができる支援を実施
・家から出ていただいて、元気を継続することを目的

■福祉有償運送及びおでかけサポート事業の継続に向けて
・福祉有償運送の運賃（片道150円）だけでは、福祉有償運送単独では事業継続が難しく、他事業との絡みで継続させている
・おでかけサポート事業の事業継続に向けては、ボランティアを募集するなど、人員確保が必要
→江差高校の学生と連携して、高校生がボランティア活動を実施

4

３．関係者ヒアリング結果の詳細

3-3　江差町町民福祉課

■実施事業について
・在宅で重度の身体・知的障がい者の方を対象に、障害者等福祉タクシー利用助成事業を実施
・タクシー１回の乗車につき５枚まで使用できる利用券（５００円）を１年間に６０枚を限度に交付
・この他、公共交通運賃の障がい者割引も実施

■福祉タクシー事業について
・主な利用目的は買い物・通院など様々、町外への利用時のみ、医療機関に限定
・町内のタクシーだけでなく、近隣町のタクシー会社や介護タクシーも利用できる制度

■町民から挙がっている移動に関する要望について
・江差マースは移動の重要なツールとなり得るため、地域公共交通の検討の際には、対象エリアや運行ルートなどの設定が重要
・地域福祉計画策定の際のアンケートから、約３割の方は「身近な交通手段がないこと」を江差町の問題点として認識している

3-4　江差町追分観光課

■町内の観光動態について
・７月～９月は、各種祭りの開催により入込客数が多く、４月～９月までの上半期で年間入込客数の９割を占める
・下半期は、ほとんど観光客の宿泊がないため、工事関係者が主な宿泊層
・上半期は、かもめキャンプ場やマリンレジャー体験などの企画はあるが下半期は、企画検討段階

■奥尻町民の移動状況
・江差ターミナルにセカンドカーを置いている方が多い
・主な行き先は、函館市

■観光に係る移動について
・新幹線開通後から、道外観光客が増え、全体の４割程度
・新幹線の場合、新函館北斗駅が発着地
・江差町までの基本的な移動は、自家用車もしくはレンタカー
・祭り開催期間は、バス利用が一部みられることもある
・かもめキャンプ場周辺には、買い物施設や入浴施設がないため、一定の移動需要があると思われる
・上町の施設には駐車場が少なく、購買機会を逸している可能性
・ライドシェアサービスのようなものも有効

5

３．関係者ヒアリング結果の詳細

3-5　江差町教育委員会学校教育課

■スクールバスについて
・函館バス及び桧山ハイヤーに運行を委託
・町内３方面（朝日、日明、柳崎）に１日３便の運行を基本としている
・また、学休日には部活動バスも運行している
・以前は部活動便を一般バス路線で代替していたが、利用者数減により、活用がなくなった
・停車場所は基本的には函館バス停留所を活用しており、場所によってはスクールバス用の停留所を設置している

■一般混乗の実施可能性について
・スクールバスの空席が少なく、ダイヤ的にも難しいと思われる
・スクールバスへの一般混乗よりも、一般バス路線に小中学生を同乗させるやり方が他自治体の事例としてあるが、生徒たちの通学時間に合ったダイヤ編成が可能かどうかが難点

■町内の学校の状況について
・江差小、江差北小（全校４５人）、南が丘小の３校
・当初は江差北中学校のスクールバスからスタートし、現在は小学校まで拡大
・江差北小学校近くの信号は、自動車の抜け道になっており、速度を出す自動車が多く危険

3-6　ヘルパーステーションゆいっこ

■福祉有償運送について
・要介護１以上及び障がい認定の方を対象
・運転手は国土交通省の認定を受けて、運行を実施（運転手数は、６人（うち主には３人））
・保有車両台数は、２台（セダン（車いすを積めるようにしている）、軽自動車）
・町内移動のみを対象

■福祉有償運送の継続に向けて
・ガソリン代や賃金の高騰で、なかなか厳しい運賃設定（片道150円）のため値上げの可能性を要検討

■町民から挙がっている移動に関する要望について
・病気になった際に、バスで移動するわけにはいかないので、福祉有償運送もしくはハイヤーのようなドアツードアの移動手段が必要

6

３．関係者ヒアリング結果の詳細

3-7　特定非営利活動法人南桧山在宅福祉支援ゆい

■福祉有償運送について
・登録者105人で、通院目的がほとんど（町内だと道立病院、歯科医院）
・要介護及び障がいの方を対象（単身世帯、女性、要介護者が多い）
・運転手４人（50代１人、60代２人、70代１人）
・保有車両数４台（軽自動車、運転手個人の車両）
・町内及び町外への移動も対象
・コロナワクチン接種や繁次郎温泉などの移動手段としての利用もあり

■福祉有償運送の継続に向けて
・道立病院は片道800円、町内は片道400円、函館方面は往復7,500円による一律運賃の設定であるが、他の事業者では距離制での運賃設定としているケースが多く見受けられるため、値上げの可能性を要検討
・車の維持費などが高く、今後の継続性に不安がある
・運転手の高齢化なども深刻化しており、事業継続が不安
・上記の不安事を含め、江差マースの取組が本格化すると、解消の手立てになると考えている

3-8　ハートランドフェリー株式会社

■フェリー事業について
・利用者数は新型コロナウイルス感染症の影響により激減（2019年で54,540人の利用が、2021年で38,587人）
・利用者減少の主な利用者は、一般客
・フェリー事業の主な利用は、奥尻島民の買い物や通院
→離島割引により、島民が現金支払いで半額で利用可

■フェリー事業継続に向けて
・燃料費の高騰による運航経費の圧迫
・島内宿泊施設の不足による観光利用の低迷
・島内の観光地としての整備不足

■江差MaaSの実装化に向けた既存交通との連携
・バスとフェリーの接続が悪く、待ち時間が長いことから、その補完として、江差MaaSには期待をしている
・江差町が奥尻島民の買い物場所として活性化することを期待している
→現状は島民がフェリー乗り場に自家用車を駐車し、島民同士でカーシェアを行っているが、島民の高齢化により今後も継続するかは見通しが不安定

7

３．関係者ヒアリング結果の詳細

3-9　函館バス株式会社

■江差営業所管轄の路線について
・新型コロナウイルス感染症による影響に加え、人口減少の影響もあり、路線バス利用者は減少の一途を辿っている
・江差営業所管轄の路線は、ポンチョクラスの車両でも対応可能

■広域交通について
・江差営業所管轄の広域路線について、運行キロが長大となっており 、ハブ化などによる路線の短絡化が必要
→函館方面では、新函館北斗駅のハブ化が考えられる

■江差MaaSへの協力体制について
・江差MaaSへの協力について営業所としては協力をさせていただきたい
・電話予約等の協力も可能
・商業施設の売り出し関係をバス車内に掲示するなども可能

3-10　有限会社桧山ハイヤー

■ハイヤー事業について
・小型車両５台、９名乗り車両２台　計７台を保有
・運転手は６名（正規外は０人、大型 ２種保有者は２名）
・営業時間は７時から深夜２時まで

■その他事業について
・江差北中学校のスクールバス（部活対応のみ、登下校は人数が多く函館バスで対応）運行事業を実施

■ハイヤー事業の継続に向けて
・小型車両の多くは、札幌医大の先生の送迎で手一杯であり、小型 車両１～２台で町内移動を賄っている状況
・運転手が不足しており、利用者が増加した段階で、対応が困難になる恐れ

■町民から挙がっている移動に関する要望について
・固定客が多く、利用者からの要望はない
・観光客利用は、ほぼない（開陽丸付近の利用が多く、ハイヤー利用にはつながっていない）

■江差MaaSへの関わりについて
・桧山ハイヤーなどの交通資源、商業施設等の経済循環を踏まえて、江差町としての交通体系の規模を検討していく必要がある
・ジャンボハイヤー車両の日中時間帯の空き時間を活用して、運行は可能
→当初はスモールスタートとして、週１～２回程度の運行でも良いのではないか
・運転手確保が厳しいので、個別の対応は難しい
→乗合交通として、実施が望ましい
→また、委託料金の固定型ではなく、運賃メーターによる精算で行うと、町側としても余計な経費がかからない

8

３．関係者ヒアリング結果の詳細

3-11　町立保育園

■通園時の交通手段について
・親の送迎がほとんどで、１世帯で自家用車を２台持っていることも少なくない
・たまに、祖父母が送迎していることもある
・朝は８時３０分頃、帰りは１７時くらいに集中している
・通園時の交通手段について、特に要望は挙がってない

■江差町及び周辺自治体の子育て環境について
・町内には保育園が３箇所、認定こども園が１箇所、病院内保育１箇所の計５箇所の施設がある
・厚沢部町や上ノ国町から通園している家庭もある

3-12　道立江差病院

■通院者の状況について
・午前中に診療を終わらせたい通院者が多いため、７：５０～１０：３０の時間帯に集中する傾向
・１日でおよそ１６０人の通院者が来ていると想定され、８割近くが午前中の診療を受けている

■通院時の交通手段について
・バスで来ている方は、診察開始時間よりも早く来ていることが多い
・バスでの通院は帰りの時間帯が合わず、診察が終わってから２時間以上待つケースもある
・タクシーも含め公共交通で来ている方は全体の３～４割くらいと想定される

■江差MaaSへの関わりについて
・病院という性格上、患者の情報と地域共通アプリとの整合性を保つことは、非常に重要なため、診療予約での活用に向けては十分な検討、協議が必要
・次回診察日と配車予約と連動があると便利
・乗り合い交通だと、病院側で来てほしい時間に来られない可能性があるため、医療面に配慮したシステム等が必要と思っている
・仮に連携する場合には、患者名の誤りなどの取り間違えは絶対に発生しないようにする必要がある

■町民から挙がっている移動に関する要望について
・公共交通の時間に合わせたいため、診察時間などの調整を求められることがある
・上ノ国町の透析患者は通院時に時間が合わないなど不便を感じている
・朝の時間帯はバス利用者が多く、座席に座れないことが多い

9

江差町地域公共交通計画【資料編】

令和５年４月　初版発行

発行：　北海道江差町
作成：　江差町地域公共活性化協議会

〒043-8560
北海道檜山郡江差町字中歌町 193 番地 1
TEL：　0139-52-6712（直通）
FAX：　0139-52-0234（代表）